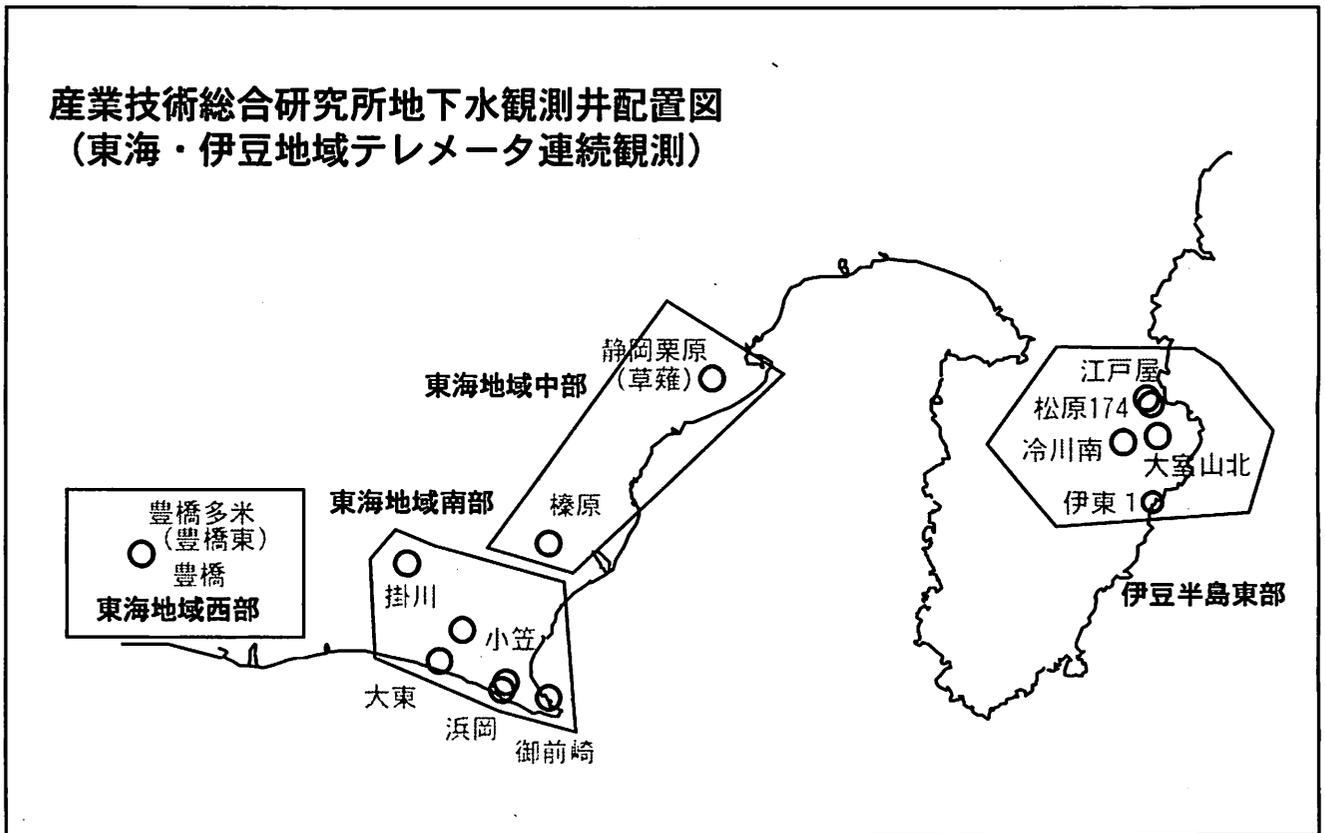


東海・伊豆地域等の地下水観測結果

産業技術総合研究所地下水観測井配置図
(東海・伊豆地域テレメータ連続観測)



【資料目次】

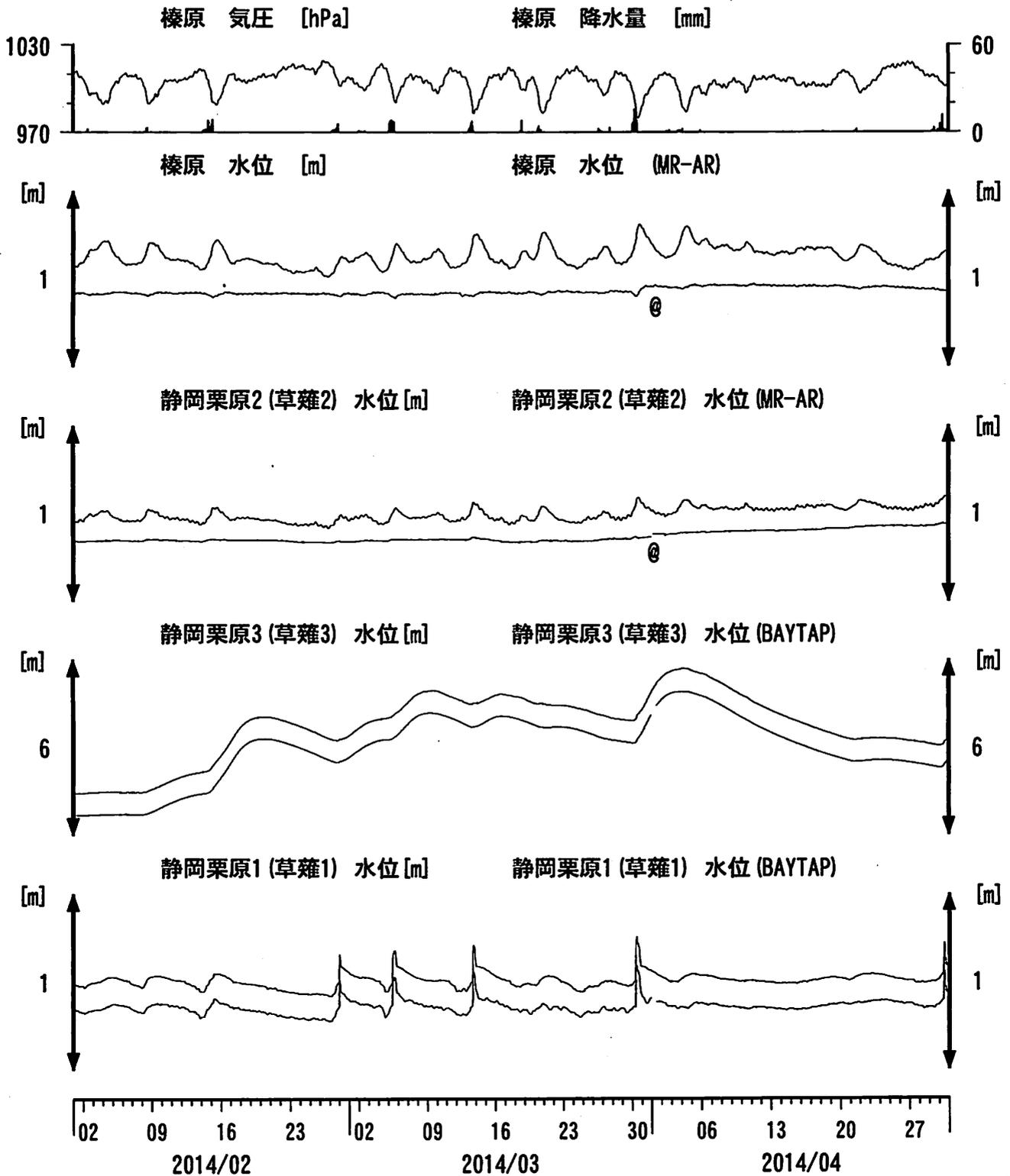
表紙

1. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原(草薙)] 地下水; 中期
2. 東海地域中部 [榛原, 静岡栗原(草薙)] 地下水; 長期
3. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水; 中期
4. 東海地域南部 [大東, 小笠, 浜岡, 御前崎] 地下水; 長期
- 4-b. 東海地域南部 [浜岡] 地下水・沈下; 長期
- 4-c. 東海地域南部 [掛川] 地下水・沈下; 長期
5. 東海地域西部 [豊橋, 豊橋多米(豊橋東)] 地下水・歪・傾斜; 中期
- 5-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等; 中期
6. 東海地域西部 [豊橋・豊橋多米(豊橋東)] 地下水・歪・傾斜; 長期
- 6-b. 東海地域西部 [豊橋多米(豊橋東)] 歪等; 長期
7. 伊豆半島東部 [松原174, 江戸屋, 大室山北, 冷川南, 伊東1] 地下水; 中期
8. 伊豆半島東部 [松原174, 江戸屋, 大室山北, 冷川南, 伊東1] 地下水; 長期
9. 関東地域 [つくば1] 地下水; 中期
10. 関東地域 [つくば1] 地下水; 長期

別紙

- ・榛原・浜岡の降雨グラフ
- ・豊橋多米の地殻歪の長期変化

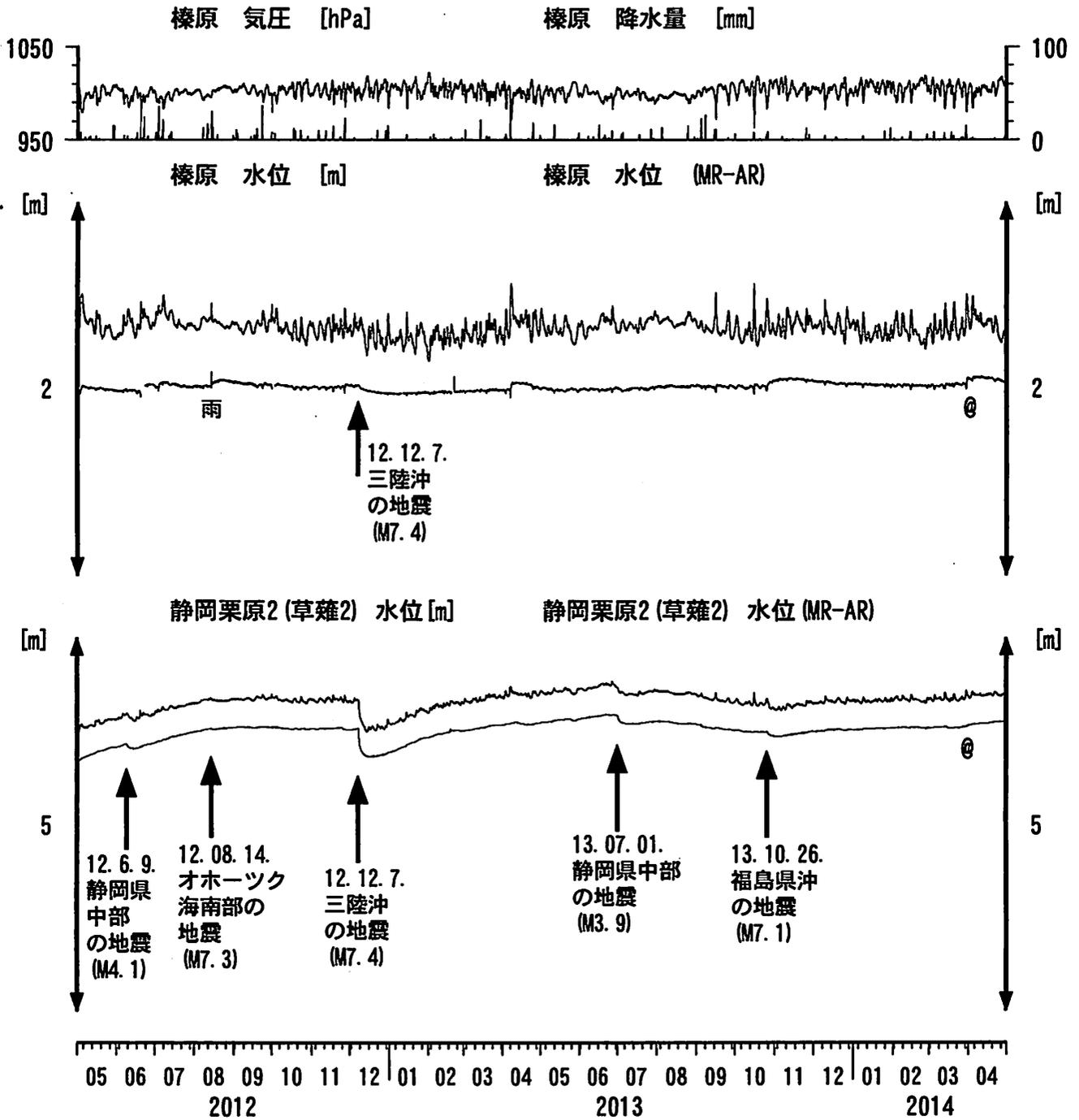
東海地域中部（榛原・草薙）中期（時間値）
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



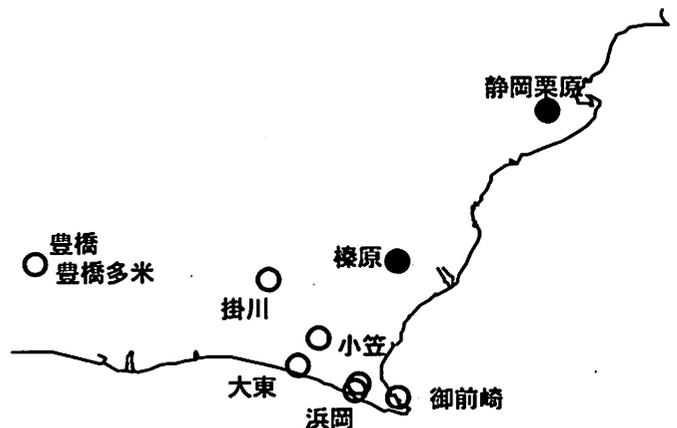
コメント：*;雨量補正不十分。\$;保守。
 @;月初めの補正值のギャップは、
 解析プログラムの見かけ上のものである。
 静岡栗原1の水位が降雨時に上昇するのは
 井戸口から雨水が流入するためと
 考えられる。



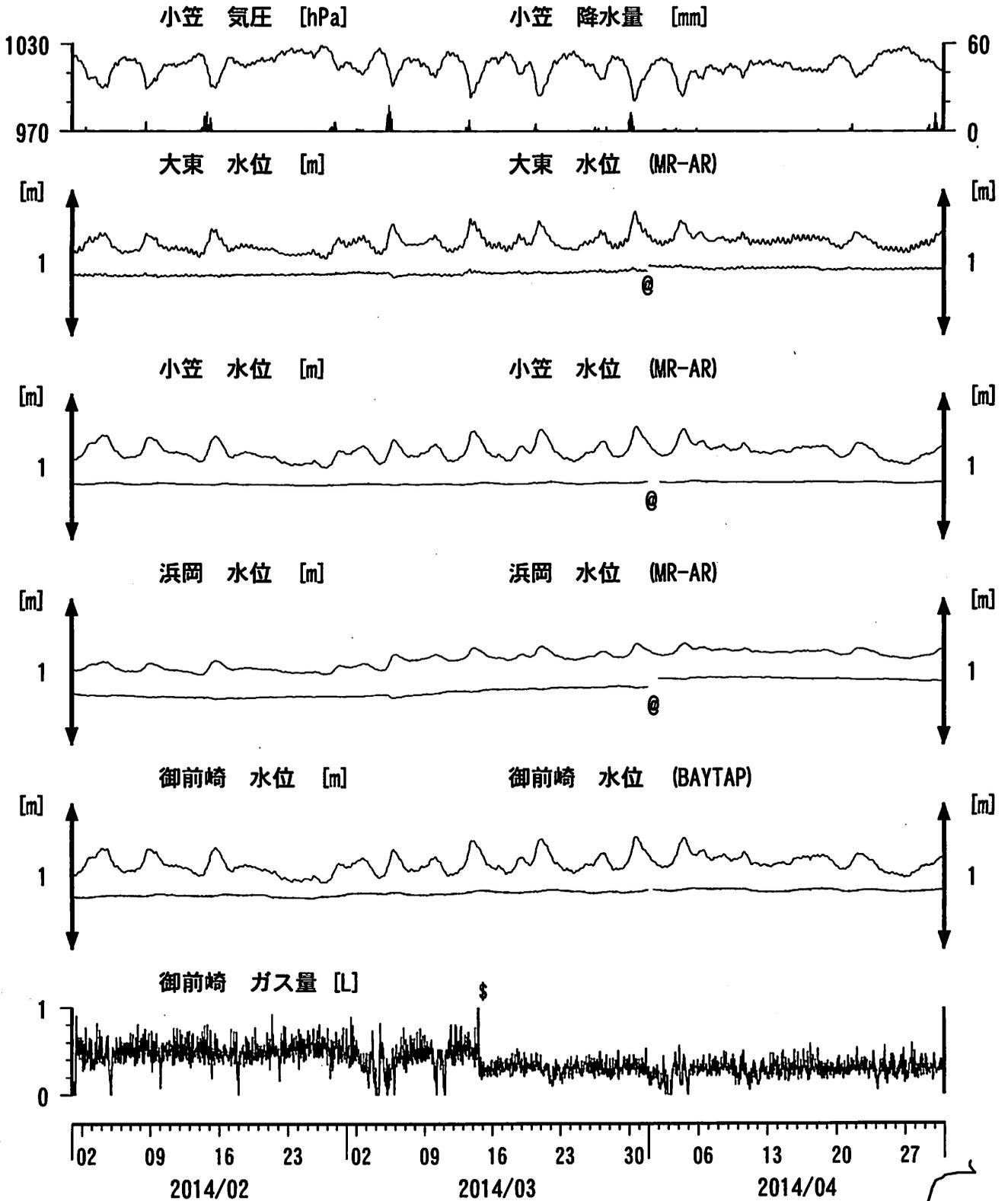
東海地域中部（榛原・草薙）長期（時間値）
 (2012/05/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



コメント：*;雨量補正不十分。?;原因不明.



東海地域南部 地下水観測結果 中期 (時間値)
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



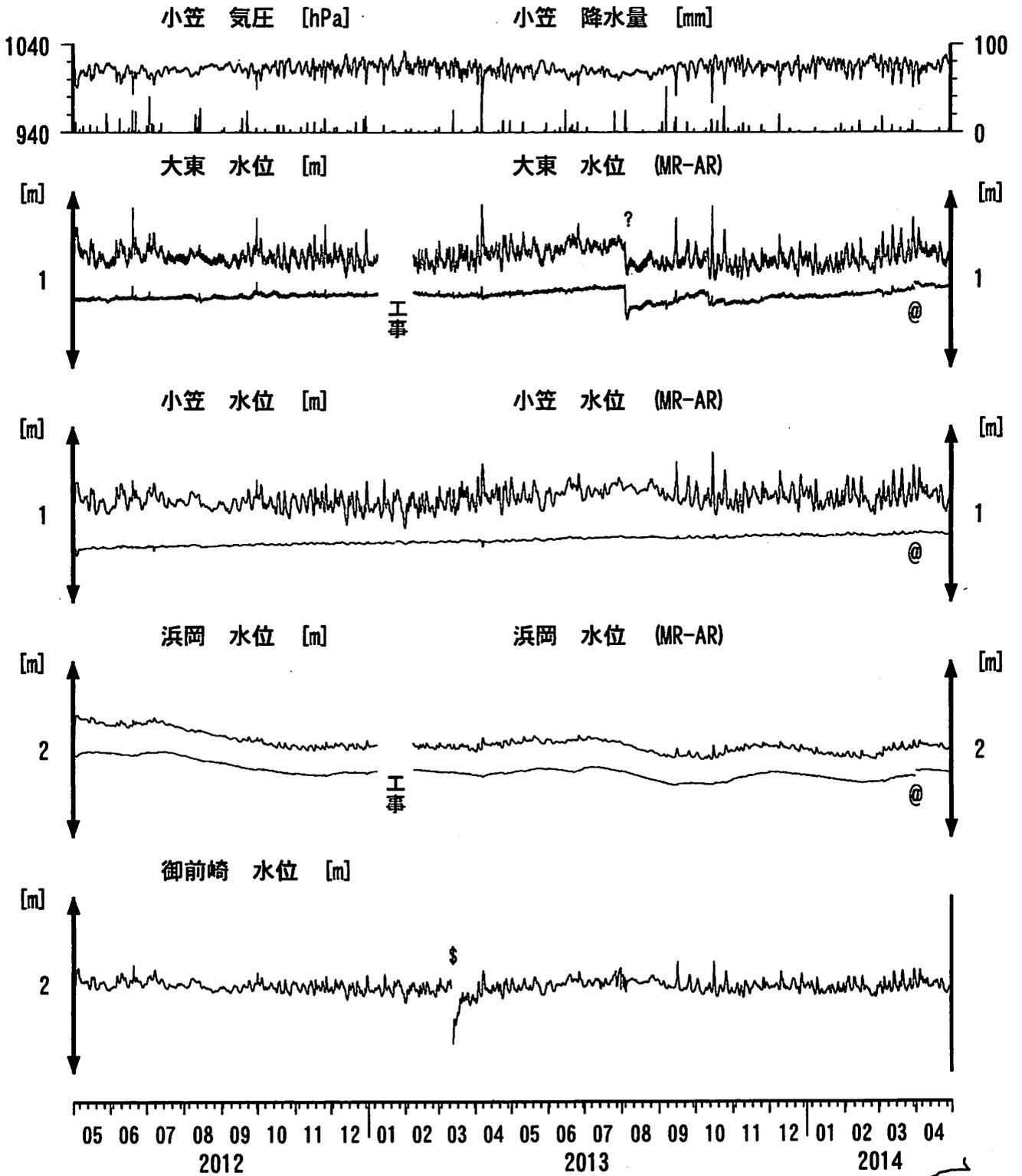
コメント:

*:雨量補正不十分, \$:保守. ?:不明.

@:月初めの補正値のギャップは,
 解析プログラムの見かけ上のものである.
 2013年7月6日に御前崎のガス流量計が故障.

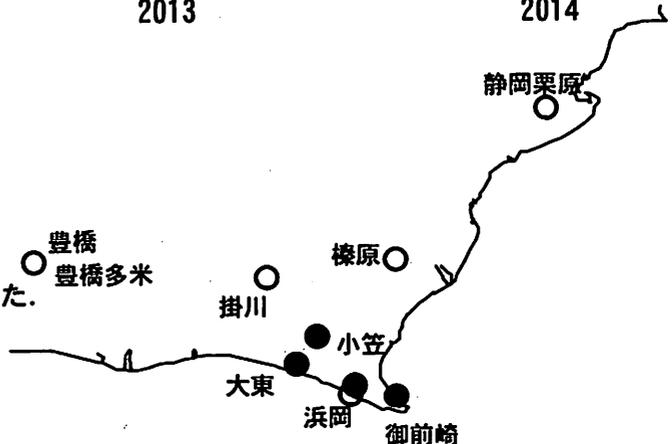


東海地域南部 地下水観測結果 長期 (時間値) (2012/05/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



コメント:

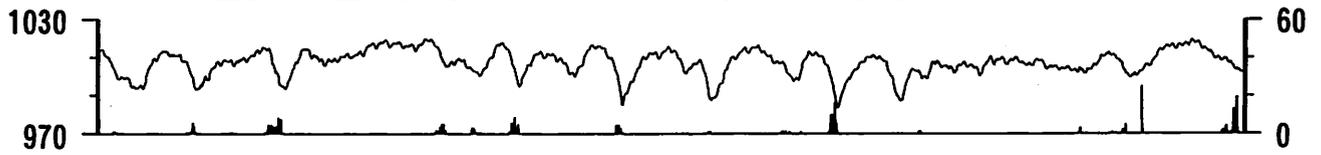
- *;雨量補正不十分. \$;保守.
- @;月初めの補正值のギャップは、解析プログラムの見かけ上のものである.
- 2011年9月21日に大東・小笠の井戸口の管を延長した.
- 2013年1月8日~2月9日の大東と浜岡は、観測小屋老朽化のため建替工事で欠測.



東海地域西部 (豊橋・豊橋多米) 中期 (時間値)
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

豊橋 気圧 [hPa]

豊橋 雨量 [mm]



豊橋1 水位 [m]

豊橋1 水位 (BAYTAP)

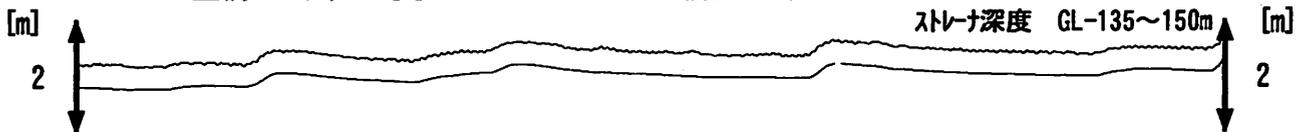
ストレナ深度 GL-180~200m



豊橋2 水位 [m]

豊橋2 水位 (BAYTAP)

ストレナ深度 GL-135~150m



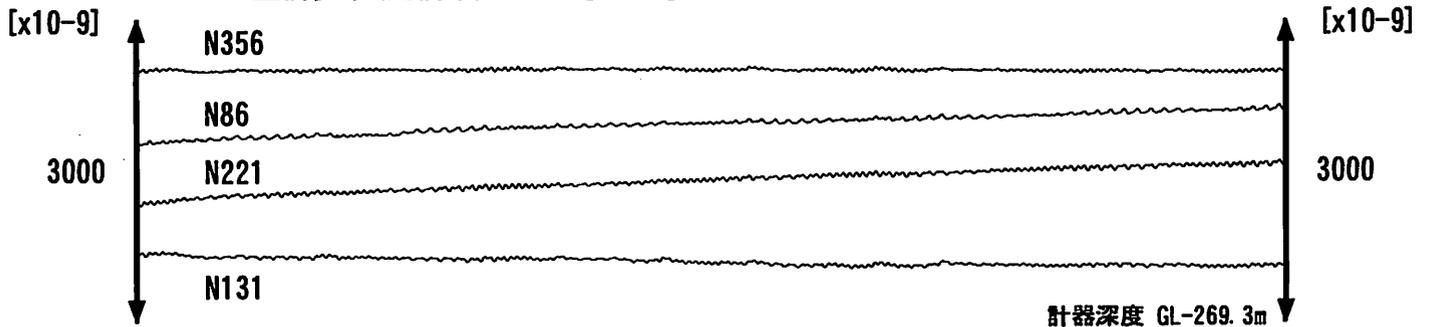
豊橋多米 (豊橋東) 水位 [m]

豊橋多米 (豊橋東) 水位 (BAYTAP)

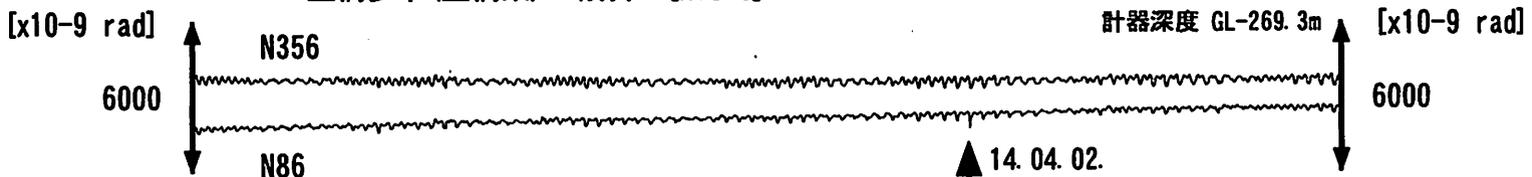
ストレナ深度 GL-185.9~207.8m



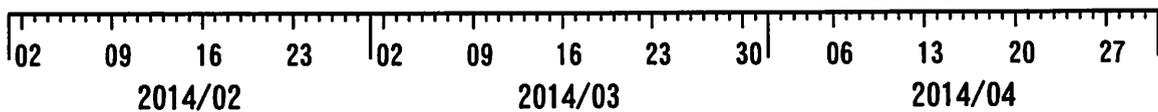
豊橋多米 (豊橋東) 歪 [x10-9]



豊橋多米 (豊橋東) 傾斜 [x10-9]



14. 04. 02.
 チリ北部沿岸
 の地震 (M8. 2)

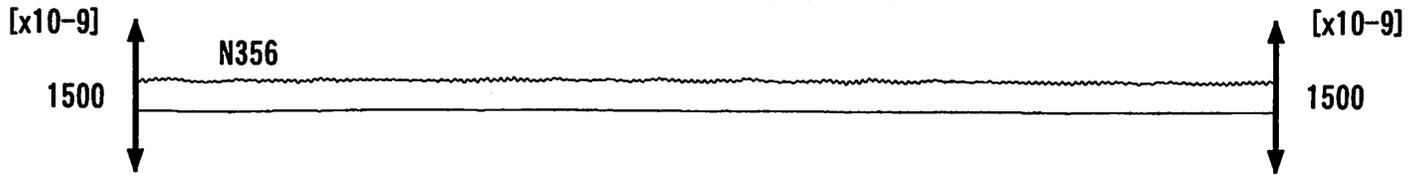


コメント: \$;保守. ?;原因不明.

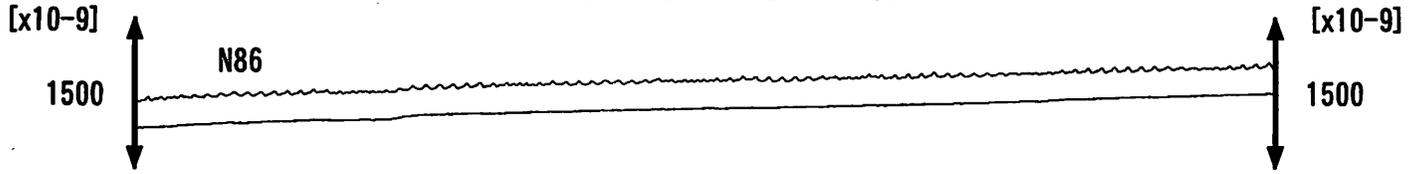


東海地域西部 (豊橋多米 歪) 中期 (時間値)
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

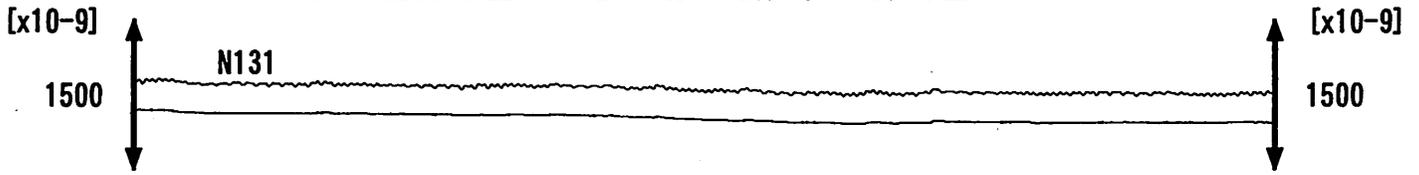
豊橋多米 (豊橋東) 歪N356E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N356E (BAYTAP)



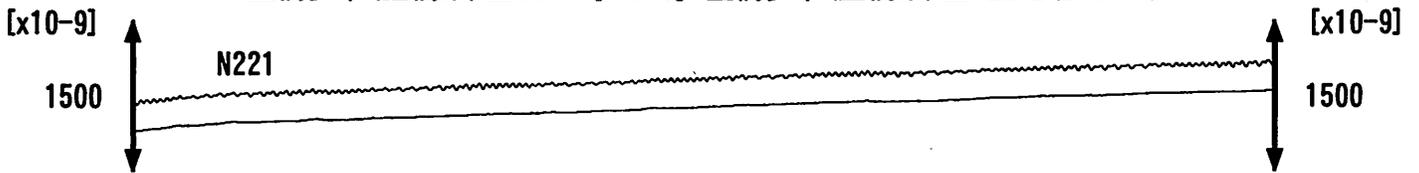
豊橋多米 (豊橋東) 歪N86E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N86E (BAYTAP)



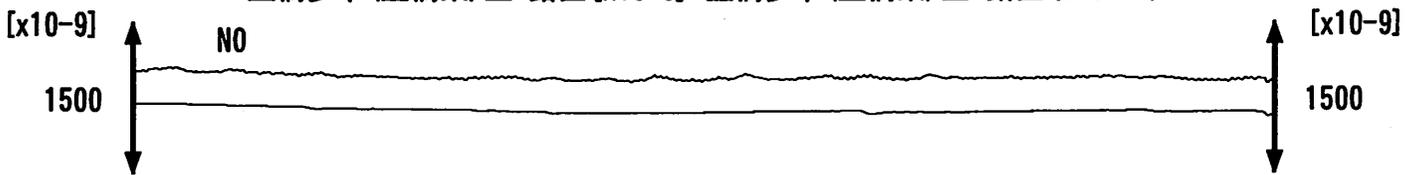
豊橋多米 (豊橋東) 歪N131E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N131E (BAYTAP)



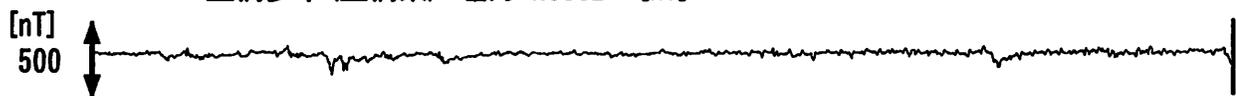
豊橋多米 (豊橋東) 歪N221E [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪N221E (BAYTAP)



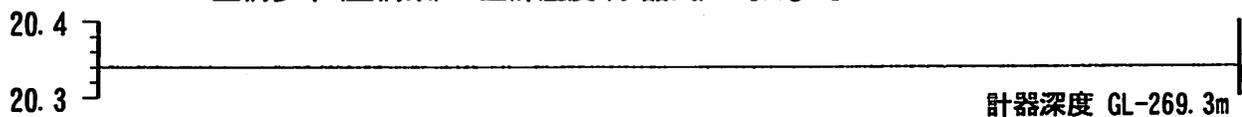
豊橋多米 (豊橋東) 歪鉛直 [x10⁻⁹] 豊橋多米 (豊橋東) 歪鉛直 (BAYTAP)



豊橋多米 (豊橋東) 磁力 N356E [nT]



豊橋多米 (豊橋東) 歪計温度 (水晶式) [deg. C]



計器深度 GL-269. 3m



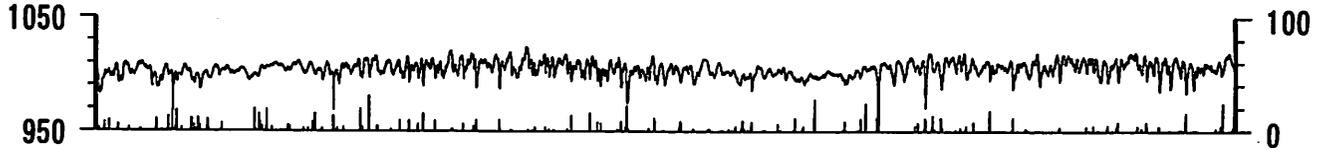
コメント: \$;保守. ?;原因不明.



東海地域西部 (豊橋・豊橋多米) 長期 (時間値)
 (2012/05/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

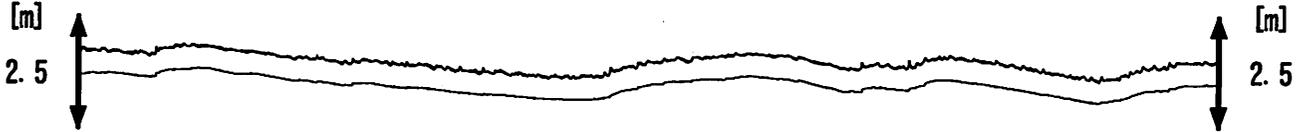
豊橋 気圧 [hPa]

豊橋 雨量 [mm]



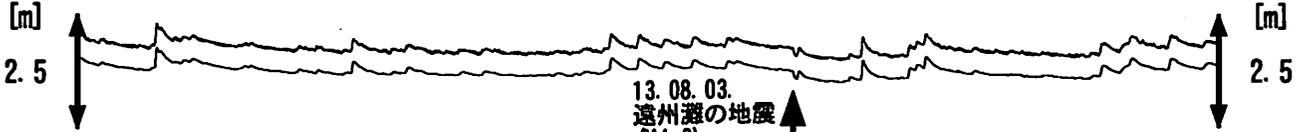
豊橋1 水位 [m]

豊橋1 水位 (BAYTAP)



豊橋2 水位 [m]

豊橋2 水位 (BAYTAP)

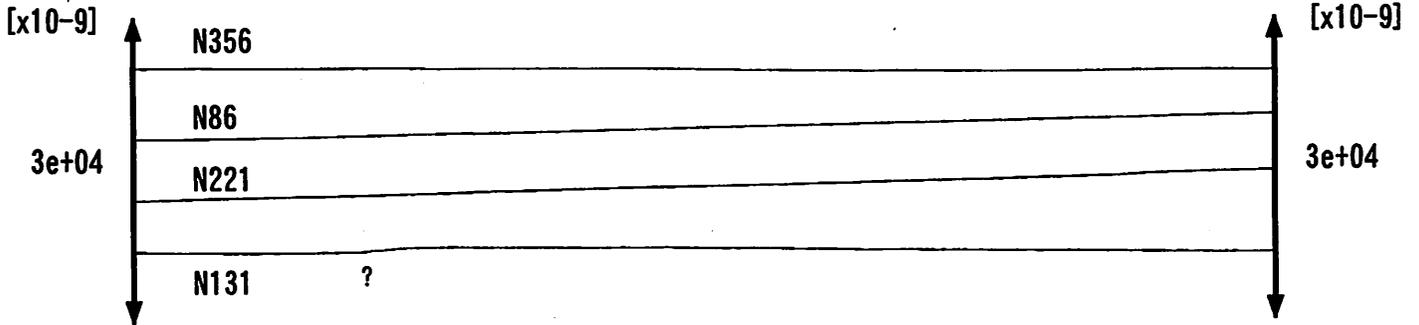


豊橋多米 (豊橋東) 水位 [m]

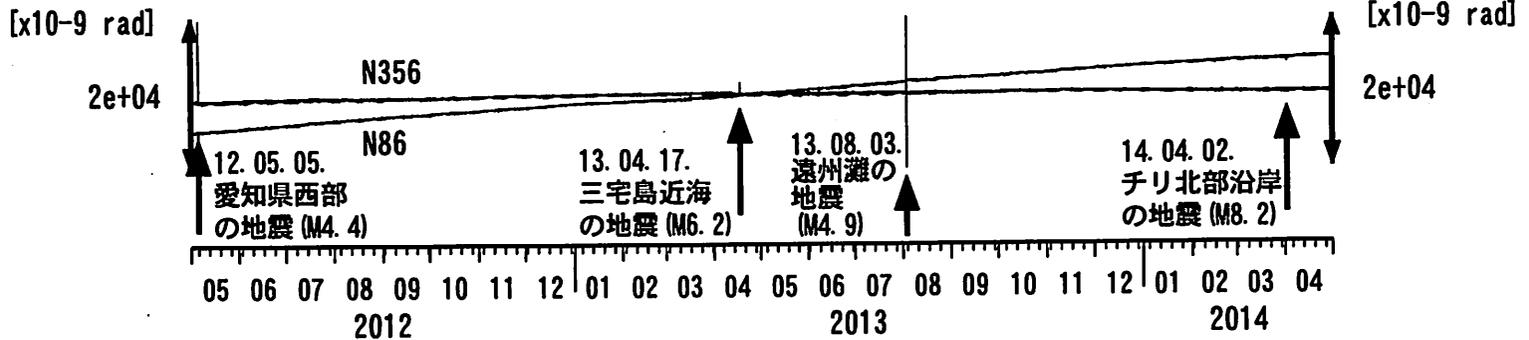
豊橋多米 (豊橋東) 水位 (BAYTAP)



豊橋多米 (豊橋東) 歪 [x10⁻⁹]



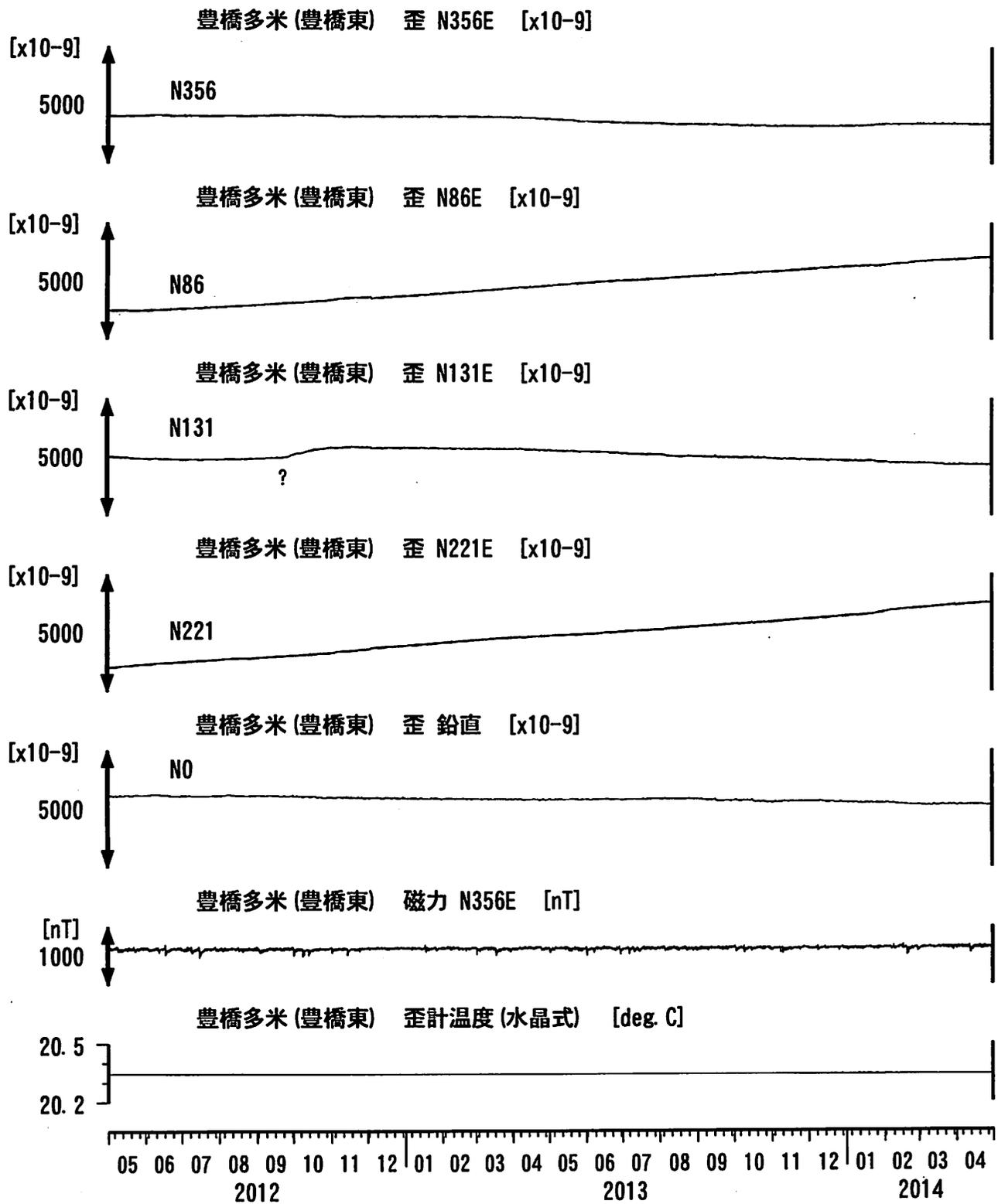
豊橋多米 (豊橋東) 傾斜 [x10⁻⁹]



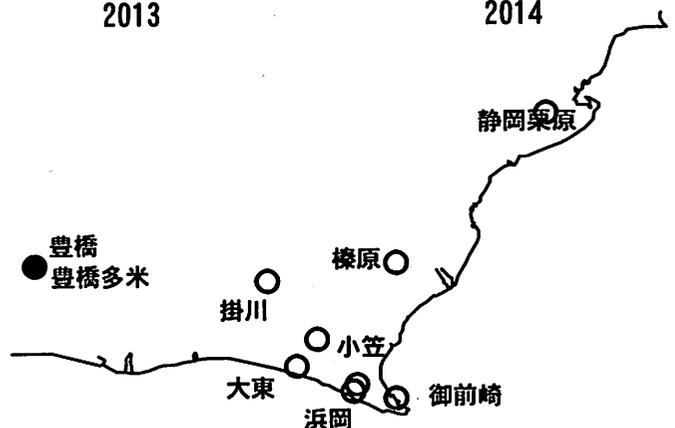
コメント: \$;保守. ?;原因不明.



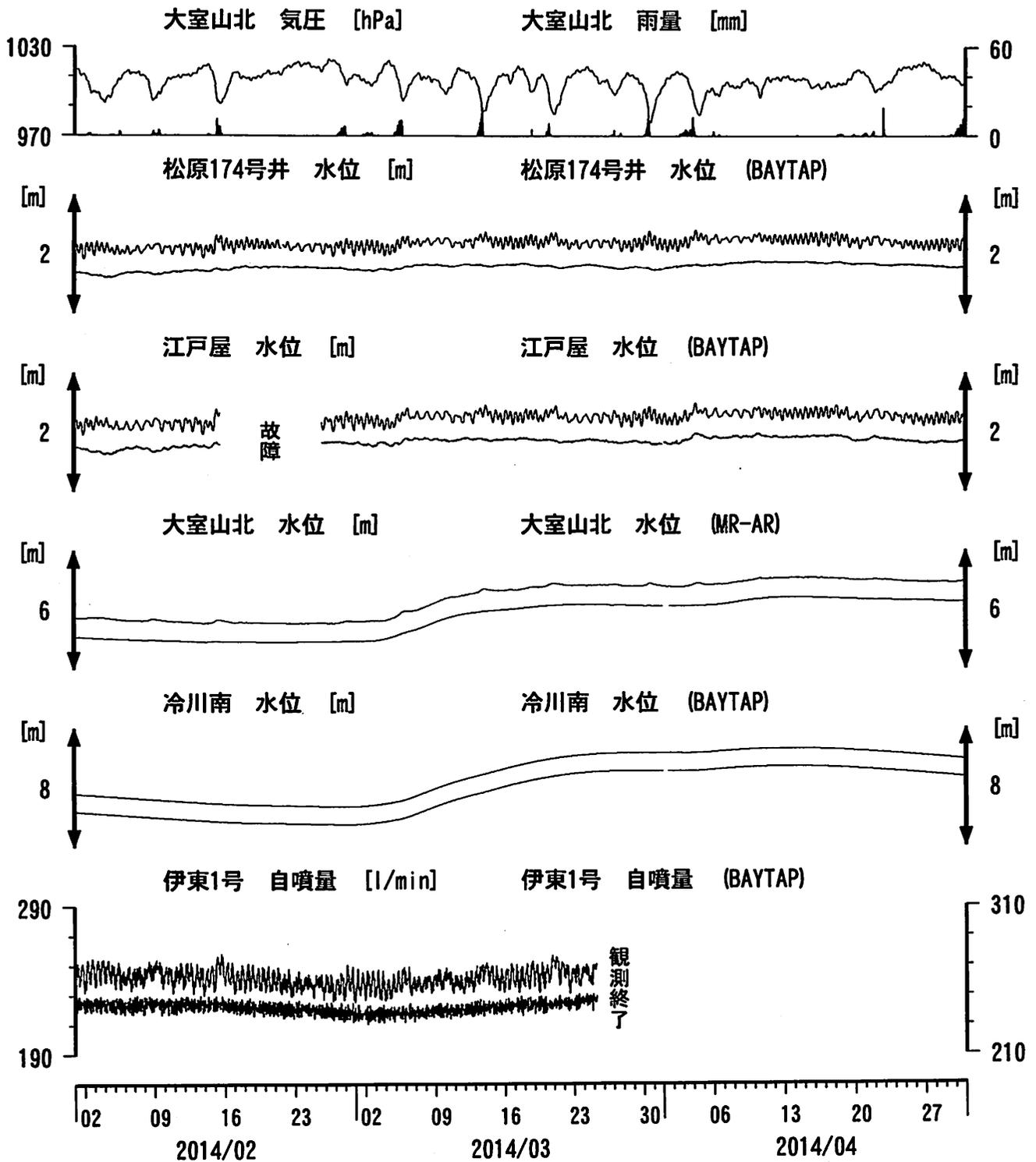
東海地域西部 (豊橋多米 歪) 長期 (時間値)
 (2012/05/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



コメント: \$;保守. ?;原因不明.



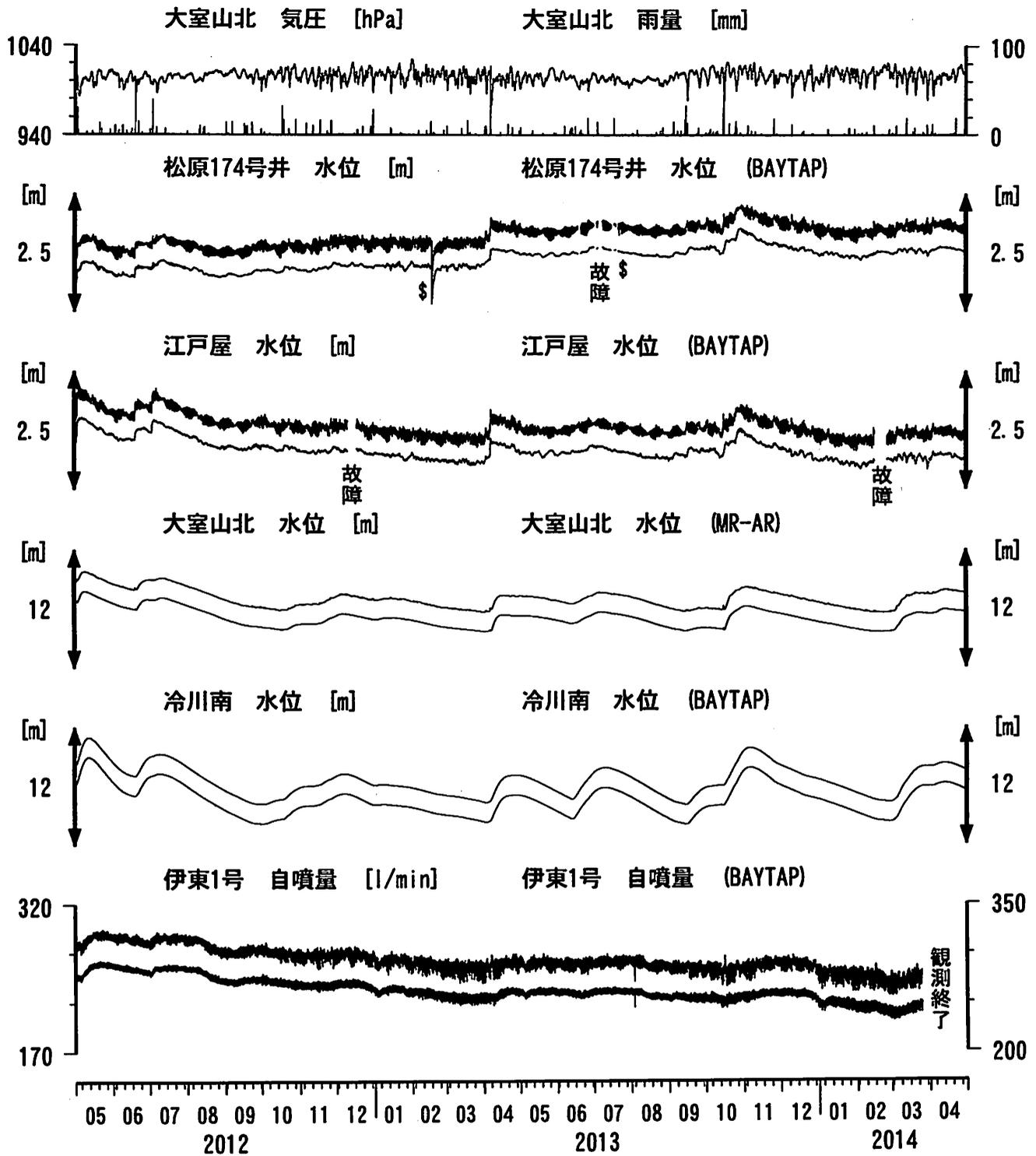
伊豆半島東部 地下水位・自噴量 中期 (時間値)
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



コメント：\$;保守. ?;原因不明.
 松原174号井は静岡県による観測.



伊豆半島東部 地下水位・自噴量 長期 (時間値) (2012/05/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

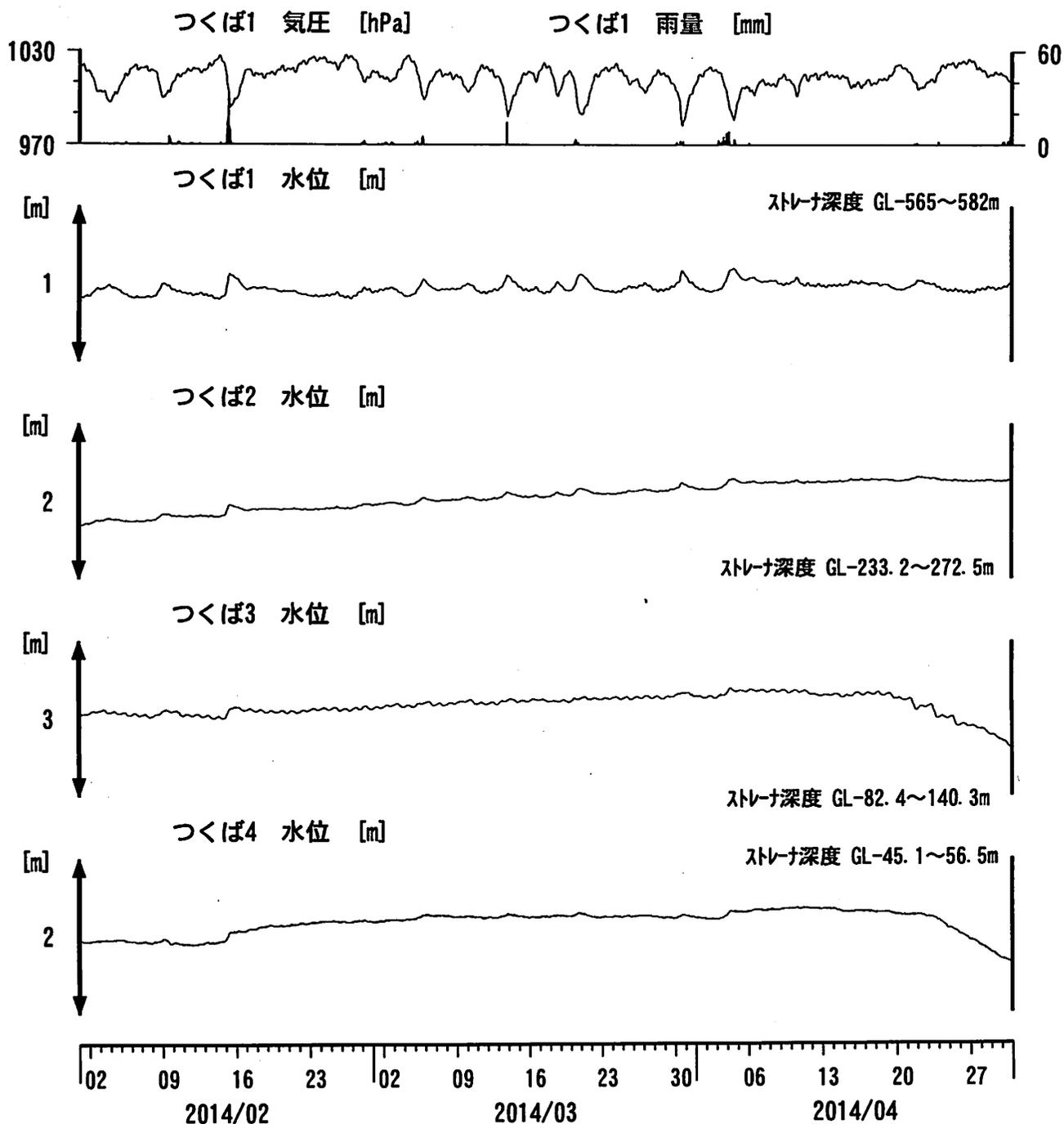


コメント：\$;保守. ?;原因不明.

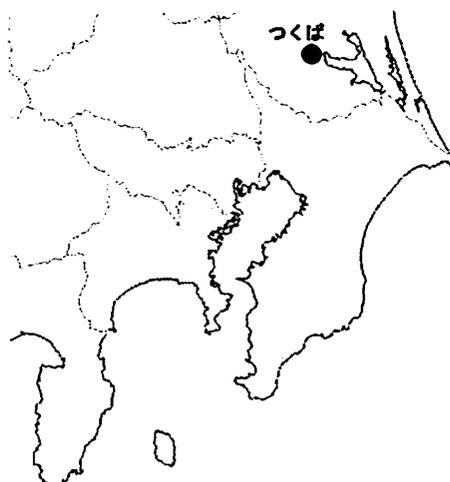
松原174号井は静岡県による観測。
 伊東1は、休日・年末年始に周囲の温泉使用量
 が増加するため、自噴量が減少する。
 伊東1の自噴量は、量が少なくなると
 配管構造のため、見かけ上、値がばらつく。



関東地域 地下水観測結果 中期 (時間値)
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

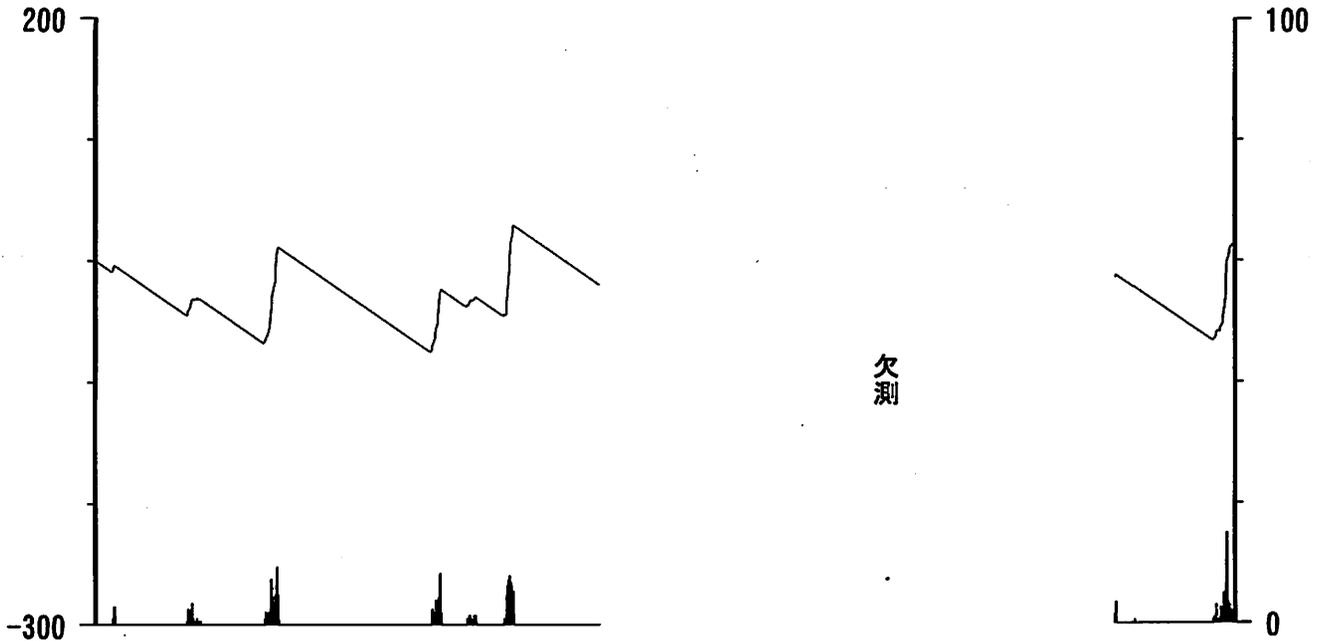


コメント：\$;保守。
 つくば2~4の水位が、例年春~秋に低下するのは、
 周囲の揚水によると考えられる。

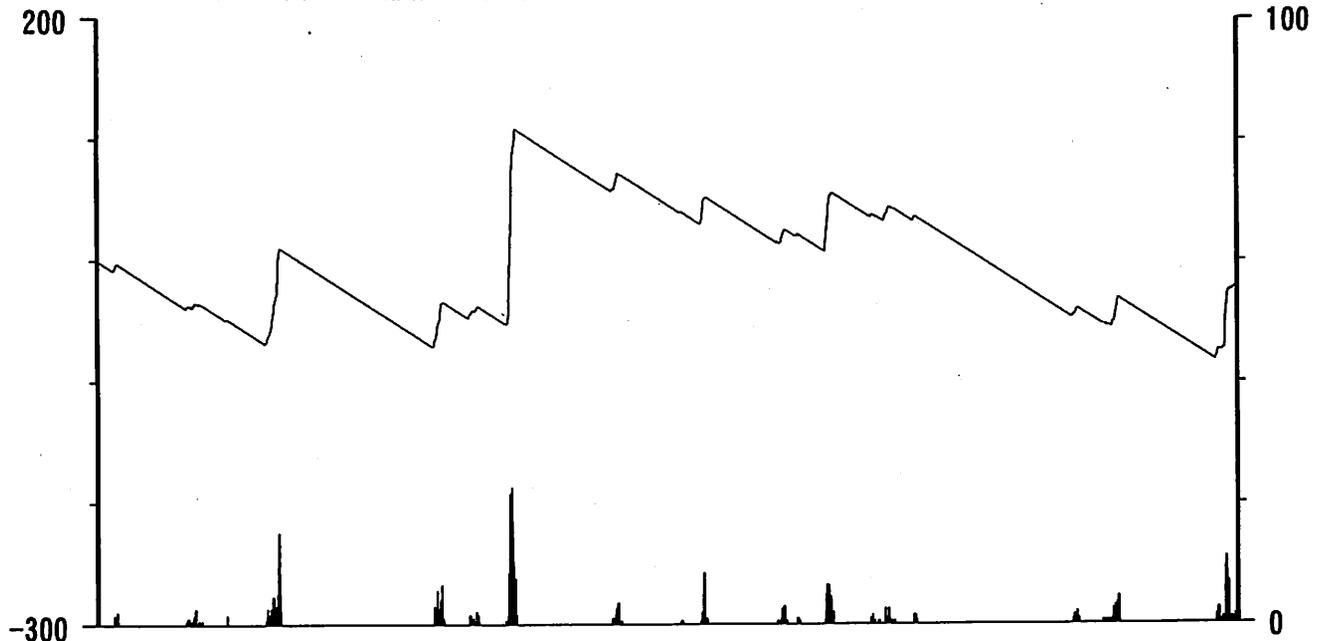


榛原・浜岡観測井 直近3ヶ月の積算降雨量トレンド除去グラフ [mm]
 (2014/02/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

榛原 降水量(積算) [mm] (時間値)



浜岡 降水量(積算) [mm] (時間値)

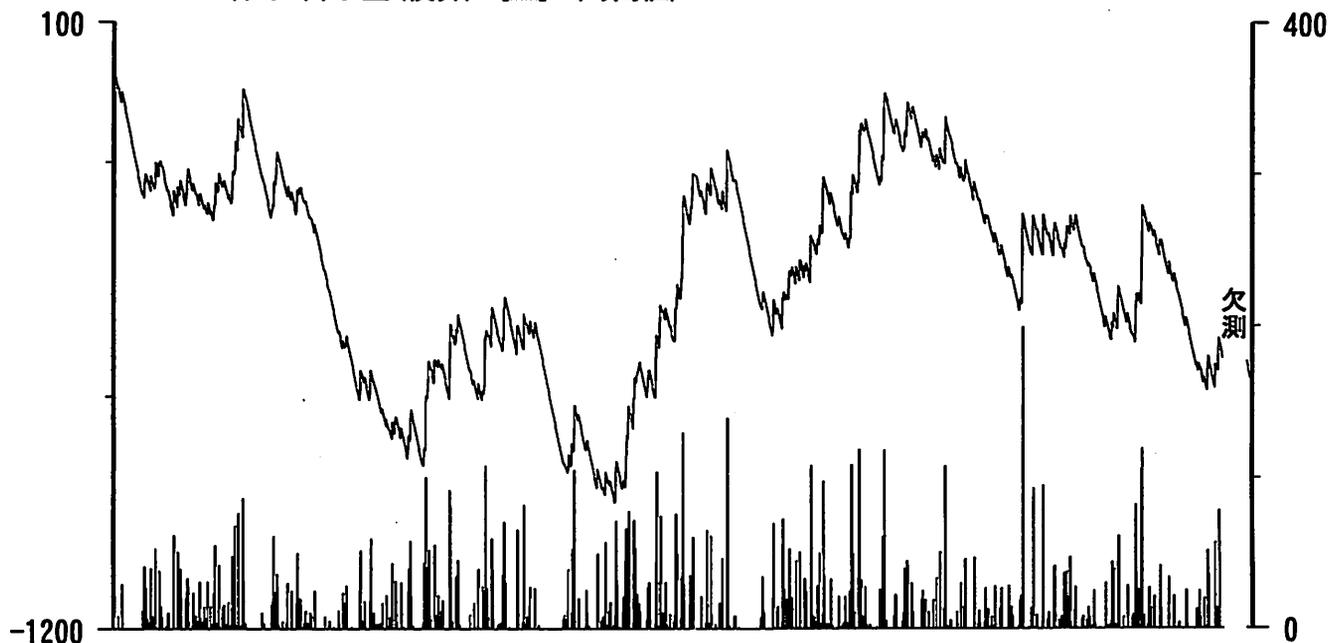


02 09 16 23 02 09 16 23 30 06 13 20 27
 2014/02 2014/03 2014/04

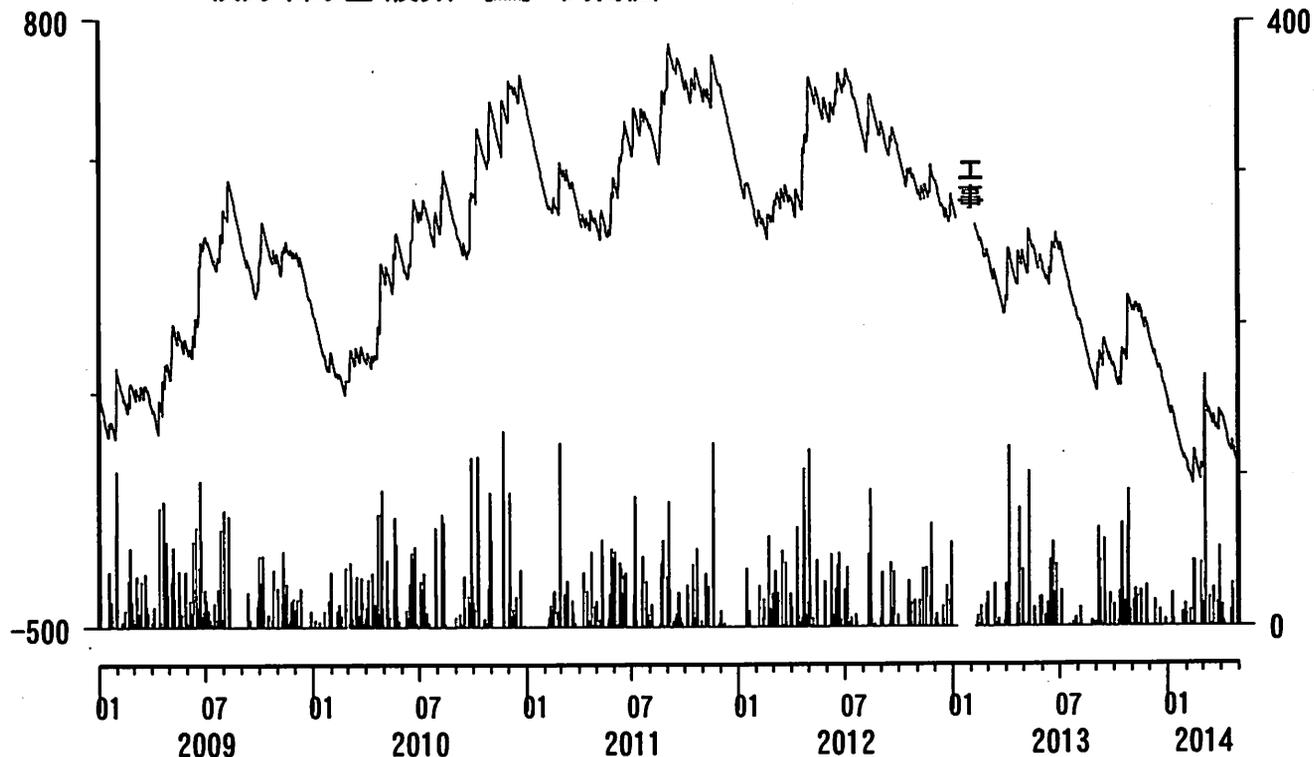
コメント：トレンドは、グラフに示している期間で求めている。

榛原・浜岡観測井 降雨量の積算からトレンド除去後のグラフ [mm]
 (2009/01/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

榛原 降水量(積算) [mm] (時間値)



浜岡 降水量(積算) [mm] (時間値)

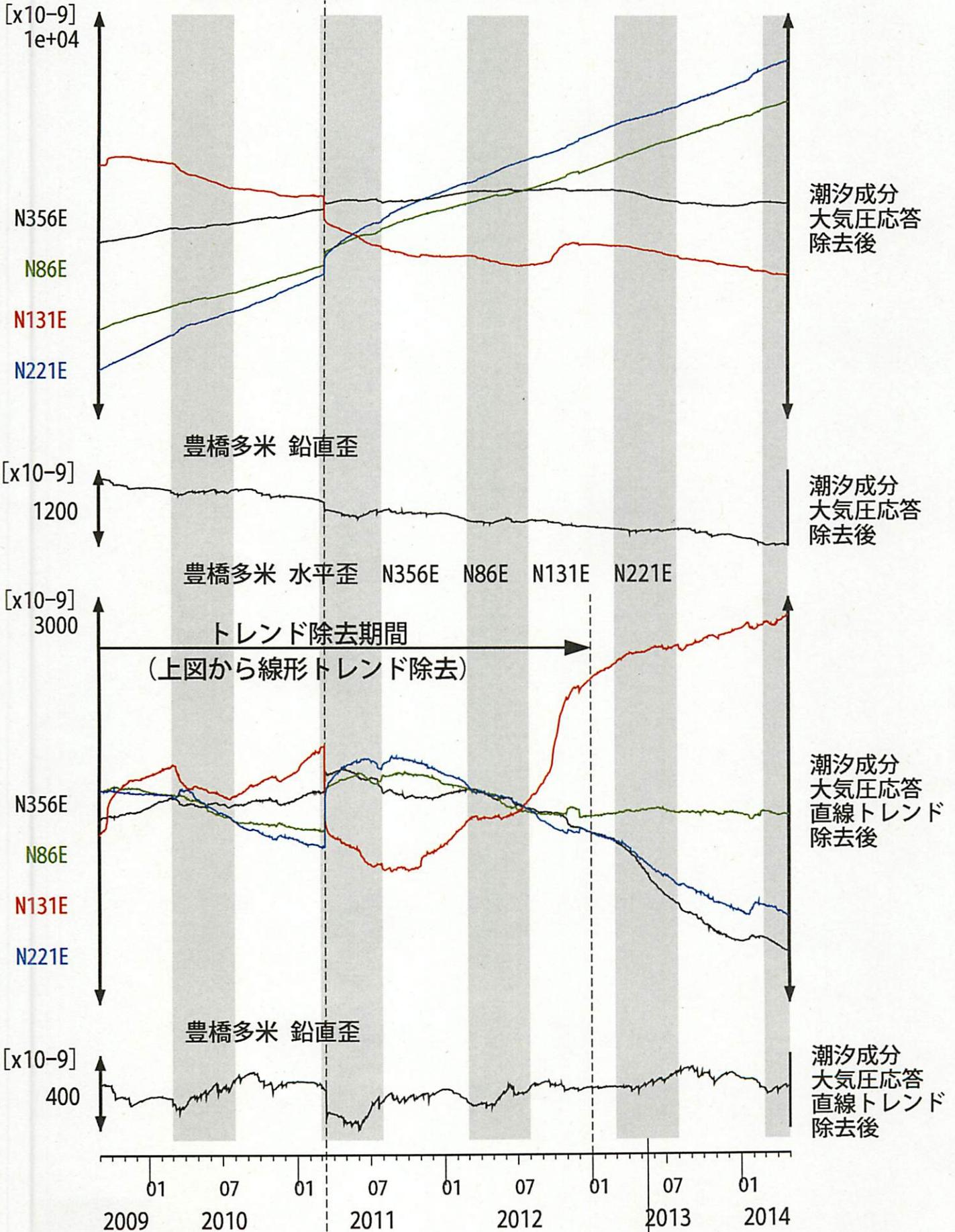


コメント：トレンドは、グラフに示している期間で求めている。

豊橋多米の地殻歪の長期変化 (日値)

(2009/09/01 00:00 - 2014/05/01 00:00)

豊橋多米 水平歪 N356E N86E N131E N221E



11.03.11.
東北地方太平洋沖
地震 (Mw9.0)

季節変化?

産業技術総合研究所(産総研)では、東海・紀伊半島・四国の地下水等総合観測施設20点において、歪・地下水等の観測を行っている。観測点配置図を第1図に示す。

第2～38図には、2013年11月～2014年4月における歪(・傾斜)・地下水位の1時間値の生データ(上線)と補正值(下線)を示す。歪・傾斜の図において「N120E」などと示してあるのは、歪・傾斜の測定方向が北から120度東方向に回転していることを示す。補正值は、潮汐解析プログラムBAYTAP-G[Tamura *et al.*, 1991]によって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を除去した結果である。歪・傾斜のグラフについては、直線トレンド(1次トレンド)を除去している。2013年3月より、愛媛県新居浜市の新居浜黒島観測点(NHK)において、同年5月より、愛知県西尾市の西尾善明観測点(NSZ)において、それぞれ歪・傾斜・地下水位等の観測を開始した。これらの観測点の観測結果を、それぞれ第37～38図および第4～5図に示す。第39～44図には、産総研で決定した、エンベロープ相関法による深部低周波微動の震源の時空間分布および個数を示す。微動の地域分けについては、第39図(RT0～3)、第40図(RK0～4)、第41図(RS0～RS3)に示している。

東海全体(RT0～3)で微動の発生回数が50個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が20個/日以上で活動開始、20個/日未満で活動終了と判断する)については、第2～8図および第39～40図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RT0～3)と共に表示した。紀伊半島全体(RK0～4)で微動の発生回数が50個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が20個/日以上で活動開始、20個/日未満で活動終了と判断する)については、第9～21図および第41～42図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RK0～4)と共に表示した。四国東部(RS4～RS6)の合計で微動の発生回数が25個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が10個/日以上で活動開始、10個/日未満で活動終了と判断する)については、第22～30図、第37～38図および第43～44図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RS4～6)と共に表示した。四国西部(RS0～RS3)の合計で微動の発生回数が100個/日以上の日を含む期間(その期間については、回数が20個/日以上で活動開始、20個/日未満で活動終了と判断する)については、第27～38図および第43～44図に灰色網掛けにてその期間を主な活動地域(RS0～3)と共に表示した。

歪・傾斜の変化から短期的SSEの断層モデルを推定したイベントについて、その解析結果を報告する。断層モデル推定手法については、解析結果の後に示す。

2014年1月23日～28日頃にかけて、三重県中部～伊勢湾～愛知県西部付近において、2月3日～7日頃にかけて、愛知県中部付近において、それぞれ活発な深部低周波微動活動が観測され(第45図)、三重県、愛知県、静岡県および長野県における、産総研の多成分歪4観測点、傾斜2観測点、地下水1観測点(2井戸)、気象庁および静岡県の多成分歪6観測点、体積歪2観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)7観測点において変化が観測された(第46図)。期間を3つに分けて断層面の推定を行った結果を第47～49図に示す。推定されたMwはそれぞれ5.8, 5.8, 5.7であった。

期間Aの活動領域を含む三重県中部～伊勢湾付近では、135日前の2013年9月8～10日にかけてMw5.8の、期間Bの活動領域を含む愛知県西部付近では、206日前の2013年6月28日～7月3日にかけてMw5.7の、機関Cの活動領域を含む愛知県中部付近では、175日前の2013年8月3日午後～12日午前にかけてMw5.7の短期的SSEが、それぞれ発生したと推定されている(それぞれ第47～49図の灰色矩形4, 2および3)。

2014年2月15日午後～18日頃にかけて、奈良県南部付近において活発な深部低周波微動活動が観測され(第50図)、奈良県および三重県における、産総研の多成分歪2観測点、地下水1観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)1観測点において変化が観測された(第51図)。断層面の推定を行った結果を第52図に示す。推定されたMwは5.3であった。

この領域では、111日前の2013年10月26日～27日にかけてMw5.5の短期的SSEが発生したと推定されている(第52図の灰色矩形1)。なお、Itaba and Ando [2011]によると、同領域の平均的な活動間隔は120±20日である。

2014年2月22日午後～24日午前頃にかけて、豊後水道において活発な深部低周波微動活動が観測され(第53図)、愛媛県における、産総研の多成分歪1観測点、地下水1観測点(2井戸)、防災科研Hi-net高感度化速度計(傾斜)4観測点において変化が検出された(第54図)。断層面の推定を行った結果を第55図に示す。推定されたMwは5.5であった。

この領域では、118日前の2013年10月26日～27日午前にかけてMw5.5の短期的SSEが発生したと推定されている(第55図の灰色矩形3)。

2014年4月9日～28日頃にかけて、愛知県中部～東部・長野県南部県境付近において、やや活発な深部低周波微動活動が観測され(第56図)、愛知県、静岡県および長野県における、産総研の多成分歪2観測点、気象庁の多成分歪5観測点、体積歪1観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)2観測点において微少な変化が観測された(第57図)。微動発生状況などから3つの期間に分けて、観測された変化から断層面の推定を行った結果を第58～61図に示す。なお、期間Cについては、微動域から南側に離れた領域ですべり面が推定された(第60図)。主な微動発生領域を含むように断層面を推定した結果を第61図に示す。それぞれの推定断層面から計算される主歪変化は大きな違いはないため、深部側へのすべり面がどの程度広がっているかの推定は困難である。推定された4つの断層モデルのMwは5.7, 5.5, 5.4, 5.7であった。

この活動領域の東側の愛知県東部付近では、185日前の2013年9月29日～10月6日午前にかけてMw5.9の、西側の愛知県中部付近では、61日前の2014年2月3～6日にかけてMw5.7の短期的SSEが、それぞれ発生したと推定されている(それぞれ、第58～61図の灰色矩形1および4)。

2014年4月24日午後～25日頃にかけて、三重県中部・奈良県東部県境付近においてやや活発な深部低周波微動活動が観測され(第62図)、三重県における、産総研の多成分歪2観測点、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜)3観測点において微少な変化が観測された(第63図)。微動発生領域に限定して、観測された変化から断層面の推定を行った結果を第64図に示す。推定されたMwは5.0であった。

この領域では、103日前の2014年1月9日～11日午前にかけてMw5.6の短期的SSEが発生したと推定されている(第64図の灰色矩形3)。

解析方法

短期的SSEの断層面推定には、それぞれの観測点の水平歪4成分(一部の気象庁観測点では8成分)・体積歪・地下水圧・傾斜2成分の記録を用いる。地下水圧は、O1およびM2分潮の振幅をBAYTAP-G [Tamura et al., 1991]により計算し、GOTIC2 [Matsumoto et al., 2001]により推定した地球固体潮汐および海洋荷重潮汐(O1およびM2分潮)との振幅比を用いて、体積歪に変換する。歪・地下水・傾斜ともに、観測波形からBAYTAP-Gにより、気圧応答成分、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除く。また、イベント直前の期間を用いて1次トレンドも取り除く。微動活動も参考にして、数時間～半日単位で活動開始・終了時期を判断し、その期間の変化量を短期的SSEによる変化量とする。その際、歪についてはMatsumoto et al. [2010]の手法で理論潮汐歪を用いてキャリブレーションを行っている。

断層面の推定は、計算時間の短縮と、推定された結果の一意性を確認するために2段階で行う。断層面推定は板場ほか[2012]の手法を用いた。フィリピン海プレート境界面上[弘瀬ほか, 2007]に多数の断層面を仮定してグリッドサーチにより推定する。仮定した断層面上のすべりによって各観測点で期待される歪変化の計算にはOkada [1992]のプログラムを用いる。1段階目には、断層面のサイズは固定(幅・長さ共に20km)、断層面の位置(0.1° 間隔)およびすべり量(1～100mmの間で1mm間隔)のみ可変として広範囲で計算を行う。1段階目の結果を示す図では、それぞれの断層面において最適なすべり量を与えたときの、観測値と計算値(期待値)との残差分布を示している。これにより、短期的SSEが生じている可能性が高い領域を絞り込むとともに、推定された結果の任意性を確認することが出来る。2段階目には、1段階目で絞り込んだ領域(=残差が小さい領域)付近で、位置及びすべり量に加えて、断層面の長さを10～80km、幅を10～50km、それぞれ1km間隔で可変として計算を行なう。その結果、観測値との残差が最小となる断層面が1つ計算されるが、計算に使用している観測点数が少ない場合や、断層面と観測点配置の関係によっては任意性が高くなるので注意が必要である。なお、異種観測値を統合して解析するため、観測点ごとに残差をノイズレベルによって規格化している。ノイズレベルは、気圧応答、潮汐成分およびホワイトノイズ成分を取り除いた後(微動活動が活発な期間および周辺の日

雨量50mmを超える時期を除く)の24時間階差の 2σ とした。

深部低周波微動の検出・震源決定には、エンベロープ相関法を用いている。

謝辞

短期的SSEの断層モデル推定には、防災科研Hi-net高感度加速度計(傾斜計)および気象庁、静岡県の多成分歪計および体積歪計の記録を使用しました。気象庁の歪計データを解析する際には、気象庁によるキャリブレーション係数を使用しました。微動の解析には、防災科研Hi-net、気象庁、東京大学、京都大学、名古屋大学、高知大学、九州大学の地震波形記録を使用しました。低周波地震の震央位置表示には、気象庁の一元化カタログを使用しました。ここに記して感謝します。

(板場智史・武田直人・小泉尚嗣・高橋誠・松本則夫・北川有一)

参考文献

弘瀬冬樹, 中島淳一, 長谷川昭 (2007), Double-Difference Tomography法による西南日本の3次元地震波速度構造およびフィリピン海プレートの形状の推定, *地震*, **60**, 1-20.

Itaba, S., and R. Ando, A slow slip event triggered by teleseismic surface waves, *Geophys. Res. Lett.*, **38**, L21306, doi:10.1029/2011GL049593, 2011.

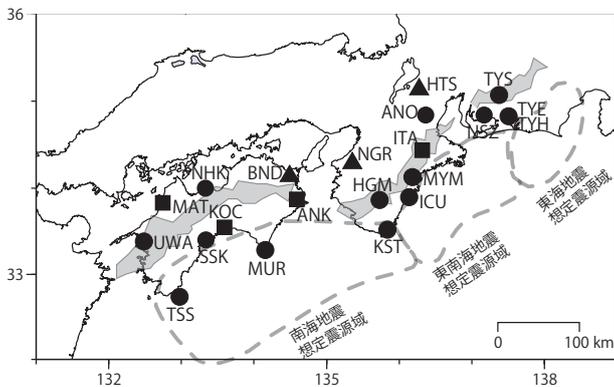
板場智史, 松本則夫, 北川有一, 小泉尚嗣, 松澤孝紀, 歪・傾斜・地下水統合解析による短期的スロースリップイベントのモニタリング, *日本地球惑星連合2012年大会*, 千葉, 5月, 2012.

Matsumoto, K., T. Sato, T. Takanezawa, and M. Ooe, GOTIC2: A Program for Computation of Oceanic Tidal Loading Effect, *J. Geod. Soc. Japan*, **47**, 243-248, 2001.

Matsumoto, N., O. Kamigaichi, Y. Kitagawa, S. Itaba, and N. Koizumi (2010), In-situ Calibration of Borehole Strainmeter Using Green's Functions for Surface Point Load at a Depth of Deployment, *Eos, Trans. AGU*, Abstract G11A-0626.

Okada, Y. (1992), Internal deformation due to shear and tensile faults in a half-space, *Bull. Seismol. Soc. Am.*, **82**, 1018-1040.

Tamura, Y., T. Sato, M. Ooe and M. Ishiguro (1991), A procedure for tidal analysis with a Bayesian information criterion, *Geophys. J. Int.*, **104**, 507-516.

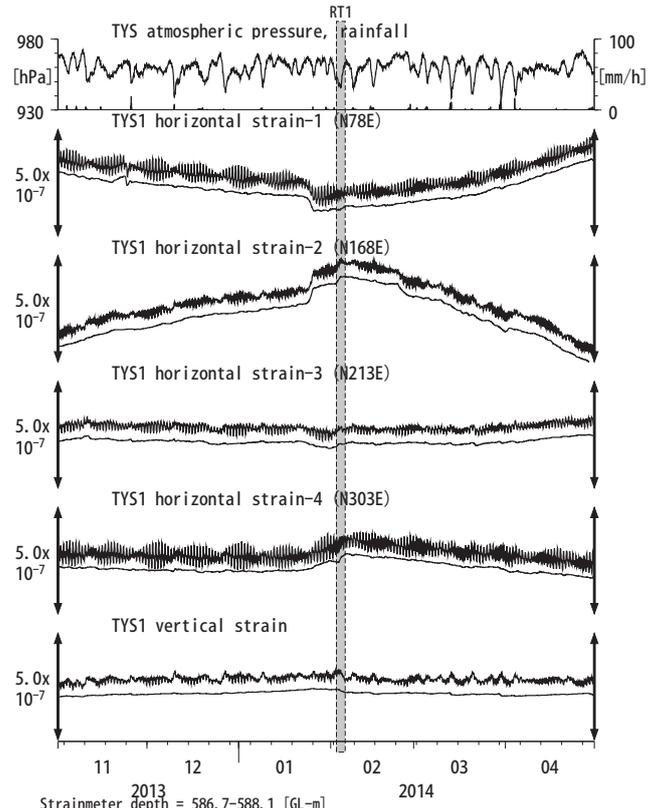


第1図: 地下水観測点の分布図 (●・■・▲)。●はデジタル方式の石井式歪計・傾斜計を用いている新規観測点、■はGladwin式歪計・ミットヨ式傾斜計を併設している新規観測点、▲はアナログ方式の石井式歪計を併設している既存の観測点。灰色の領域は短期的SSE及び深部低周波変動が定常的に発生していると考えられる地域。

第1表: 産総研観測点の新名称。平成23年1月17日から「市町村名」+「町・字名等」を基本とする名称に変更している。なお、3文字コードは変更していない。

3文字コード (変更無し)	旧名称	新名称	新名称 ふりがな	市区町村	図
TYS	豊田下山	豊田神殿	とよたかんの	愛知県豊田市	2,3
NSZ	西尾善明 変更無し	西尾善明	にしおせんみょう	愛知県西尾市	4,5
TYE	豊橋東	豊橋多米	とよはしため	愛知県豊橋市	6,7
HTS	秦荘	愛荘香之庄	あいしょうかうのしょう	滋賀県愛知郡愛荘町	8
ANO	安濃	津安濃	つあのう	三重県津市	9,10
ITA	飯高赤桶	松阪飯高	まつさかいいたか	三重県松阪市	11,12
MYM	海山	紀北海山	きほくみやま	三重県北牟婁郡紀北町	13,14
ICU	井内浦	熊野磯崎	くまのいそざき	三重県熊野市	15,16
HGM	本宮三越	田辺本宮	たなべほんぐう	和歌山県田辺市	17,18
KST	串本津荷 変更無し	串本津荷	くしもとつが	和歌山県東牟婁郡串本町	19,20
NGR	根来	岩出東坂本	いわでひがしきかもと	和歌山県岩出市	21
BND	板東	鳴門大坂	なるとおおさ	徳島県鳴門市	22
ANK	阿南桑野 変更無し	阿南桑野	あなんくわの	徳島県阿南市	23,24
MUR	室戸	室戸岬	むろとみさき	高知県室戸市	25,26
KOC	高知市	高知五台山	こうちごだいさん	高知県高知市	27,28
SSK	須崎	須崎大谷	すざきおたに	高知県須崎市	29,30
TSS	土佐清水	土佐清水松尾	とさしみずまつお	高知県土佐清水市	31,32
UWA	宇和	西予宇和	せいようわ	愛媛県西予市	33,34
MAT	松山	松山南江戸	まつやまみなみえど	愛媛県松山市	35,36
NHK	新居浜黒島 変更無し	新居浜黒島	にいはいまぐろしま	愛媛県新居浜市	37,38

第2図 Crustal strains at TYS (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

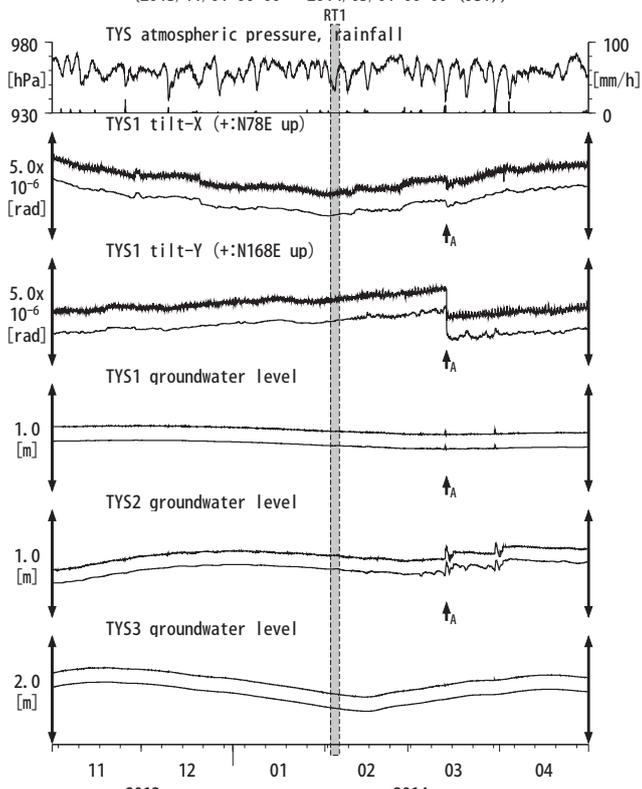


Strainmeter depth = 586.7-588.1 [GL-m]

上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第3図 Tilt and groundwater level at TYS (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



Tiltmeter depth = 585.9-586.7 [GL-m]

TYS1 : Screen depth = 404.8-426.7 [GL-m]

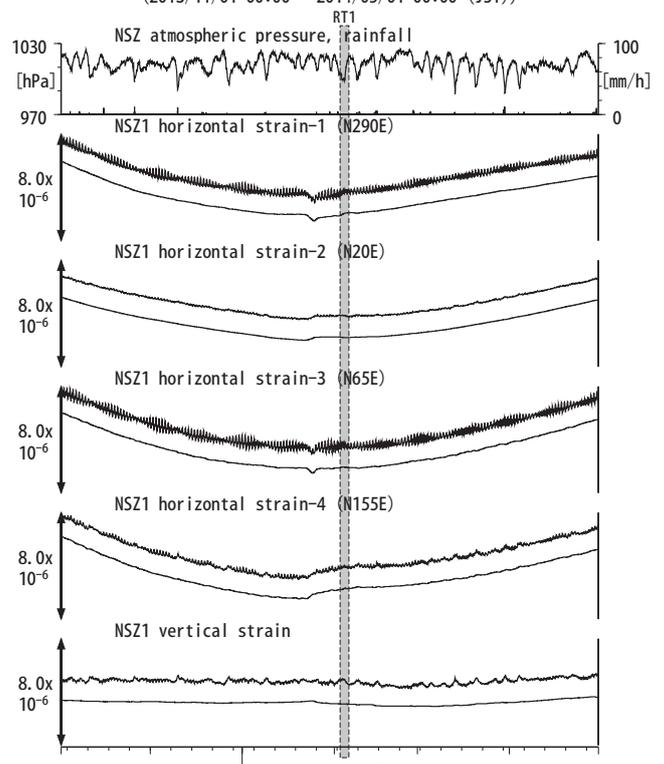
TYS2 : Screen depth = 148.8-154.3 [GL-m]

TYS3 : Screen depth = 26.8-32.3 [GL-m]

上: tiltは1次トレンド除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分除去、tiltは1次トレンドも除去

第4図 Crustal strains changes at NSZ 西尾善明 (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

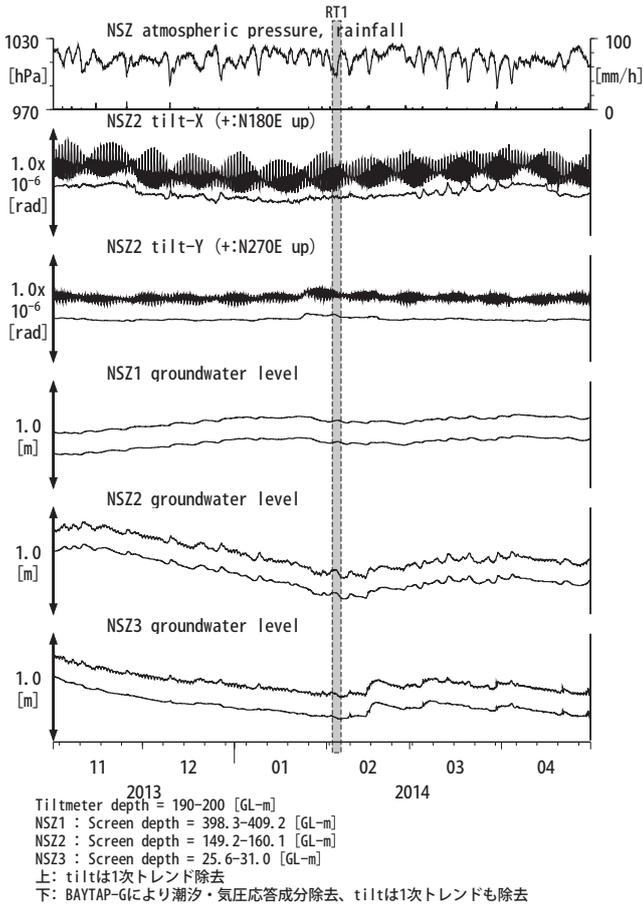


Strainmeter depth = 582.3-584.3 [GL-m]

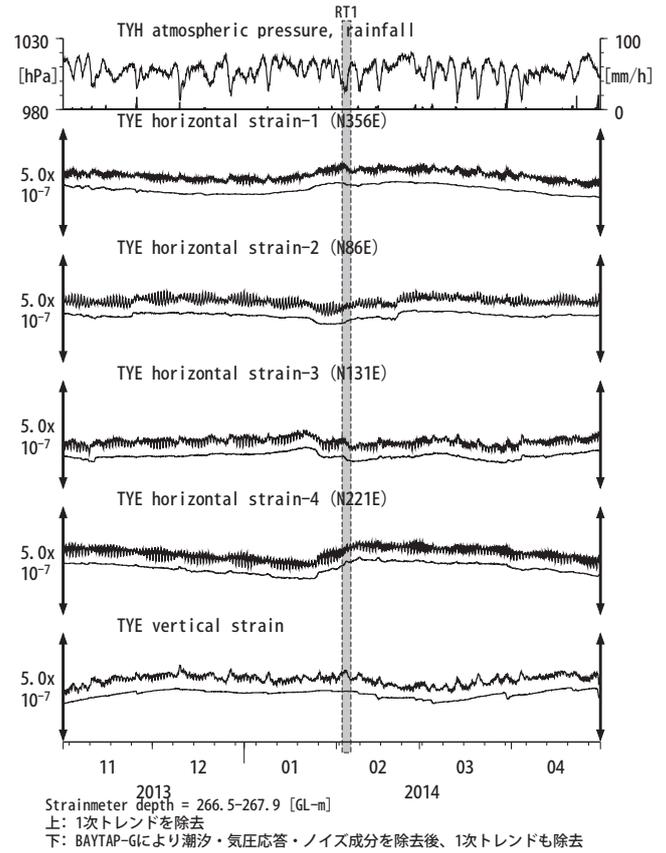
上: 1次トレンドを除去

下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

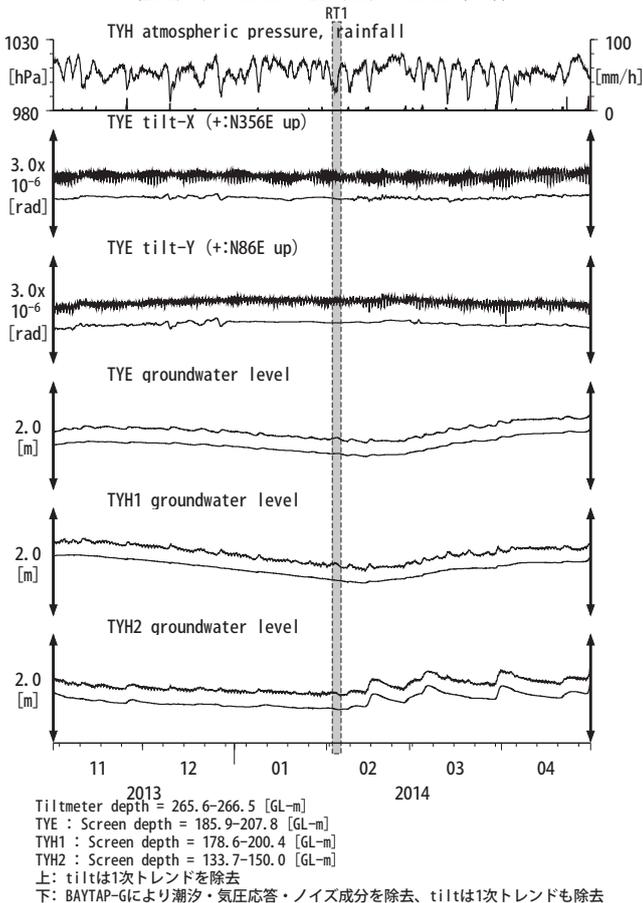
図5: Tilt and groundwater level changes at NSZ 西尾善明 (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



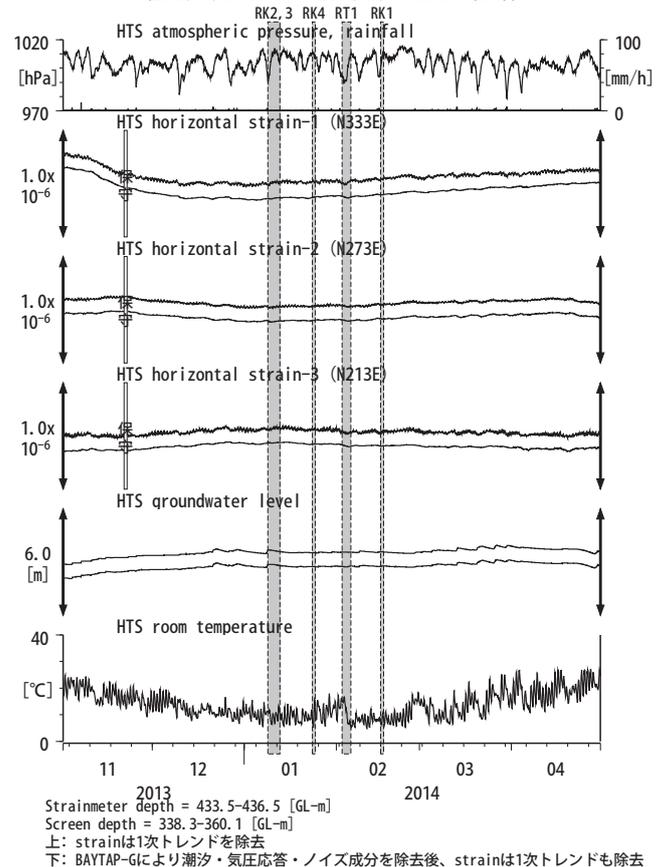
第6図 Crustal strain at TYE (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

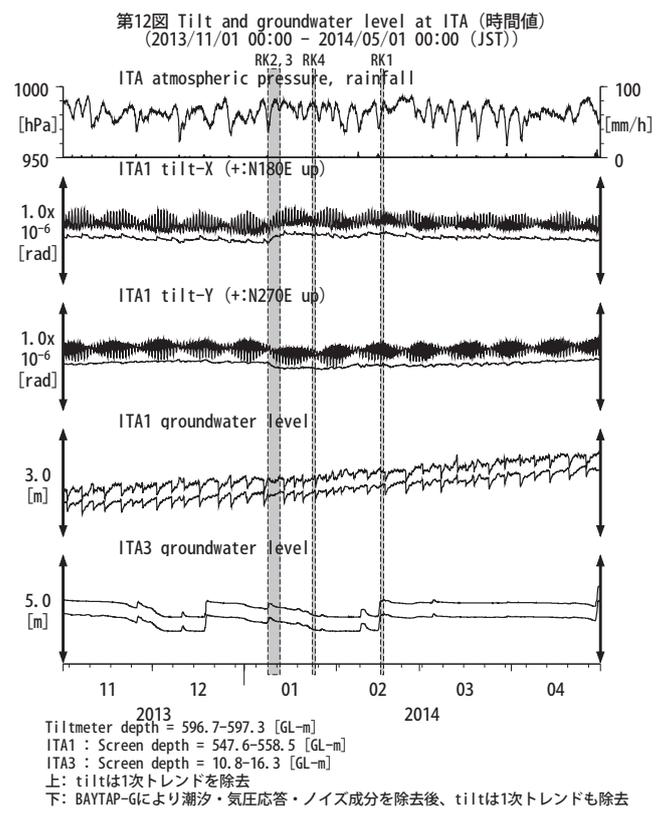
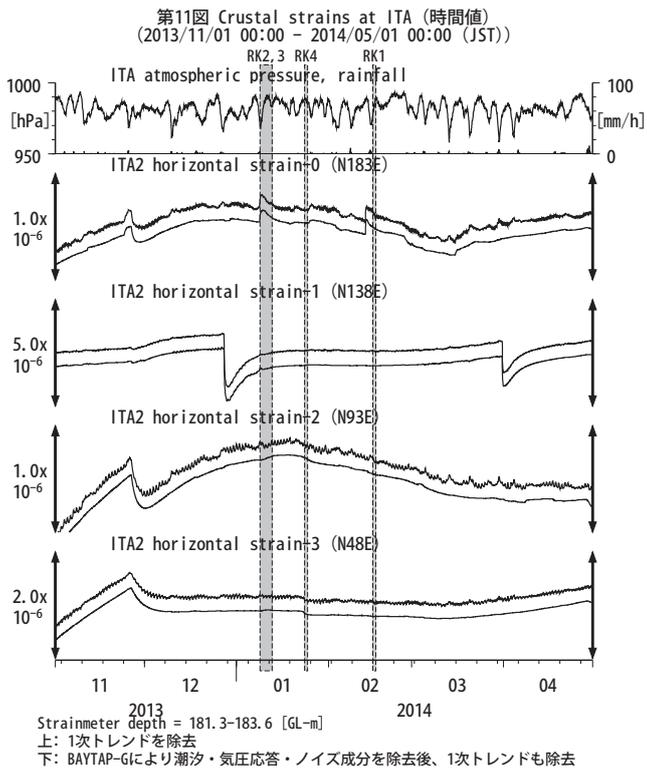
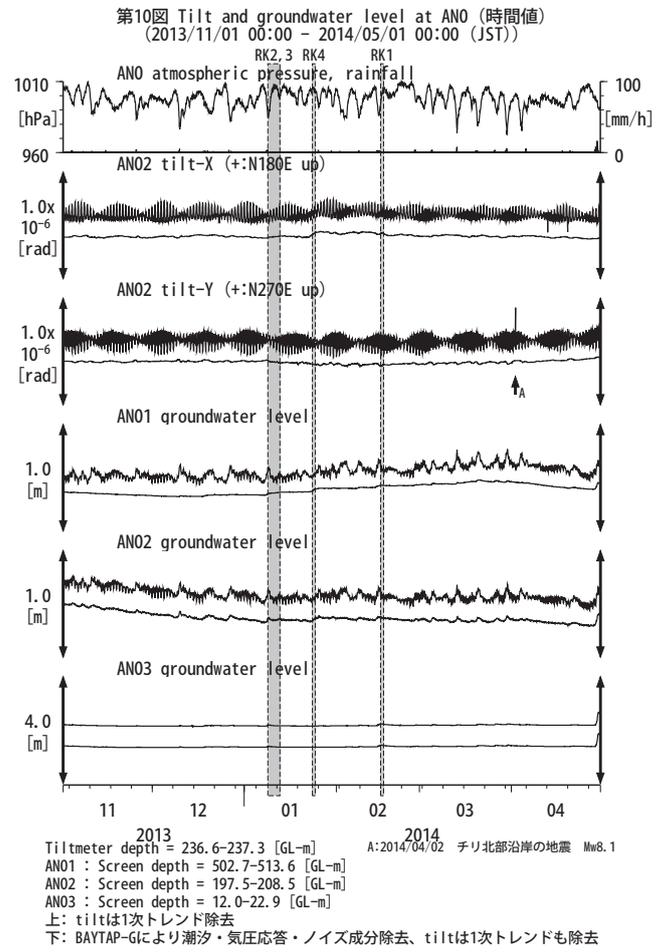
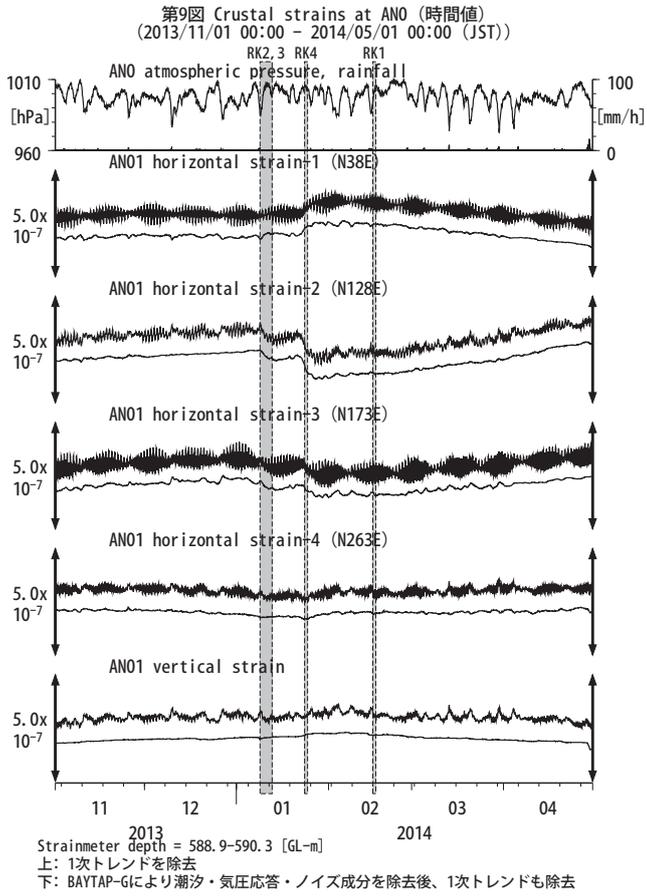


第7図 Tilt and groundwater level at TYE and TYH (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

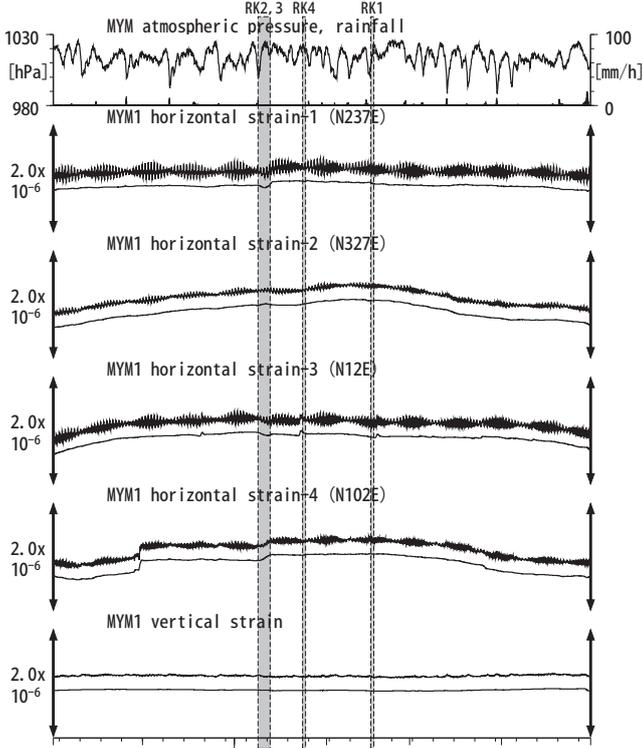


第8図 Crustal strains and groundwater level at HTS (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



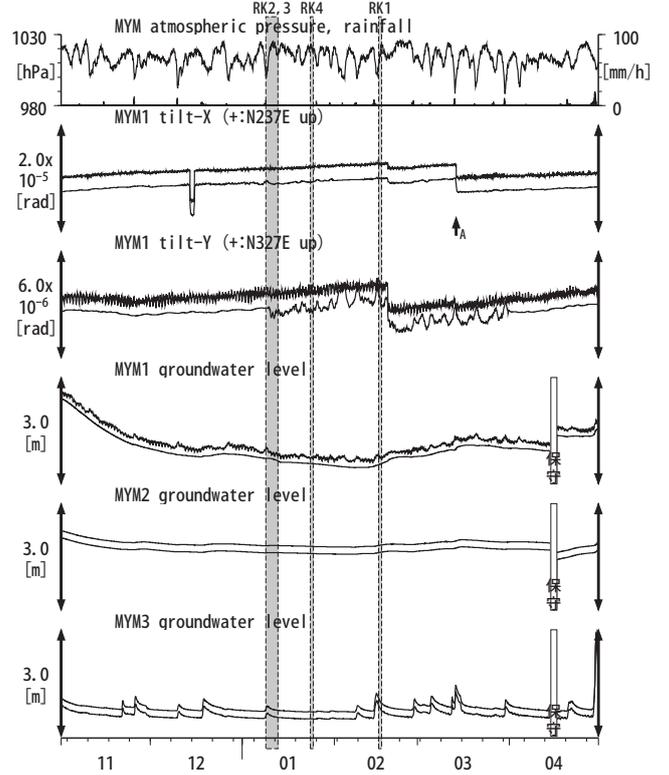


第13図 Crustal strains at MYM (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



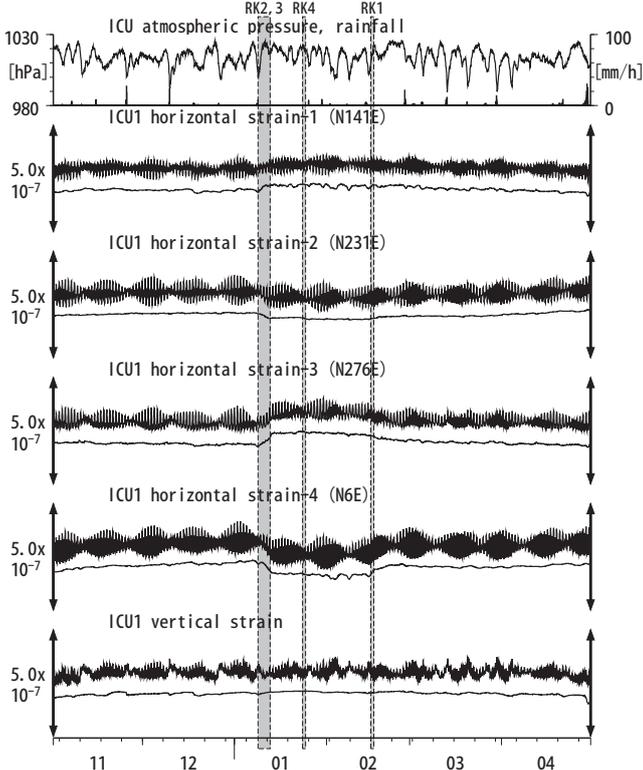
Strainmeter depth = 590.0-591.4 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第14図 Tilt and groundwater level at MYM (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



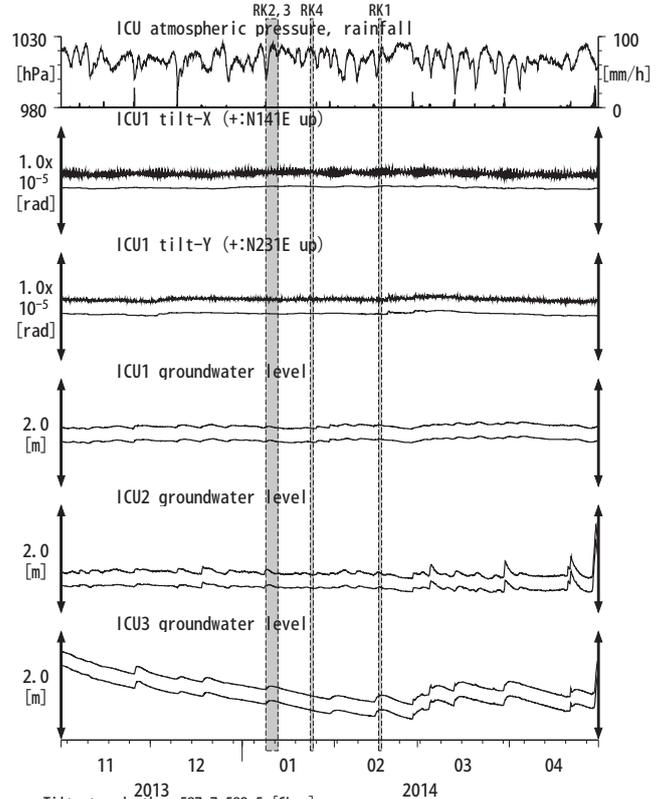
Tiltmeter depth = 589.2-590.0 [GL-m]
MYM1 : Screen depth = 418.9-429.8 [GL-m]
MYM2 : Screen depth = 140.3-151.1 [GL-m]
MYM3 : Screen depth = 19.9-25.3 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第15図 Crustal strains at ICU (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



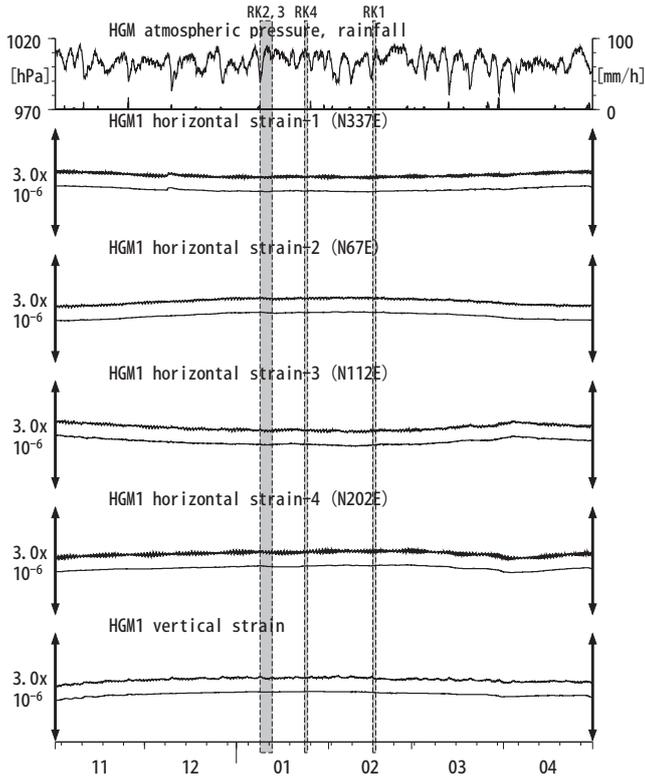
Strainmeter depth = 588.5-589.9 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第16図 Tilt and groundwater level at ICU (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



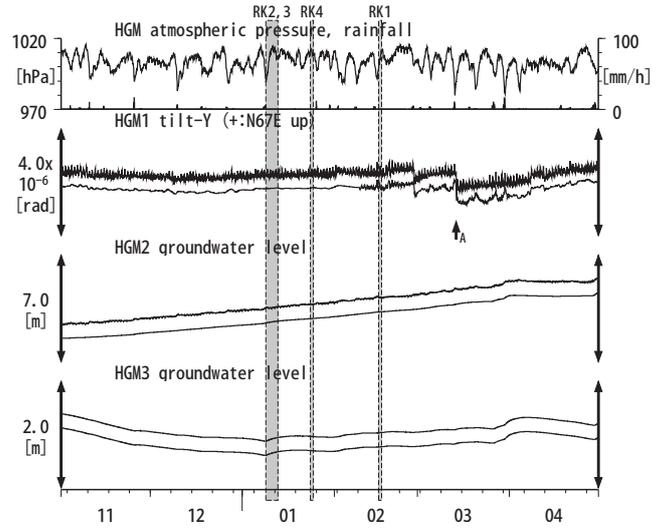
Tiltmeter depth = 587.7-588.5 [GL-m]
ICU1 : Screen depth = 522.5-533.4 [GL-m]
ICU2 : Screen depth = 95.7-106.6 [GL-m]
ICU3 : Screen depth = 13.4-18.8 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第17図 Crustal strains at HGM (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



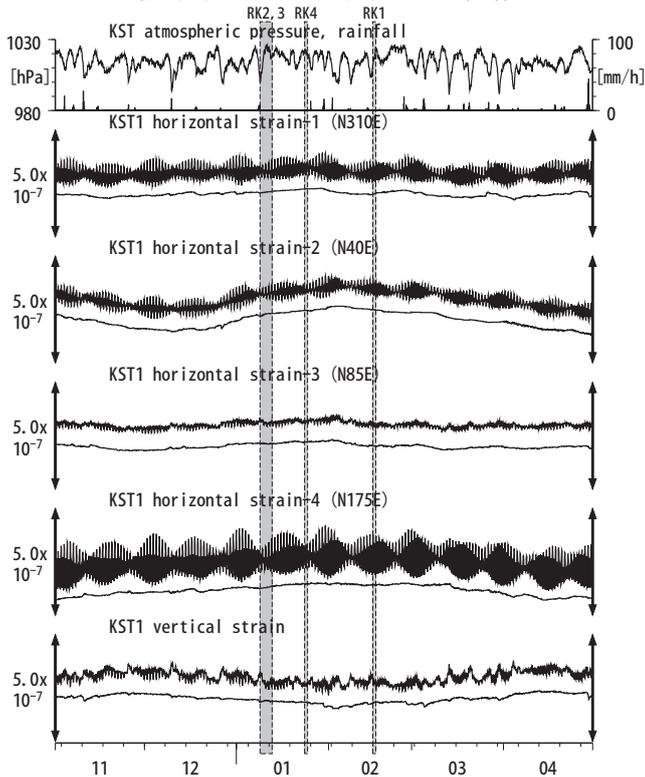
Strainmeter depth = 372.7-374.1 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第18図 Tilt and groundwater level at HGM (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



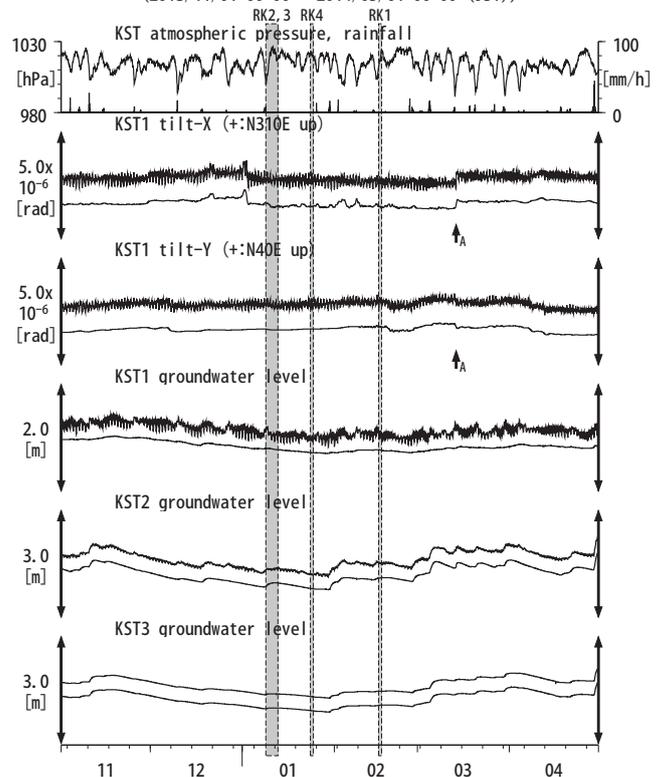
Tiltmeter depth = 371.9-372.7 [GL-m]
HGM2 : Screen depth = 180.9-191.8 [GL-m]
HGM3 : Screen depth = 24.3-29.8 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去
tilt-Xは振り切れにより欠測

第19図 Crustal strains at KST (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



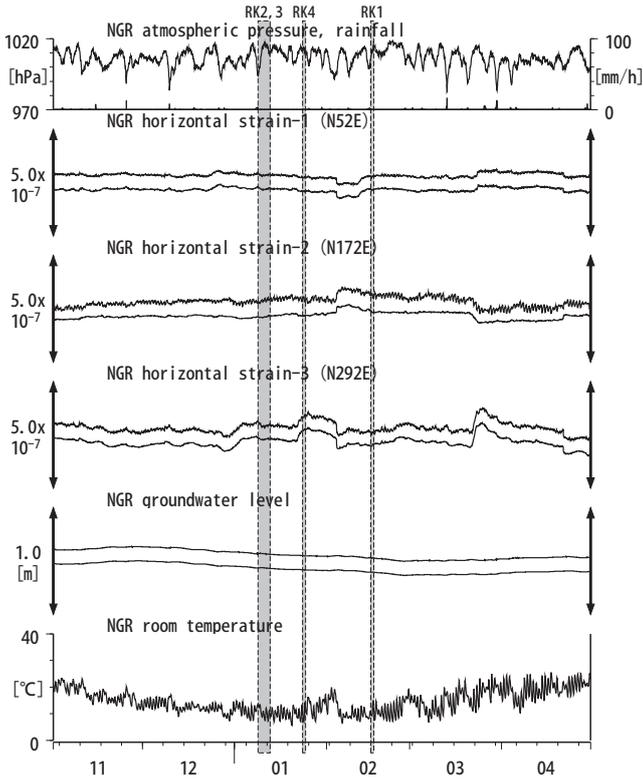
Strainmeter depth = 589.8-591.2 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第20図 Tilt and groundwater level at KST (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



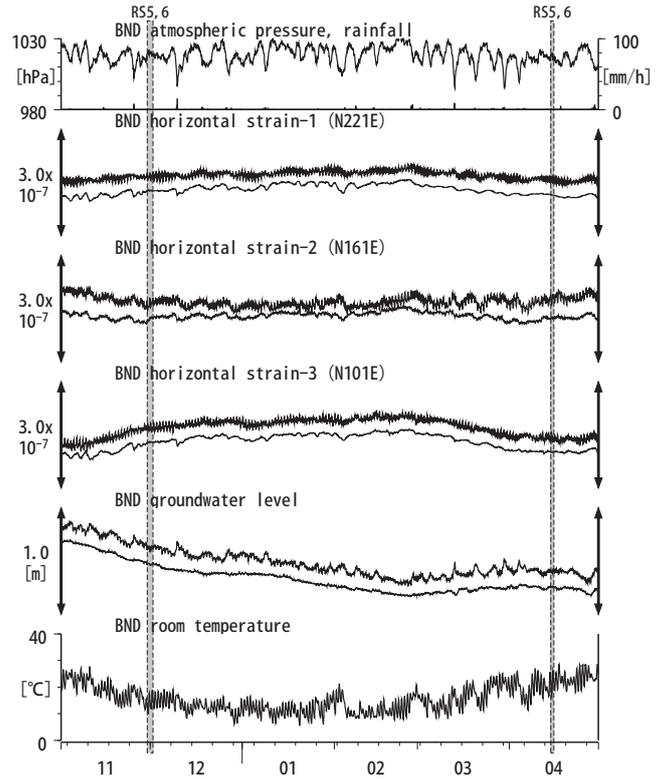
Tiltmeter depth = 589.0-589.8 [GL-m]
KST1 : Screen depth = 509.2-520.2 [GL-m]
KST2 : Screen depth = 132.9-143.9 [GL-m]
KST3 : Screen depth = 20.4-30.6 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第21図 Crustal strains and groundwater level at NGR (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



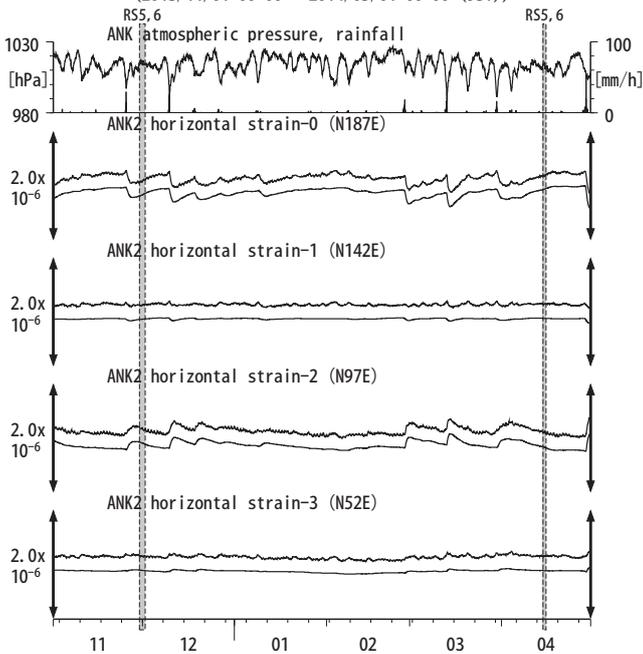
Strainmeter depth = 616 [GL-m]
Screen depth = 408.9-446.5 [GL-m]
上: strainは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、strainは1次トレンドも除去

第22図 Crustal strains and groundwater level at BND (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



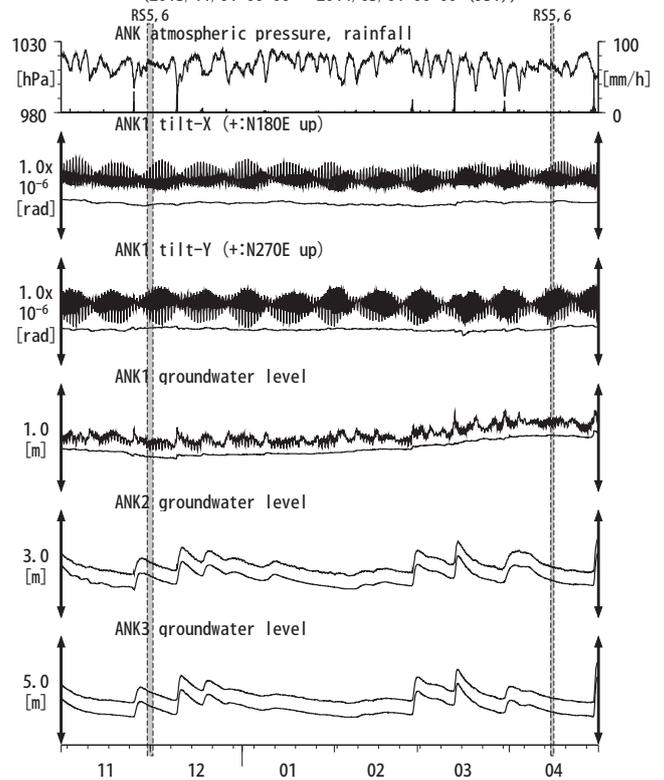
Strainmeter depth = 495.0-498.0 [GL-m]
Screen depth = 419.9-430.8 [GL-m]
上: strainは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、strainは1次トレンドも除去

第23図 Crustal strains at ANK (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

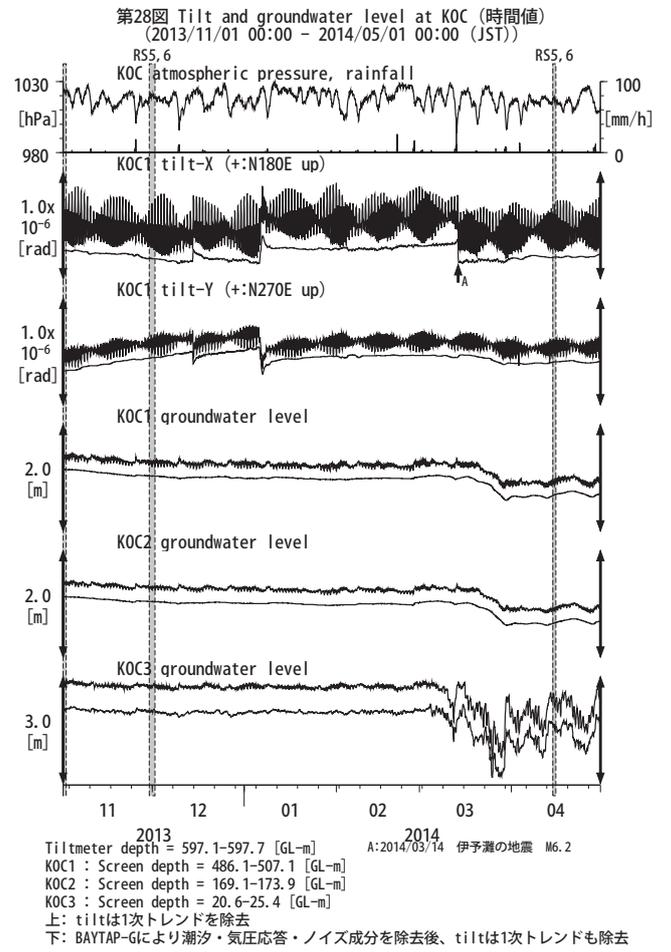
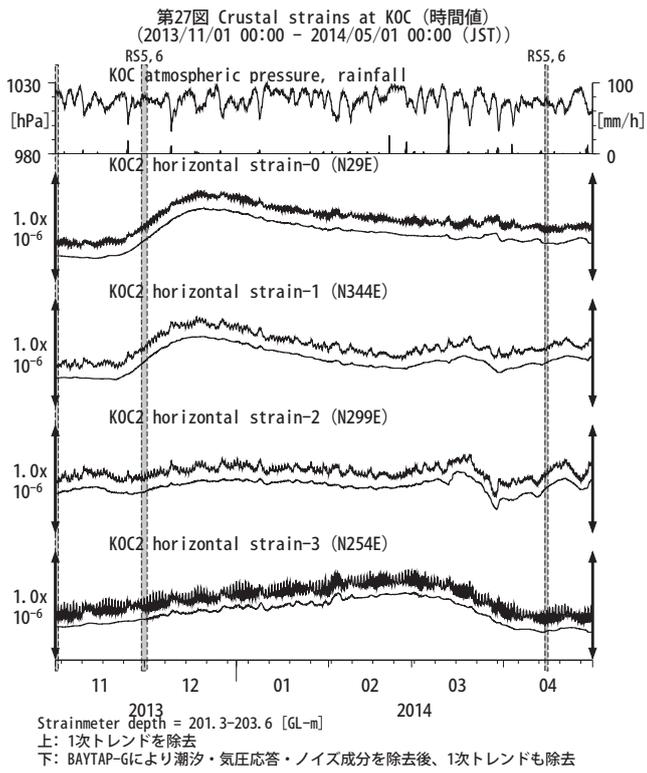
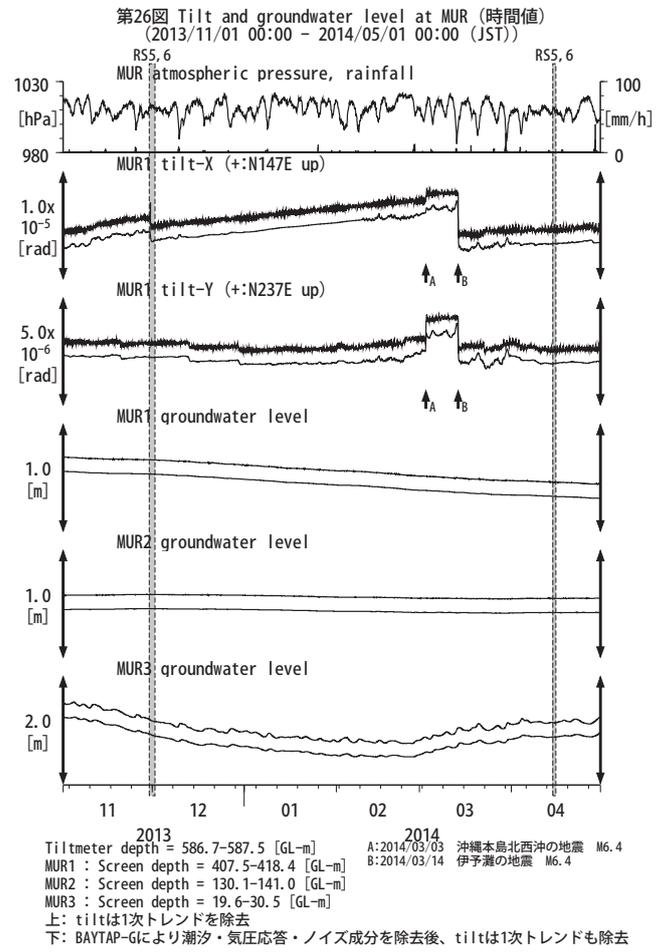
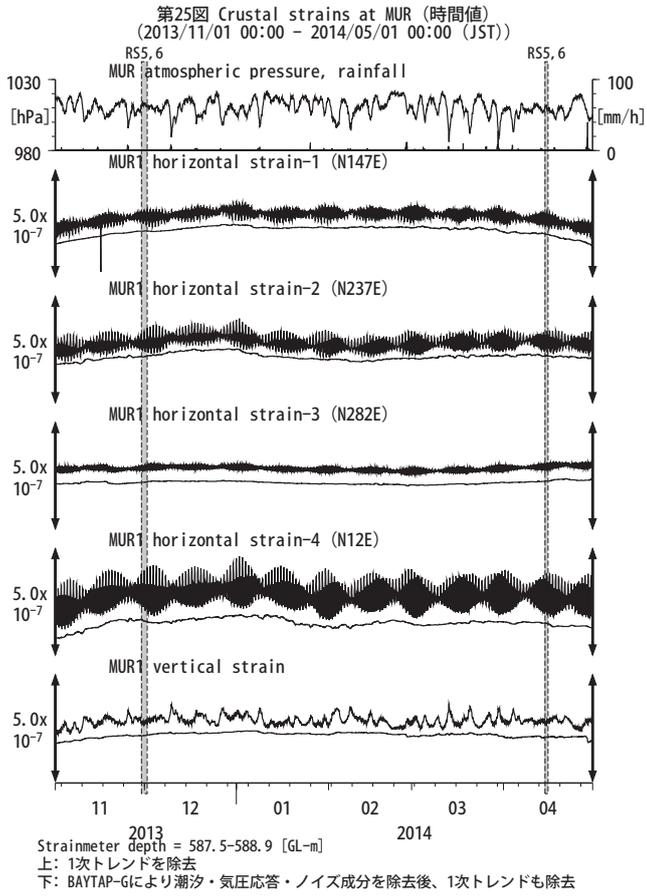


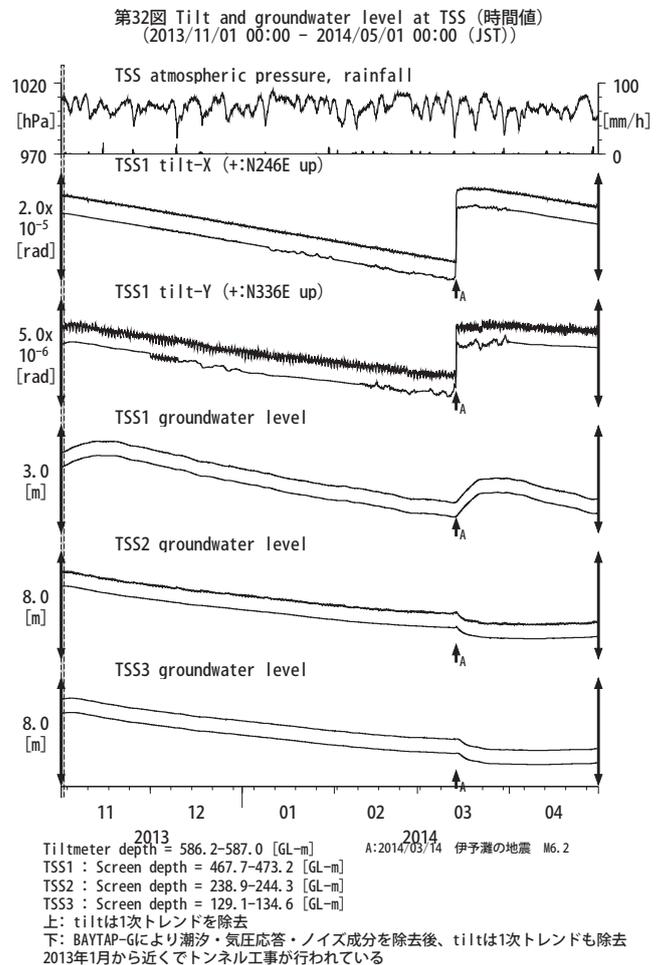
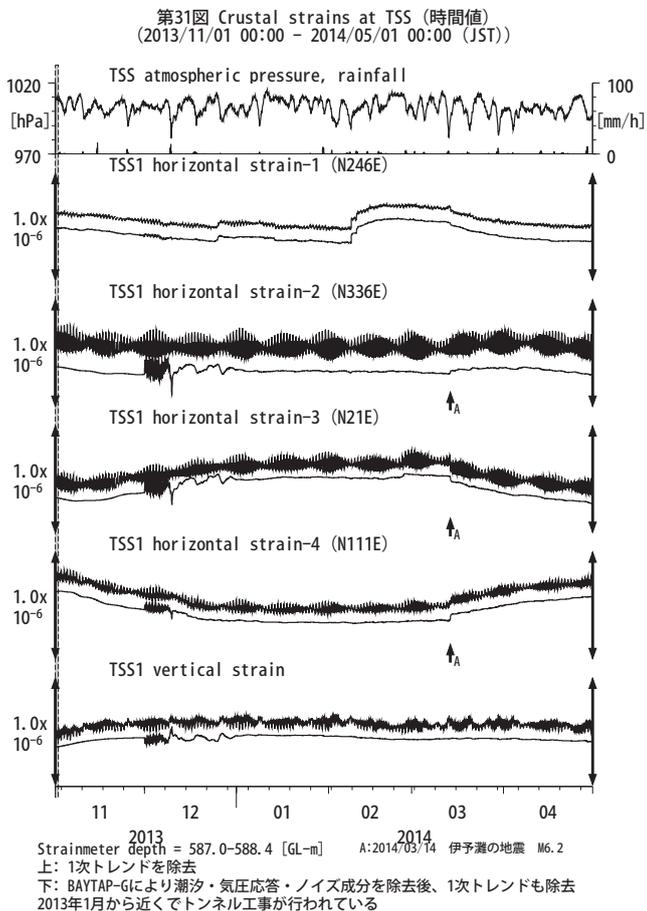
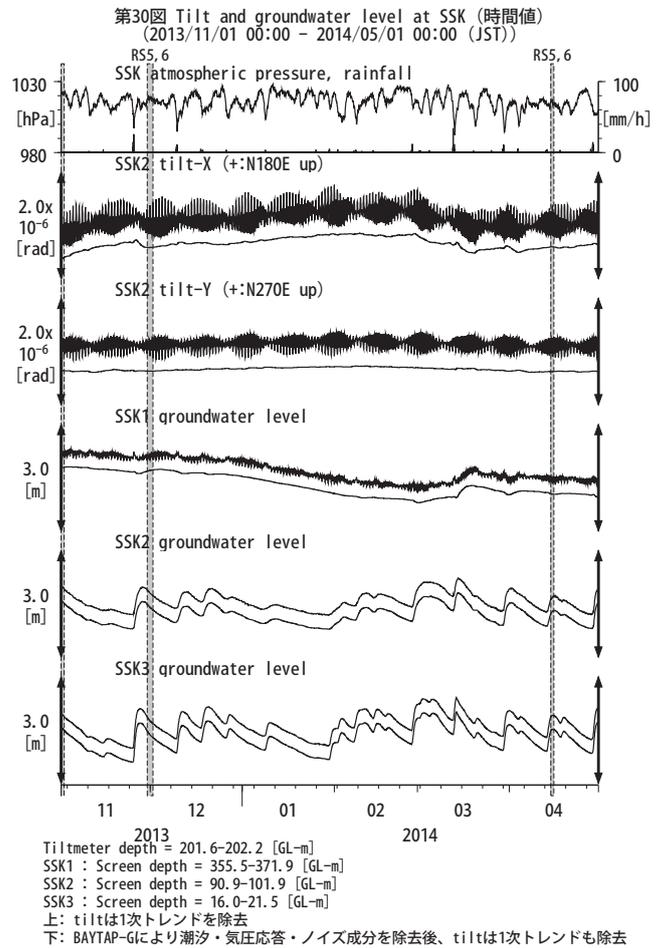
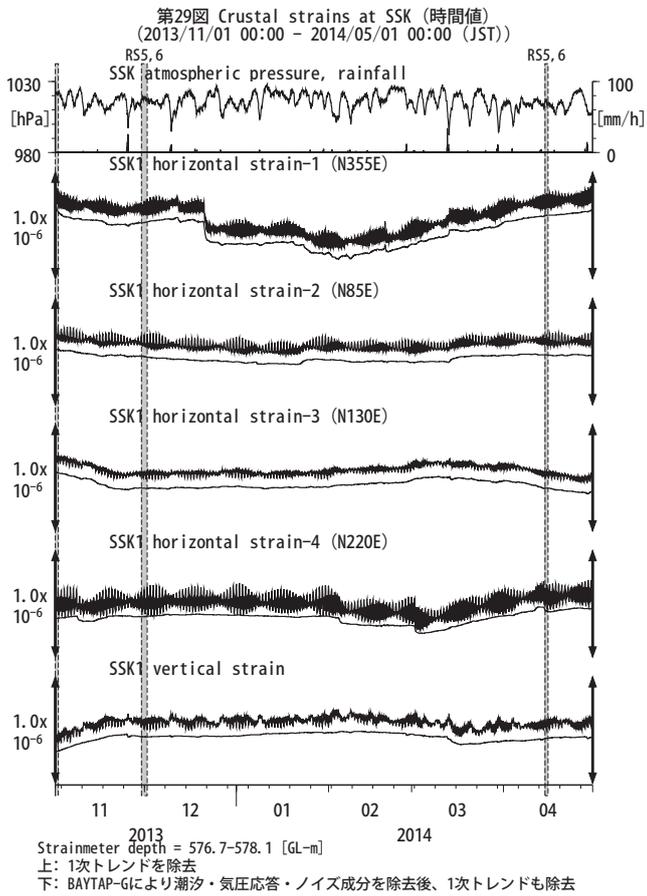
Strainmeter depth = 166.0-168.3 [GL-m]
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第24図 Tilt and groundwater level at ANK (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

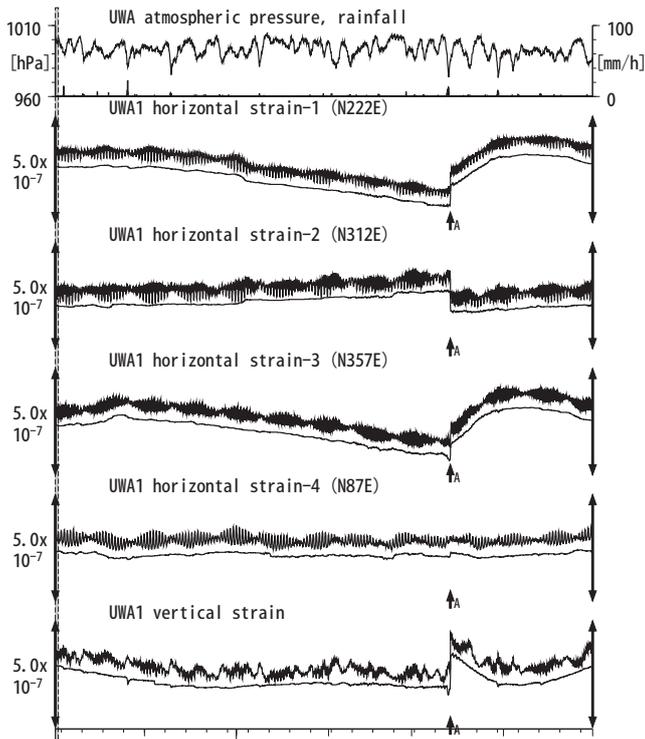


Tiltmeter depth = 616.7-617.3 [GL-m]
ANK1 : Screen depth = 488.8-516.0 [GL-m]
ANK2 : Screen depth = 89.7-100.5 [GL-m]
ANK3 : Screen depth = 16.2-21.6 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去



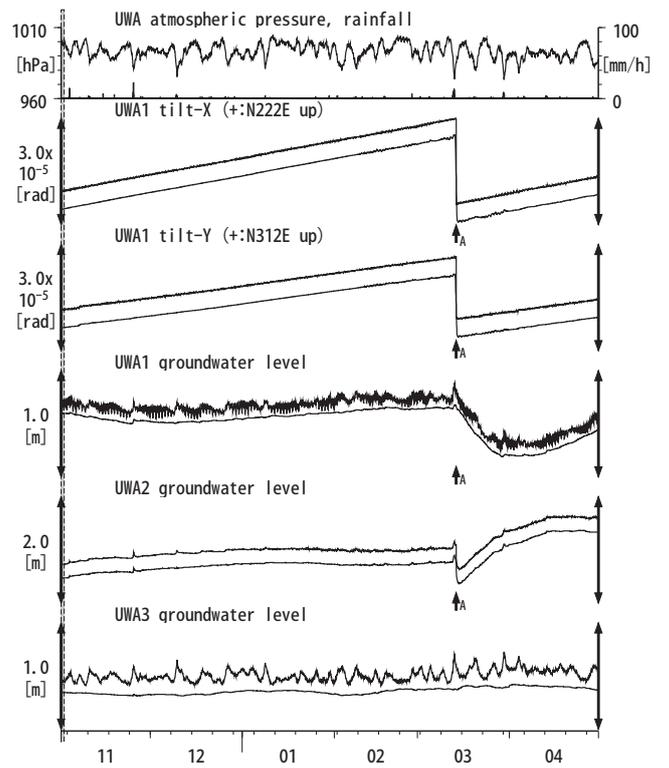


第33図 Crustal strains at UWA (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



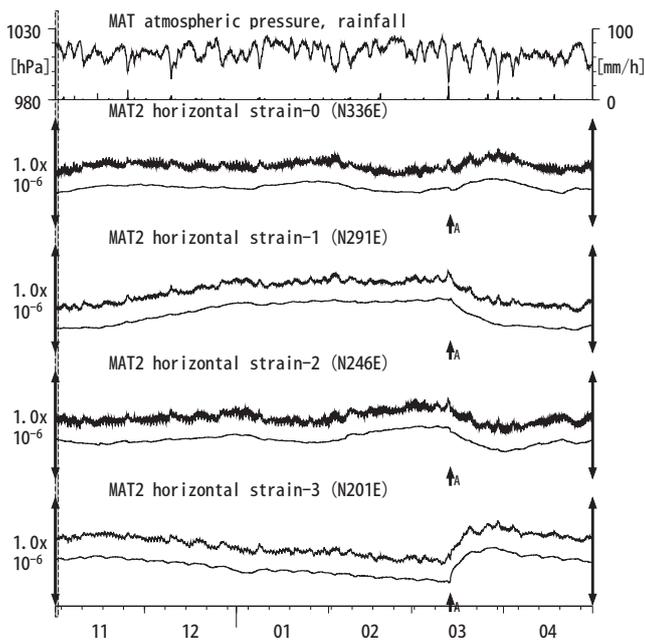
Strainmeter depth = 590.0-591.4 [GL-m] A:2014/03/14 伊予灘の地震 M6.2
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

第34図 Tilt and groundwater level at UWA (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



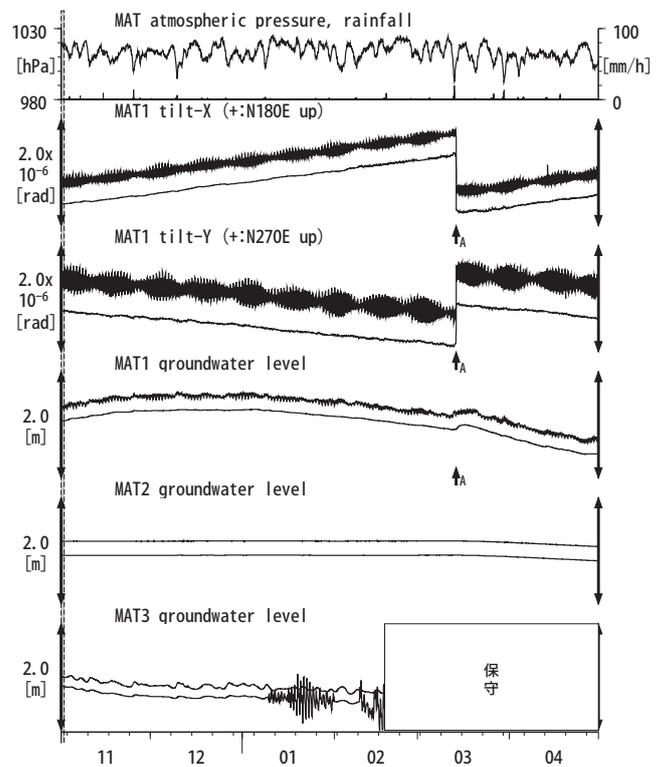
Tiltmeter depth = 589.2-590.0 [GL-m] A:2014/03/14 伊予灘の地震 M6.2
UWA1 : Screen depth = 446.4-457.4 [GL-m]
UWA2 : Screen depth = 68.9-79.9 [GL-m]
UWA3 : Screen depth = 13.6-18.4 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

第35図 Crustal strains at MAT (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

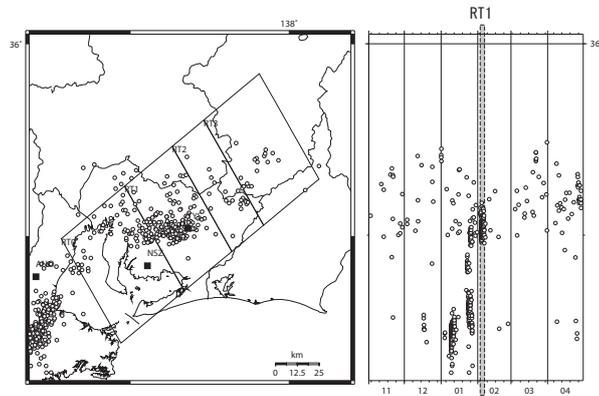
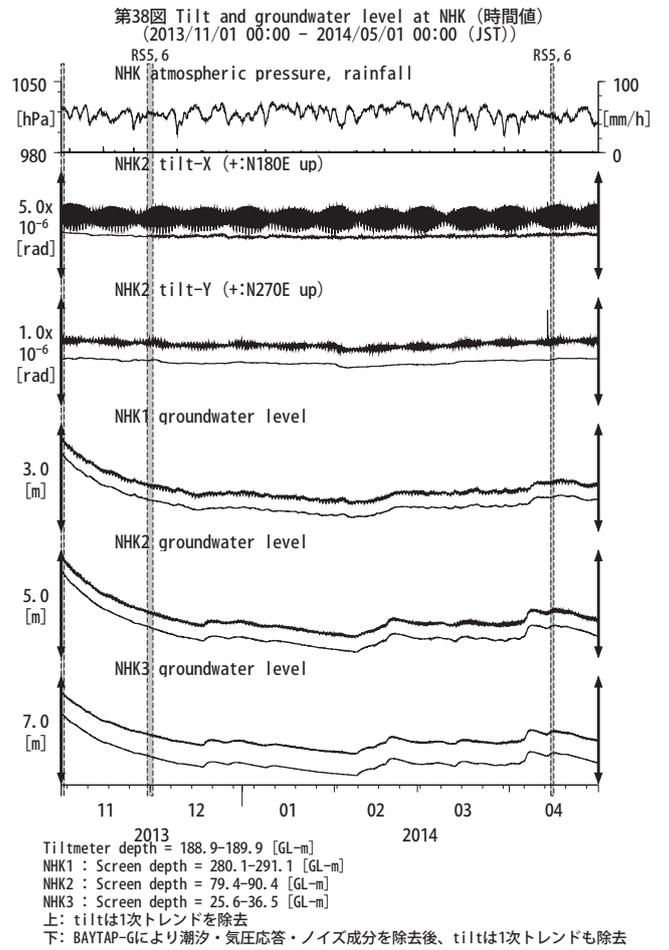
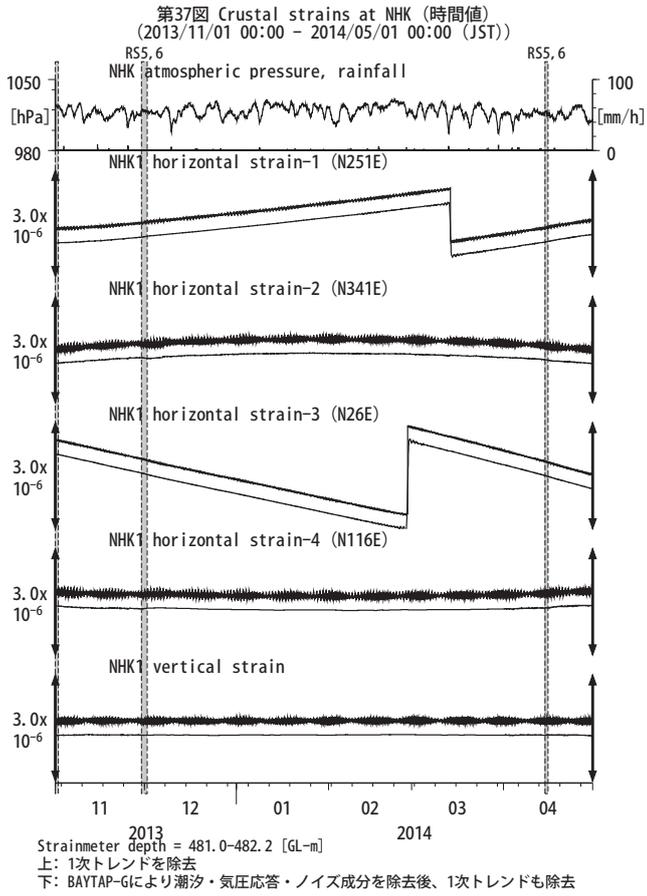


Strainmeter depth = 200.8-203.1 [GL-m] A:2014/03/14 伊予灘の地震 M6.2
上: 1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、1次トレンドも除去

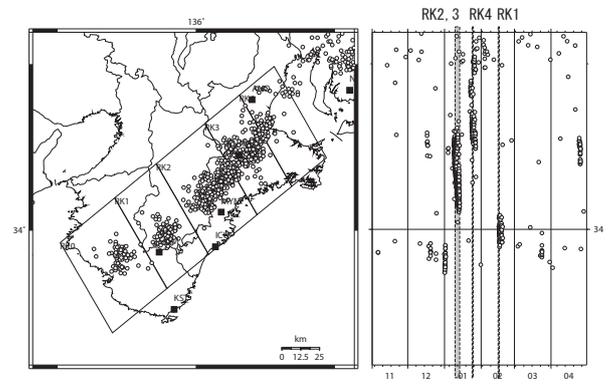
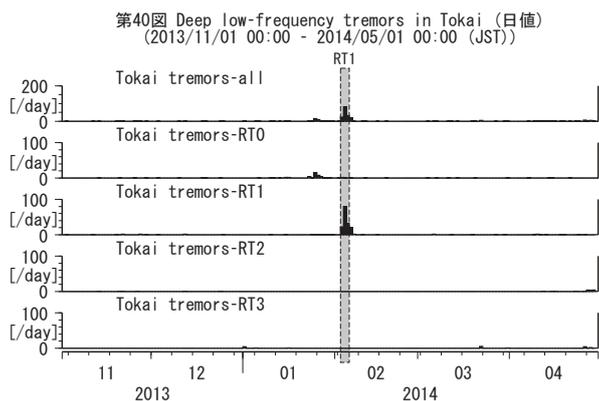
第36図 Tilt and groundwater level at MAT (時間値)
(2013/11/01 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))



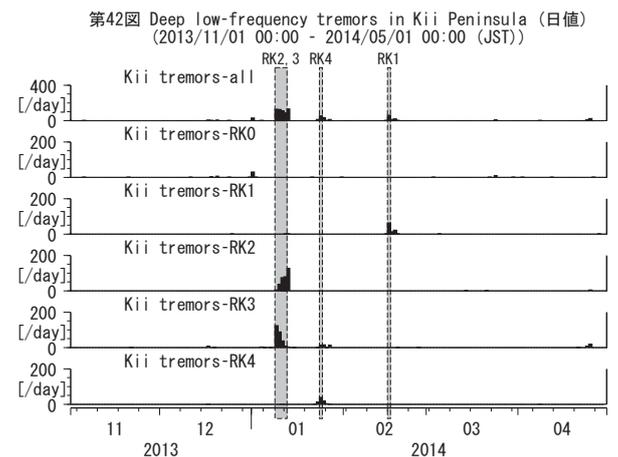
Tiltmeter depth = 596.7-597.3 [GL-m] A:2014/03/14 伊予灘の地震 M6.2
MAT1 : Screen depth = 512.2-528.6 [GL-m]
MAT2 : Screen depth = 170.2-181.1 [GL-m]
MAT3 : Screen depth = 17.0-22.5 [GL-m]
上: tiltは1次トレンドを除去
下: BAYTAP-Gにより潮汐・気圧応答・ノイズ成分を除去後、tiltは1次トレンドも除去

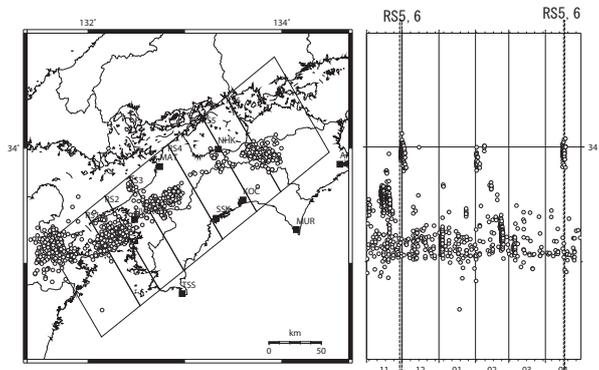


第39図 東海地方における深部低周波微動の時空間分布図(産総研による決定)

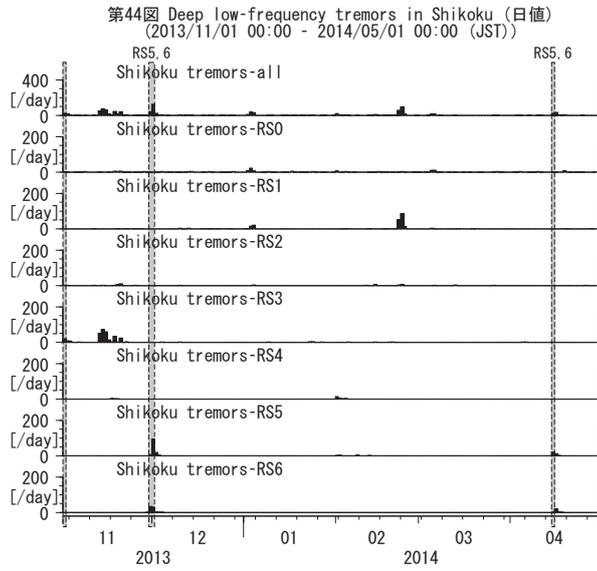


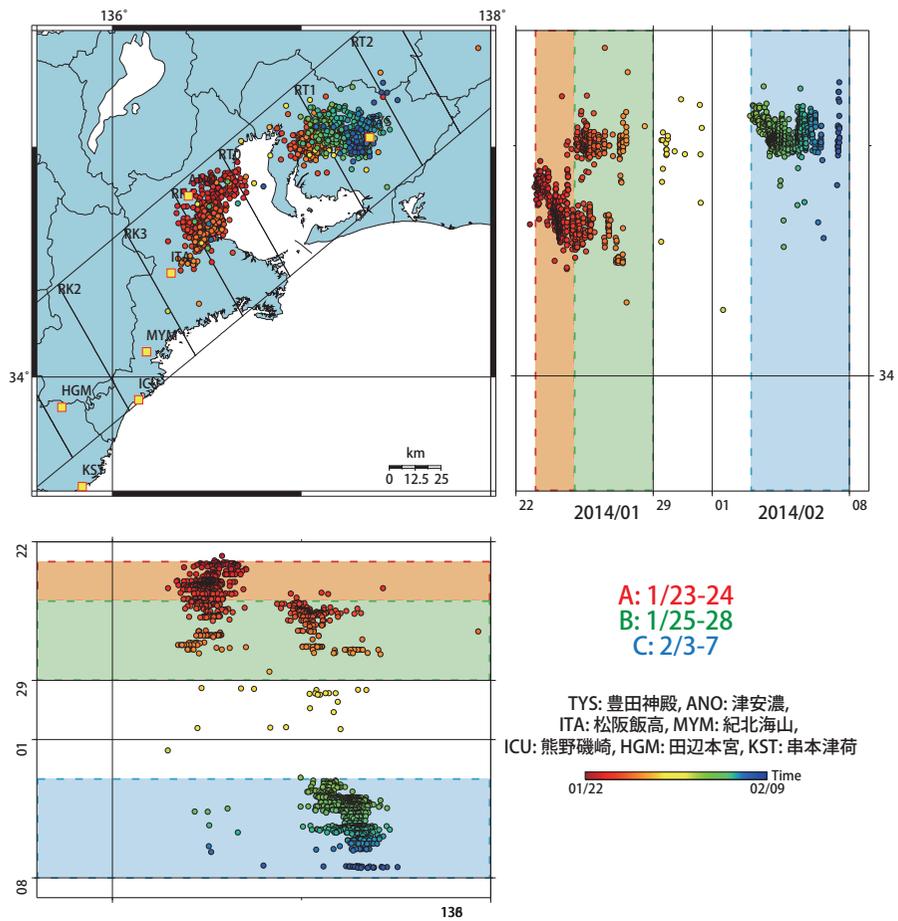
第41図 紀伊半島における深部低周波微動の時空間分布図(産総研による決定)



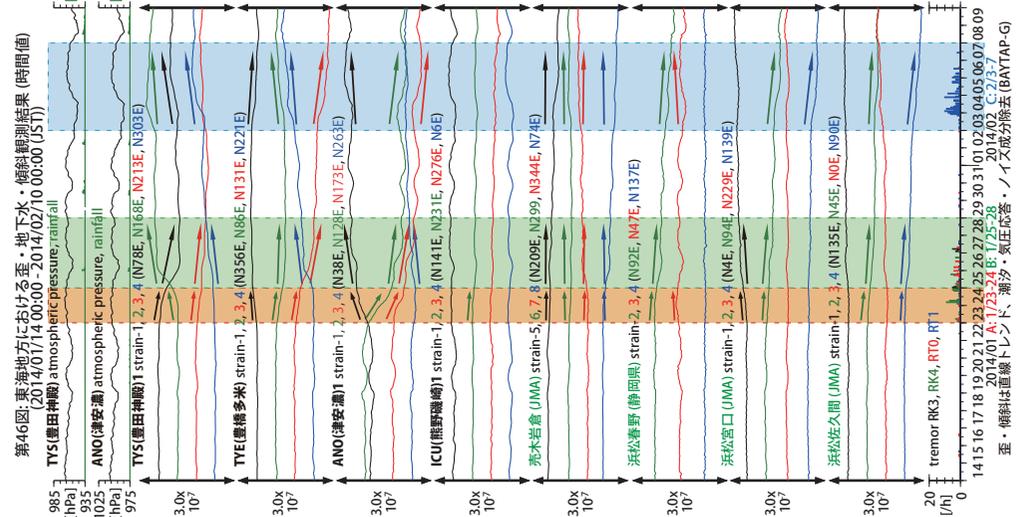
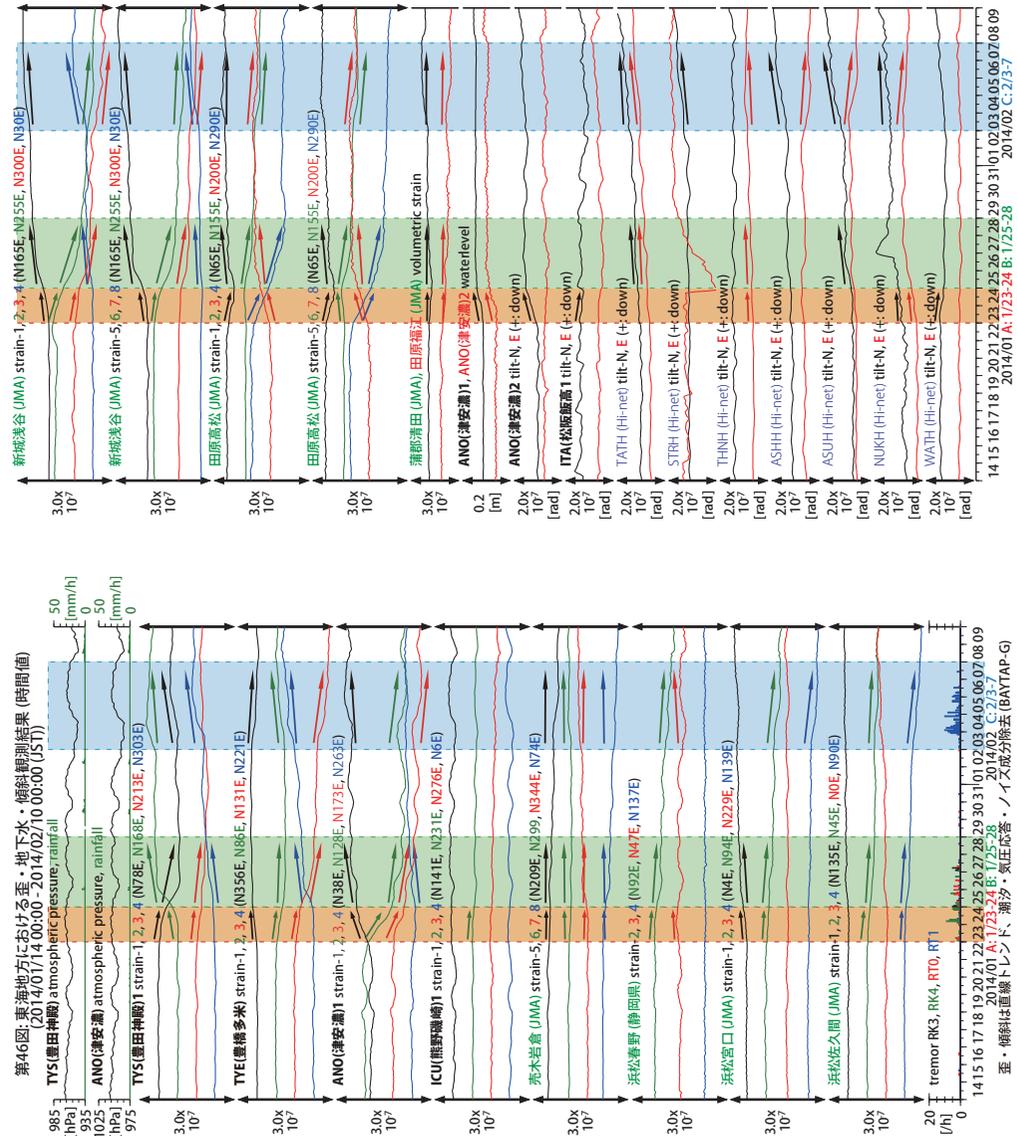


第43図 四国地方における深部低周波微動の時空間分布図(産総研による決定)

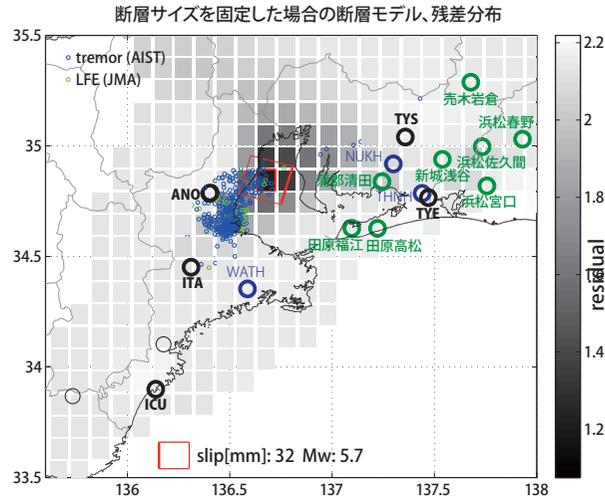




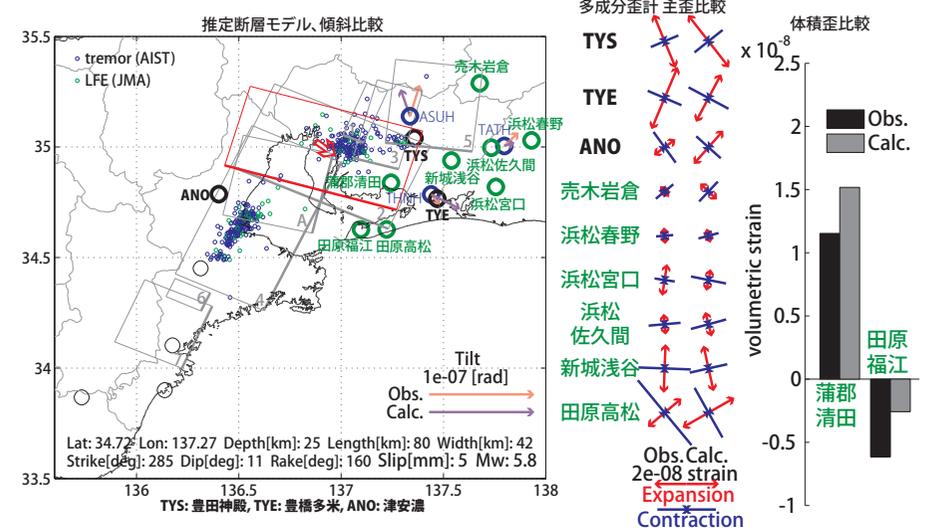
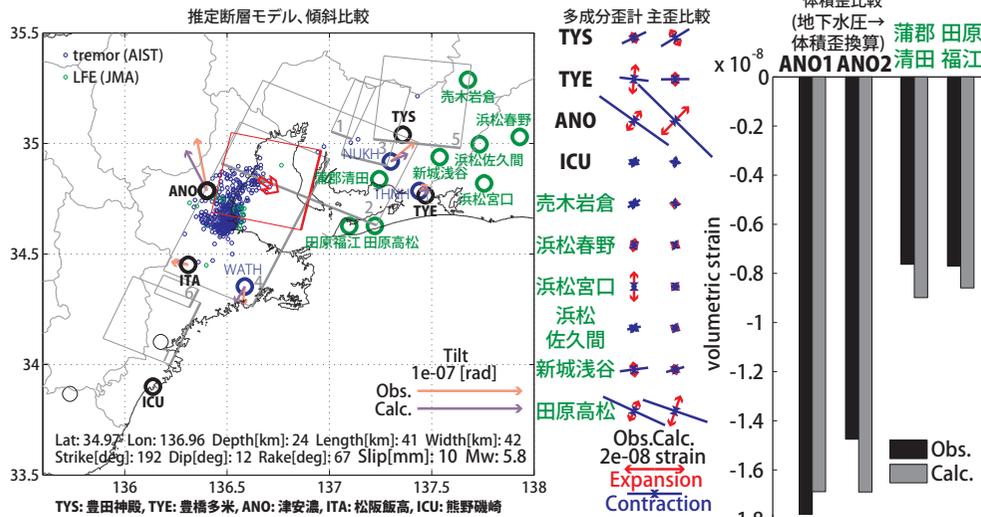
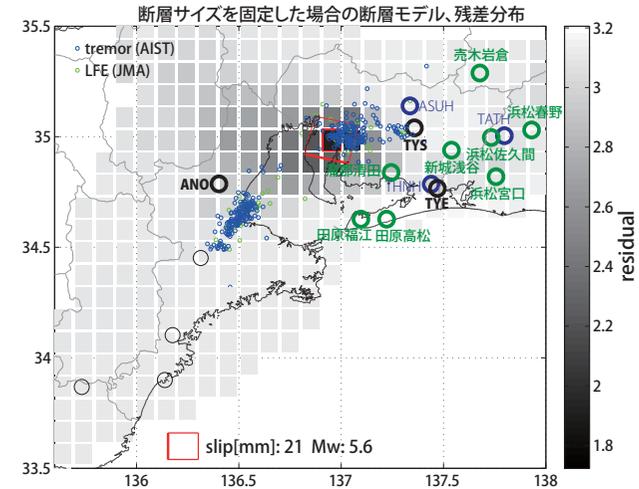
第45図: 2014/1/22 0:00 - 2/9 0:00 における紀伊半島東部～愛知県周辺の深部低周波微動の時空間分布図。エンベロープ相関法により決定。



A: 2014/1/23-25



B: 2014/1/25-28



第47図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。
 1: 2013年6月11-12日(Mw5.3), 2: 同月28日-7月3日(Mw5.7), 3: 同年8月3日午後-12日午前(Mw5.7)
 4: 同年9月8-10日(Mw5.8), 5: 同月29日-10月6日(Mw5.9), 6: 2014年1月9-11日午前(Mw5.6),
 7: 同月11日午後-13日(Mw5.6)

傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪および、体積歪(地下水圧は体積歪変換)の歪観測値・モデルからの計算値との比較を右側に示す。

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。

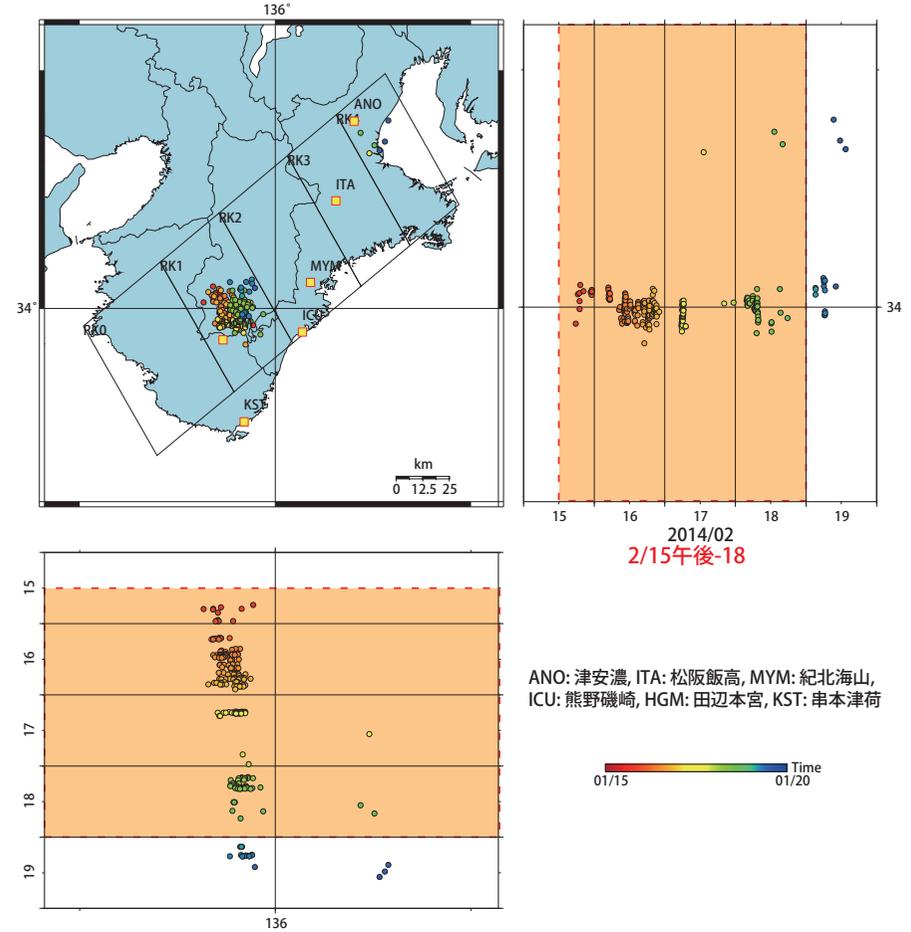
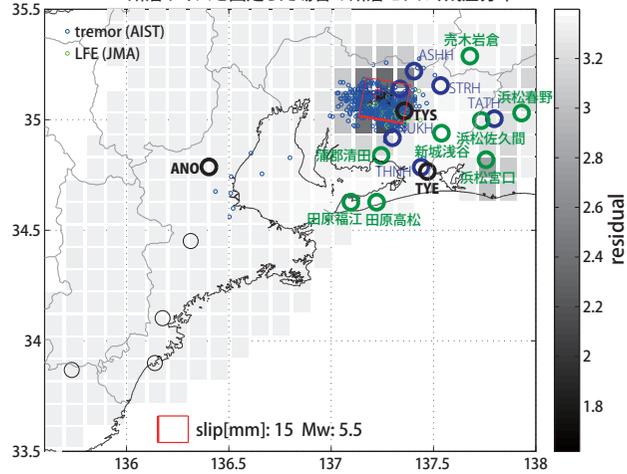
第48図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。
 1: 2013年6月11-12日(Mw5.3), 2: 同月28日-7月3日(Mw5.7), 3: 同年8月3日午後-12日午前(Mw5.7)
 4: 同年9月8-10日(Mw5.8), 5: 同月29日-10月6日(Mw5.9), 6: 2014年1月9-11日午前(Mw5.6),
 7: 同月11日午後-13日(Mw5.6), A: 同月23-25日(Mw5.8)

傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪および、体積歪の歪観測値・モデルからの計算値との比較を右側に示す。

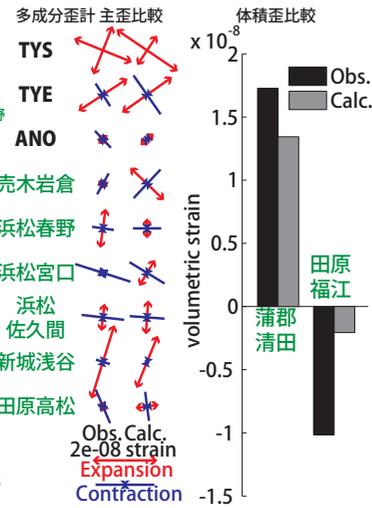
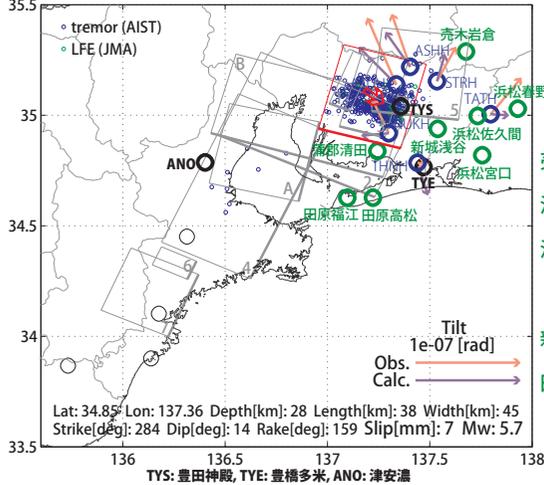
(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



第50図: 2014/1/15 0:00 - 1/20 0:00 における紀伊半島の深部低周波微動の時空間分布図。エンペローブ相関法により決定。

推定断層モデル、傾斜比較



第49図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

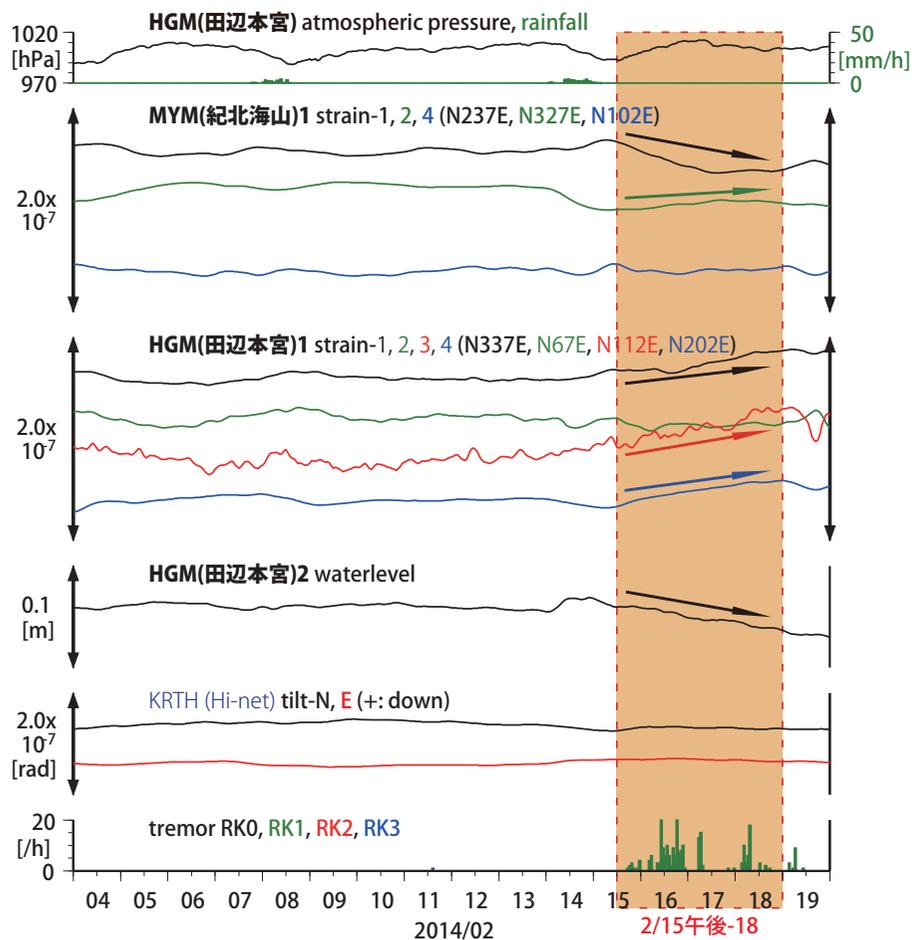
(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。
 1: 2013年6月11-12日(Mw5.3), 2: 同月28日-7月3日(Mw5.7), 3: 同年8月3日午後-12日午前(Mw5.7)
 4: 同年9月8-10日(Mw5.8), 5: 同月29日-10月6日(Mw5.9), 6: 2014年1月9-11日午前(Mw5.6),
 7: 同月11日午後-13日(Mw5.6), A: 同月23-25日(Mw5.8)

傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪および、体積歪の歪観測値・モデルからの計算値との比較を右側に示す。

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を、緑色は気象庁の観測点名を示す。

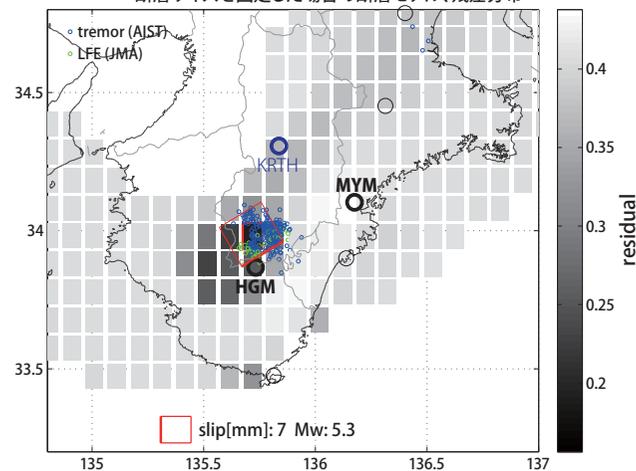
2/15午後-18

第51図: 紀伊半島における歪・地下水・傾斜観測結果
(2014/02/04 00:00 - 2014/02/20 00:00 (JST))

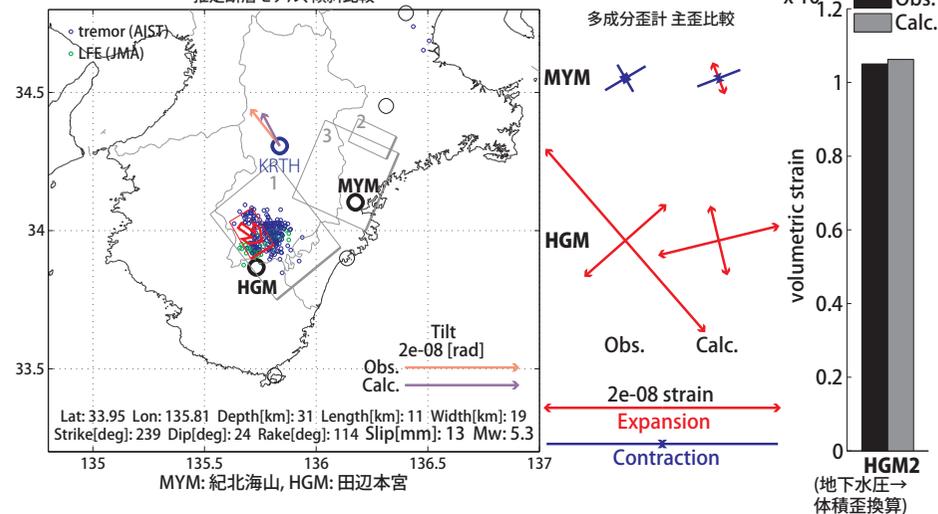


歪・傾斜は直線トレンド、潮汐・気圧応答・ノイズ成分除去 (BAYTAP-G)

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



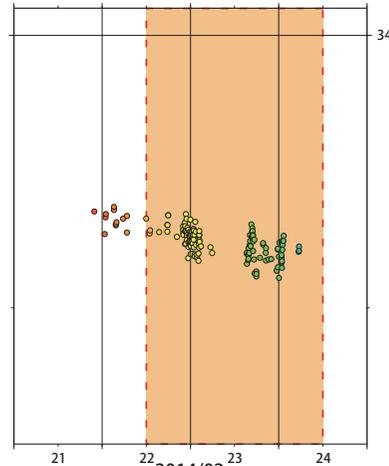
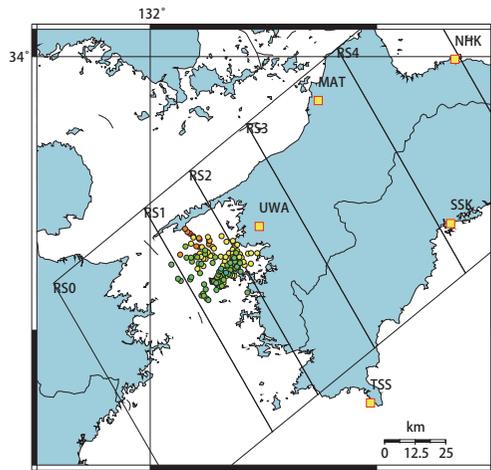
推定断層モデル、傾斜比較



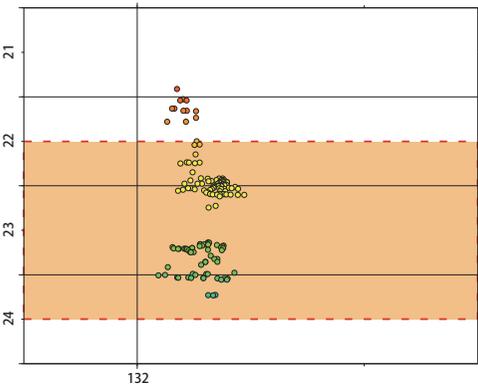
第52図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。1: 2013年10月26-27日(Mw5.5), 2: 2014年1月9-11日午前(Mw5.6), 3: 同月11日午後-13日(Mw5.6) 傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪および、体積歪(地下水圧は体積歪変換)の歪観測値・モデルからの計算値との比較を右側に示す。

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色は産総研の、青色は防災科研Hi-netの観測点を示す。

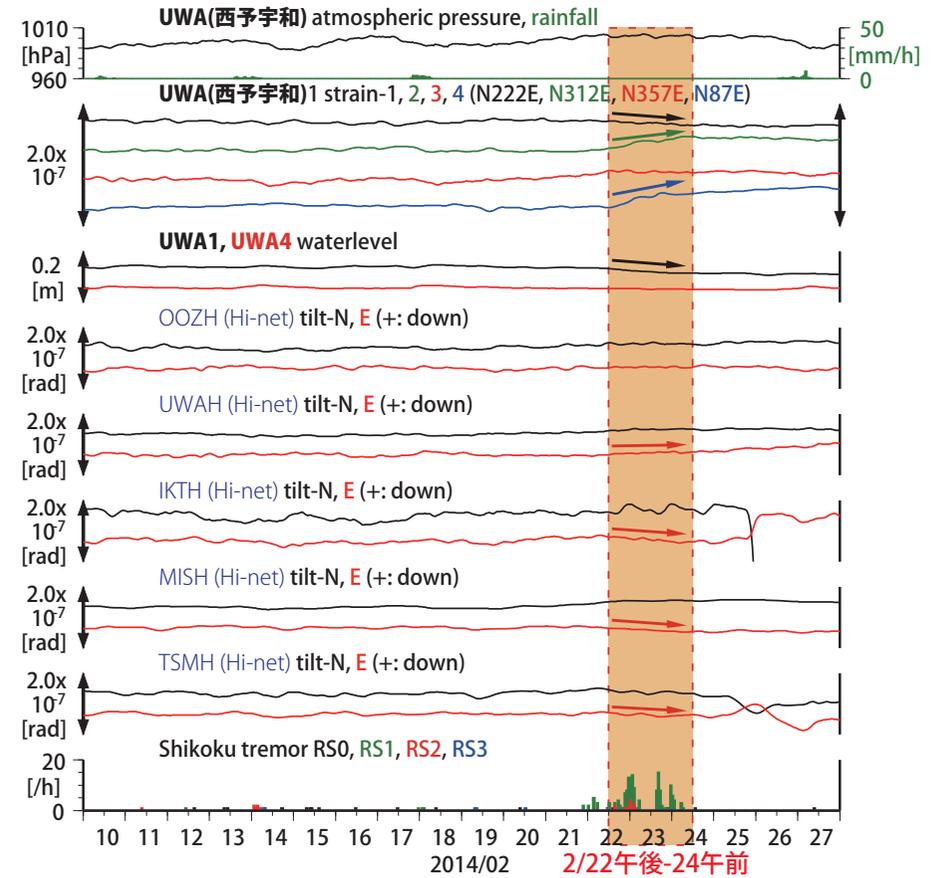


MAT: 松山南江戸, UWA: 西予宇和
SSK: 須崎大谷, TSS: 土佐清水松尾



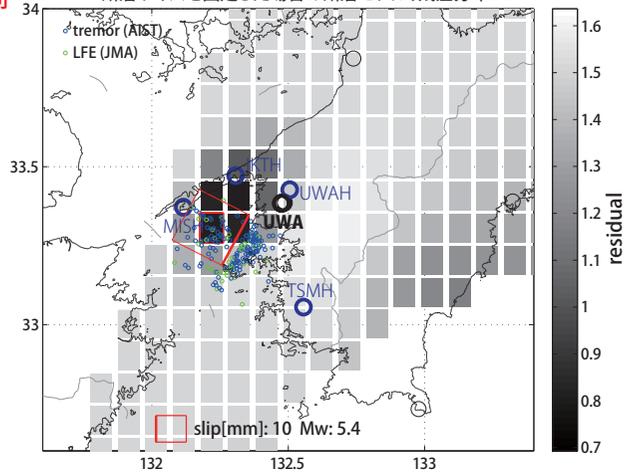
第53図: 2014/02/21 0:00 - 02/25 0:00 における四国西部~豊後水道周辺の深部低周波微動の時空間分布図。エンベロープ相関法により決定。

第54図: 四国における歪・傾斜観測結果
(2014/02/10 00:00 - 2014/02/28 00:00 (JST))

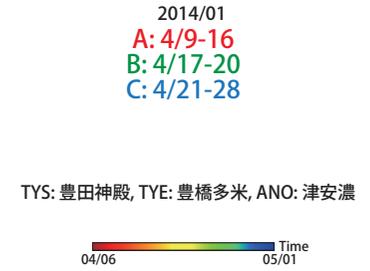
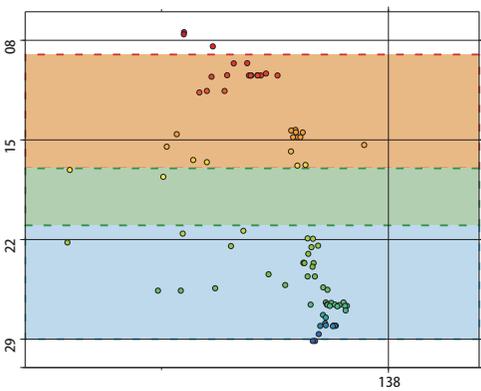
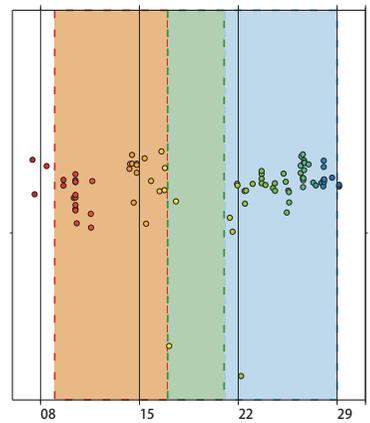
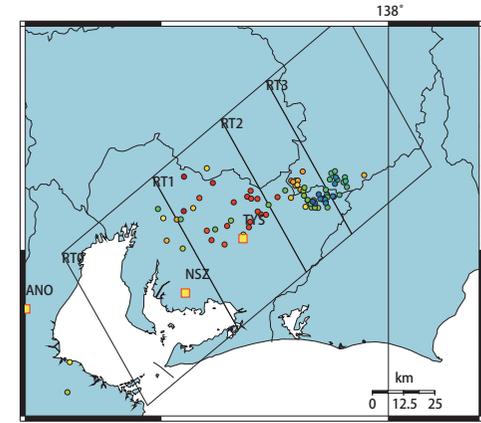
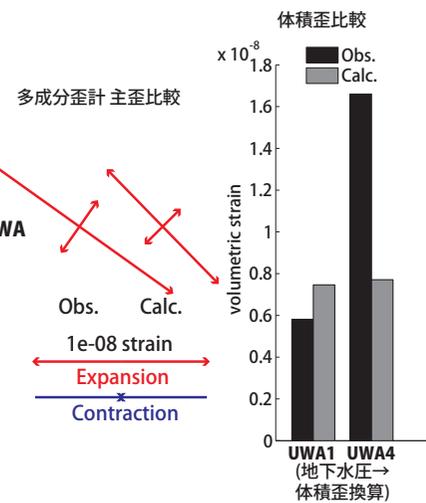
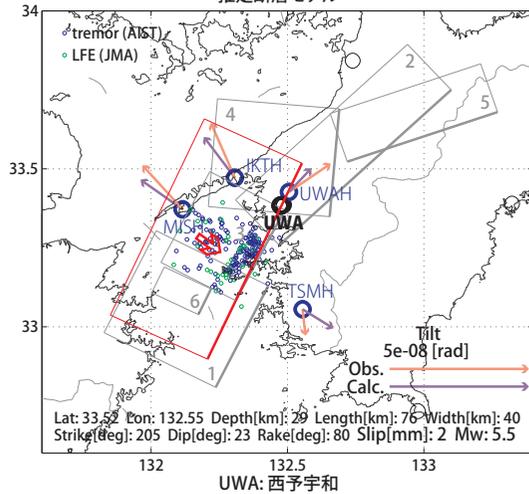


2/22午後-24午前

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



推定断層モデル



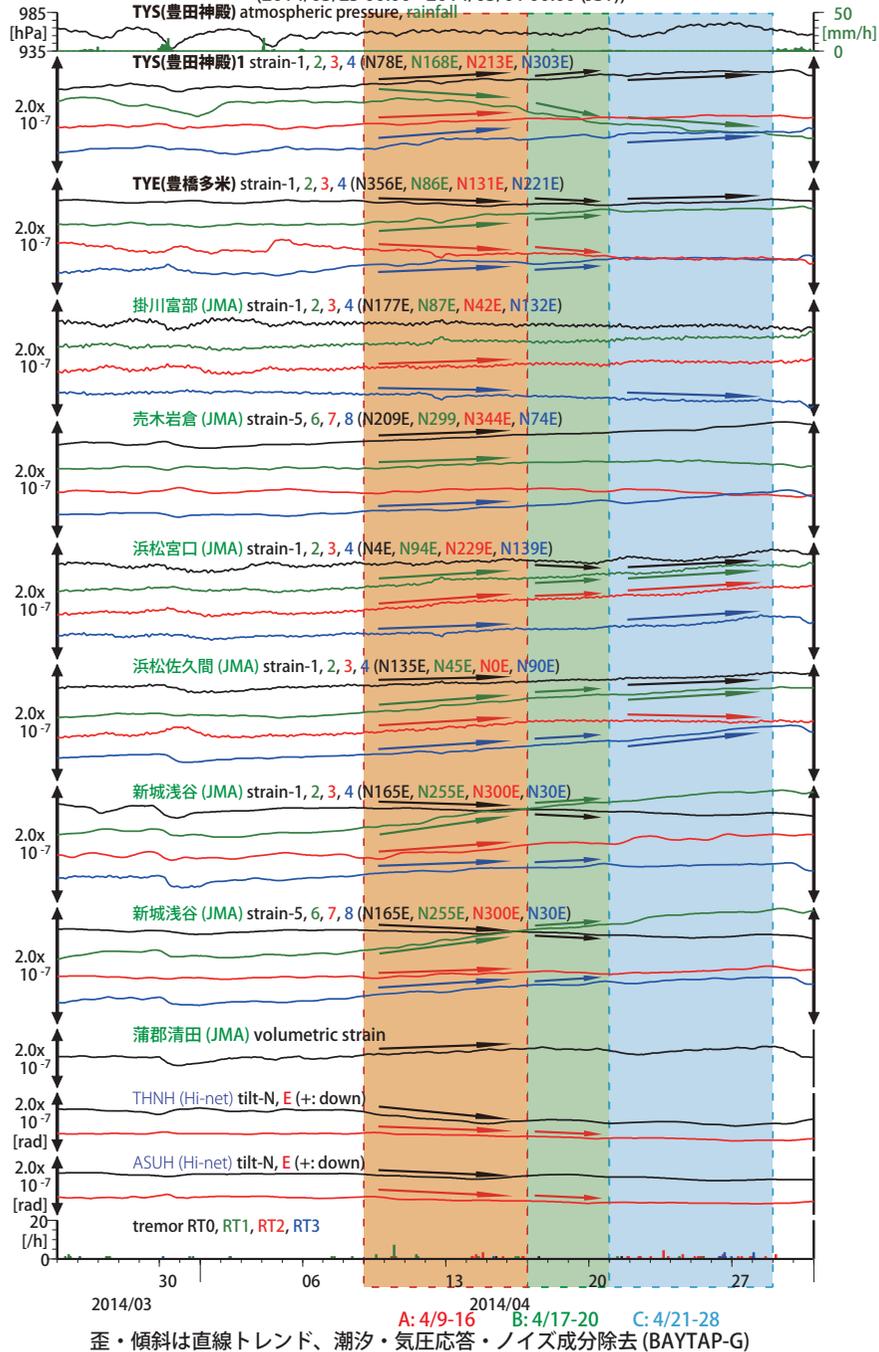
第55図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層モデル推定結果(赤色矩形)。傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、周辺で最近発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2013年5月28-30日午前(Mw5.7), 2: 同年6月2日午後-5日(Mw5.7), 3: 同年10月26日-27日午前(Mw5.5), 4: 同月29-30日(Mw5.7), 5: 同年11月13-18日(Mw5.8), 6: 2014年1月2-4日(Mw5.6)
 (共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色太字は産総研の、青色細字は防災科研Hi-netの観測点を示す。

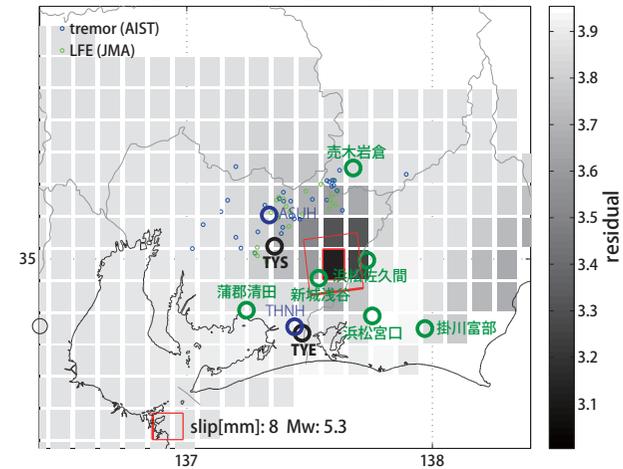
第56図: 2014/4/9 0:00 - 5/1 0:00 における愛知県周辺の深部低周波微動の時空間分布図。エンペローブ相関法により決定。

第57図: 東海地方における歪・傾斜観測結果(時間値)
(2014/03/25 00:00 - 2014/05/01 00:00 (JST))

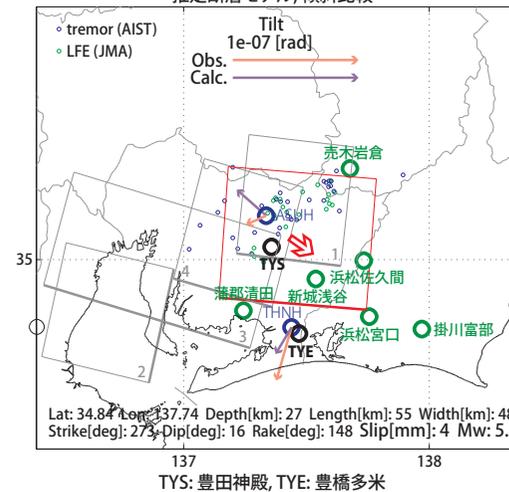


A: 4/9-16

断層サイズを固定した場合の断層モデル、残差分布



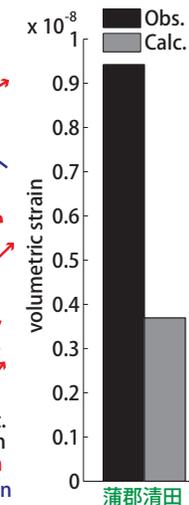
推定断層モデル、傾斜比較



主歪比較



体積歪比較

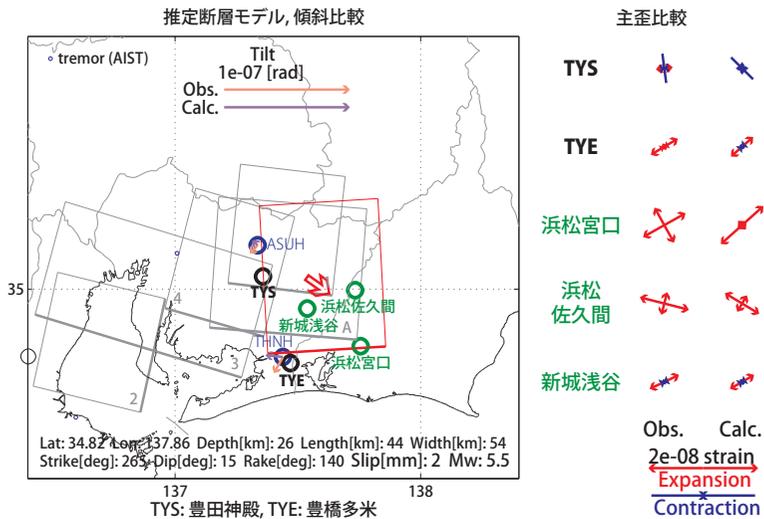
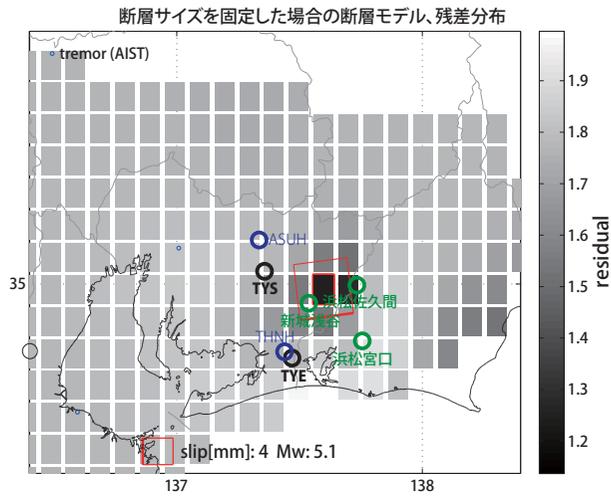


第58図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。位置を微動域に限定して推定した。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。
1: 2013年9月29日-10月6日午前(Mw5.9), 2: 2014年1月23-24日(Mw5.8), 3: 同月25-28日(Mw5.8), 4: 同年2月3-7日(Mw5.7)

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は産総研の新解析手法による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研、緑字は気象庁、青色細字は防災科Hi-netの観測点名を示す。

B: 4/17-20

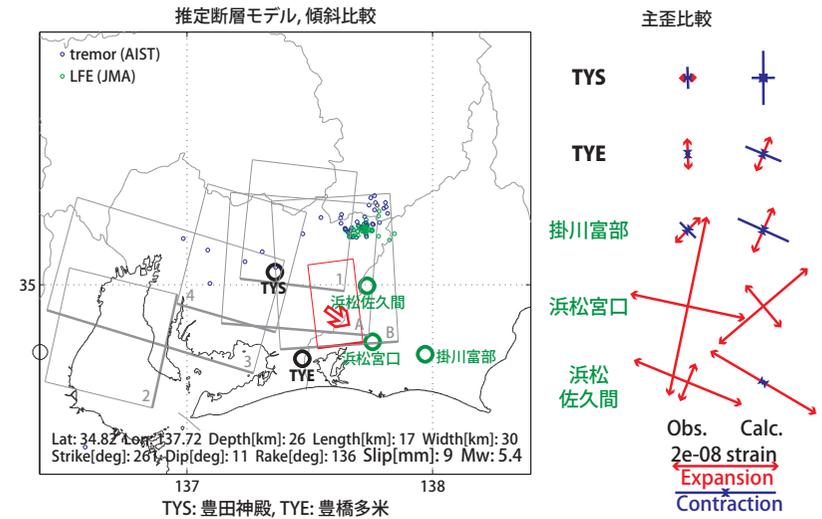
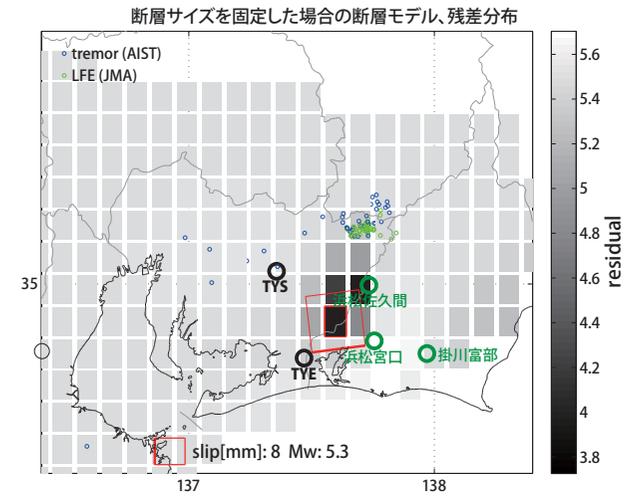


第59図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。位置を微動域に限定して推定した。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。
 1: 2013年9月29日-10月6日午前(Mw5.9), 2: 2014年1月23-24日(Mw5.8), 3: 同月25-28日(Mw5.8),
 4: 同年2月3-7日(Mw5.7), A: 同年4月9-16日(Mw5.7)

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は産総研の新解析手法による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研、緑字は気象庁、青色細字は防災科研Hi-netの観測点名を示す。

C: 4/21-28

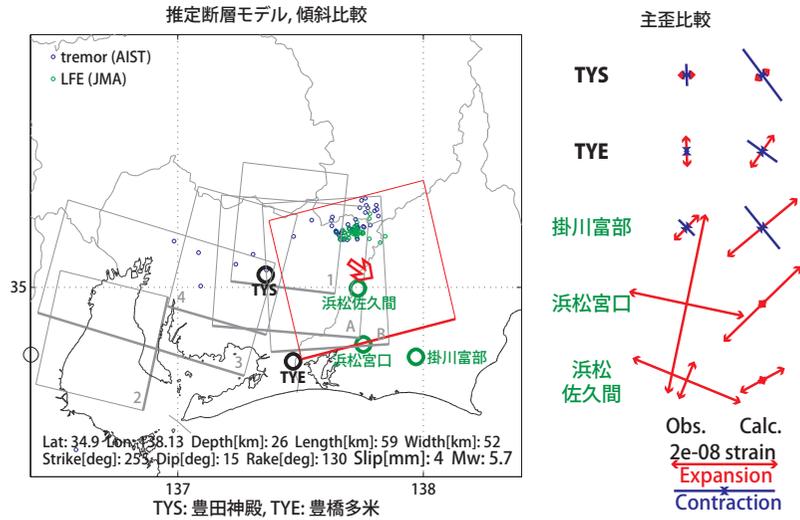


第60図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段)断層面推定結果(赤色矩形)。位置を微動域に限定して推定した。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。
 1: 2013年9月29日-10月6日午前(Mw5.9), 2: 2014年1月23-24日(Mw5.8), 3: 同月25-28日(Mw5.8),
 4: 同年2月3-7日(Mw5.7), A: 同年4月9-16日(Mw5.7), B: 同年17-20日(Mw5.5)

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は産総研の新解析手法による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研、緑字は気象庁、青色細字は防災科研Hi-netの観測点名を示す。

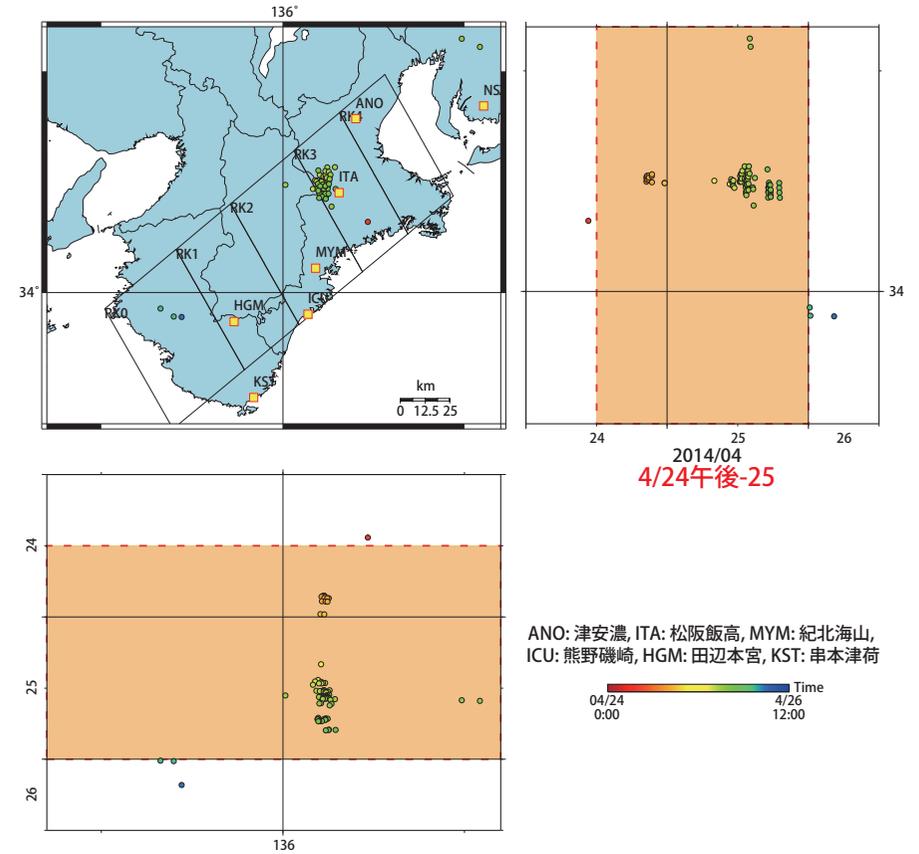
C: 4/21-28



第61図: 主な微動発生領域を含むように断層面を推定した結果(赤色矩形)。位置を微動域に限定して推定した。主歪の観測値とモデルからの計算値との比較を右側に示す。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

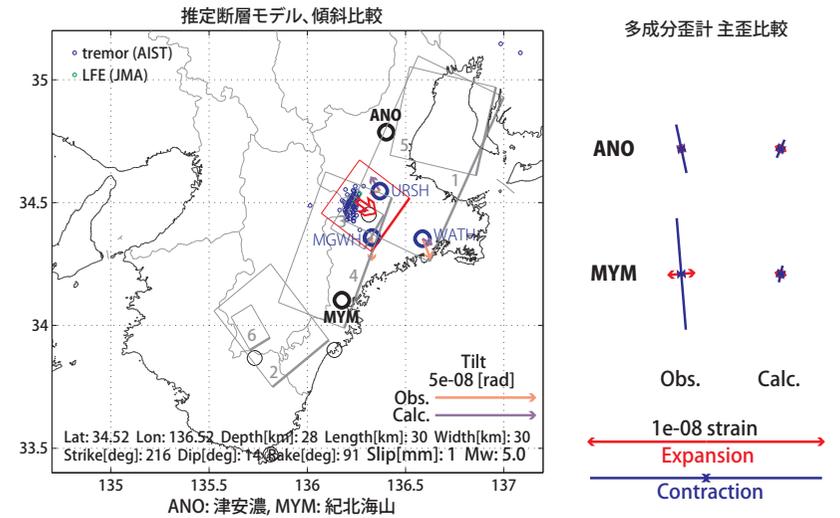
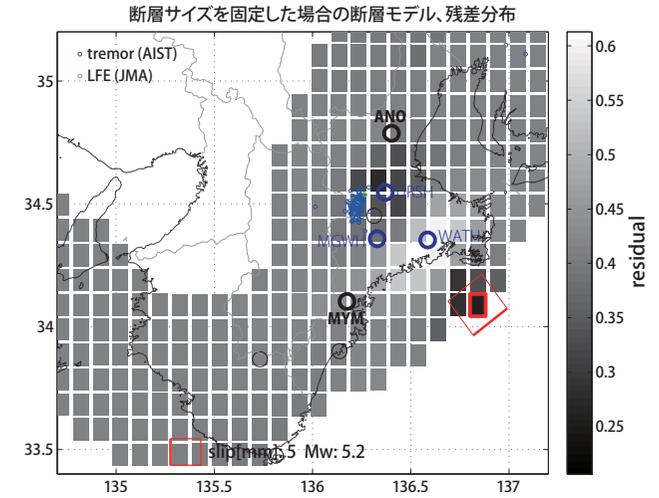
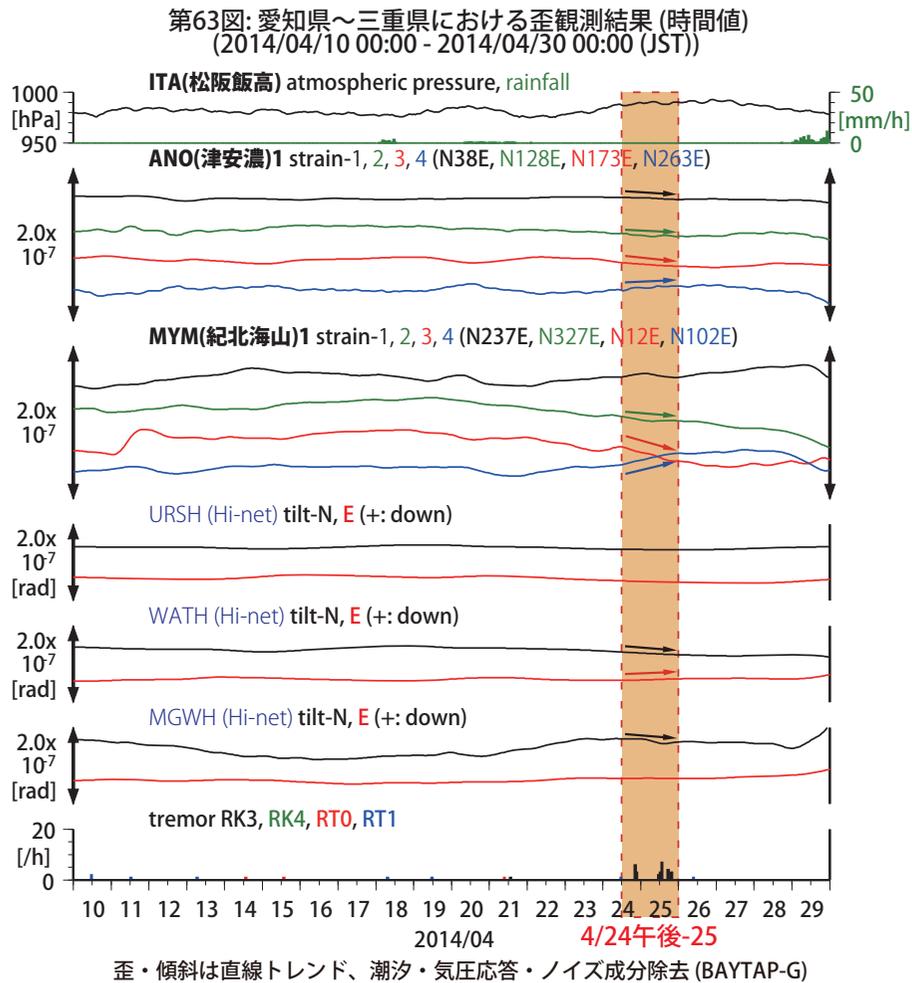
1: 2013年9月29日-10月6日午前(Mw5.9), 2: 2014年1月23-24日(Mw5.8), 3: 同月25-28日(Mw5.8), 4: 同年2月3-7日(Mw5.7), A: 同年4月9-16日(Mw5.7), B: 同月17-20日(Mw5.5)

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、小さい緑色丸印は産総研の新解析手法による深部低周波微動の震央位置を示す。黒色太字は産総研、緑字は気象庁、青色細字は防災科研Hi-netの観測点名を示す。



第62図: 2014/4/24 0:00 - 4/26 12:00 における紀伊半島周辺の深部低周波微動の時空間分布図。エンベロープ相関法により決定。

4/24午後-25



第64図: (上段)プレート境界面上のパッチ(断層面)をすべらせた際の、歪・傾斜の観測値と計算値の残差分布図。断層面サイズは固定(20x20km)。赤色矩形は最小残差の断層面を表す。このパッチのすべり量、Mwを下部に示している。

(下段) 微動発生領域に限定して断層面を推定した結果(赤色矩形)。灰色の矩形は、最近周辺で発生した短期的SSEの推定断層面を示す。

1: 2013年9月8-10日(Mw5.8), 2: 同年10月26-27日(Mw5.5), 3: 2014年1月9-11日午前(Mw5.6), 4: 同月11日午後-13日(Mw5.6), 5: 同月23-25日(Mw5.8), 同年2月15日午後-18日(Mw5.3)

傾斜の観測値・モデルからの計算値との比較を地図内に、主歪の観測値・モデルからの計算値との比較を右側に示す。

(共通)小さい青色丸印は産総研による深部低周波微動、緑色丸印は気象庁一元化カタログによる低周波イベントの震央位置を示す。黒色太字は産総研の、青色細字は防災科研Hi-netの観測点を示す。

近畿地域の地下水位・歪観測結果（2014年2月～2014年4月）

産業技術総合研究所

2014年2月～2014年4月の近畿地域におけるテレメータによる地下水位およびボアホール型歪計による地殻歪（水平3成分）の観測結果を報告する。観測点は13点（観測井は15井戸）である（第1図）。同期間中に第1図で示す範囲内で、M4以上で深さ30kmより浅い地震はない。

第2～5図には、2013年11月～2014年4月における地下水位1時間値の生データ（上線）と補正值（下線）を示す。ボアホール型歪計が併設してある観測点については、同期間における歪3成分の観測値（生データ）も示す。歪の図において「N120」などと示してあるのは、歪の方向が北から120度東方向に回転していることを示す。水位補正值(corrected)は、潮汐解析プログラムBAYTAP-Gによって、気圧・潮汐・不規則ノイズの影響を除去した結果である。なお、tkz・ysk・yst1・yst2およびyst3は地上より上に水位が来るので、井戸口を密閉して水圧を測定し、それを水位に換算している。hksではケーシングを二重にして、外管で浅い方の地下水位（hks-o）を、内管で深い方の地下水位（hks-i）をそれぞれ測定していたが、今はhks-iのみ測定を行なっている。hrbの地下水位の短期的な上下変化は口元から雨が流れ込んだためと思われる（第3図）。obkは、2014年2月に観測を終了した（第4図）。

これらのデータ(グラフ等)は、<https://www.gsj.jp/wellweb/>で公開されている。

(小泉尚嗣・北川有一・高橋誠・佐藤努・松本則夫・板場智史・落唯史・桑原保人・木口努)

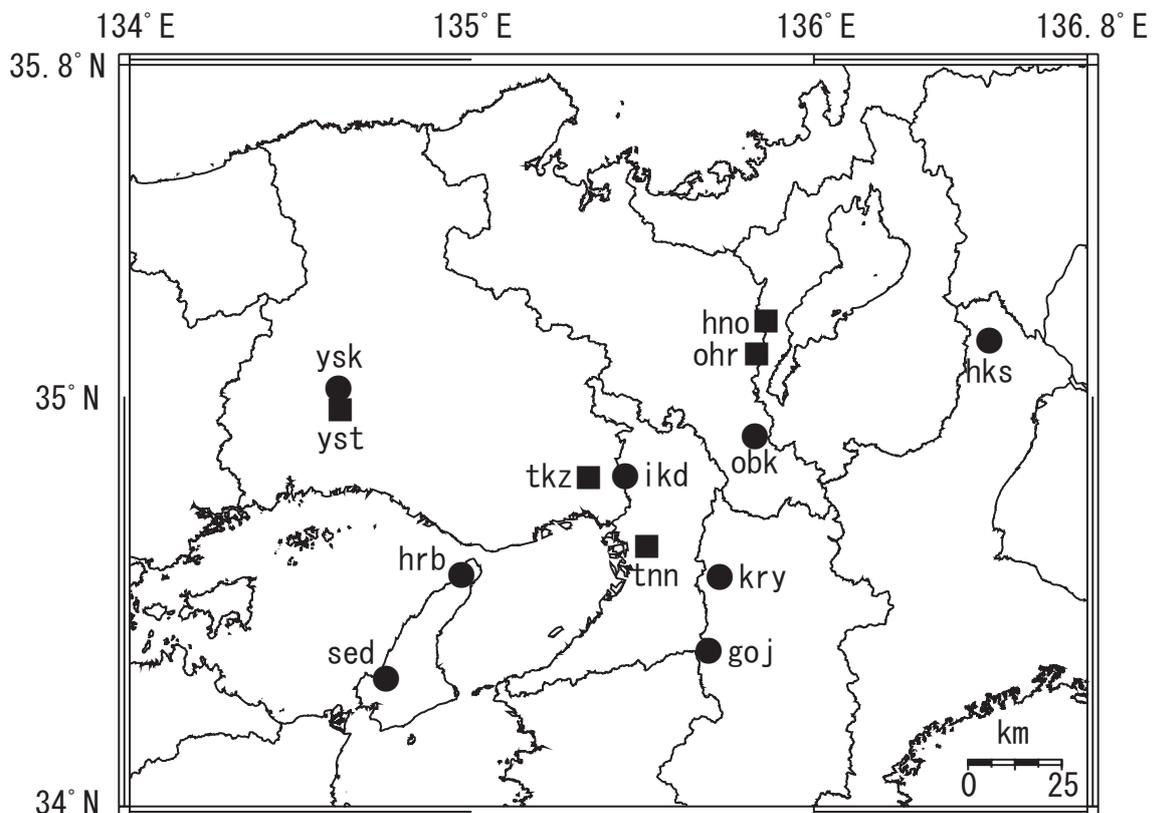


Fig. 1 観測点分布図（●・■）。●は地下水のみの観測点で、■はボアホール型歪計を併設している観測点。

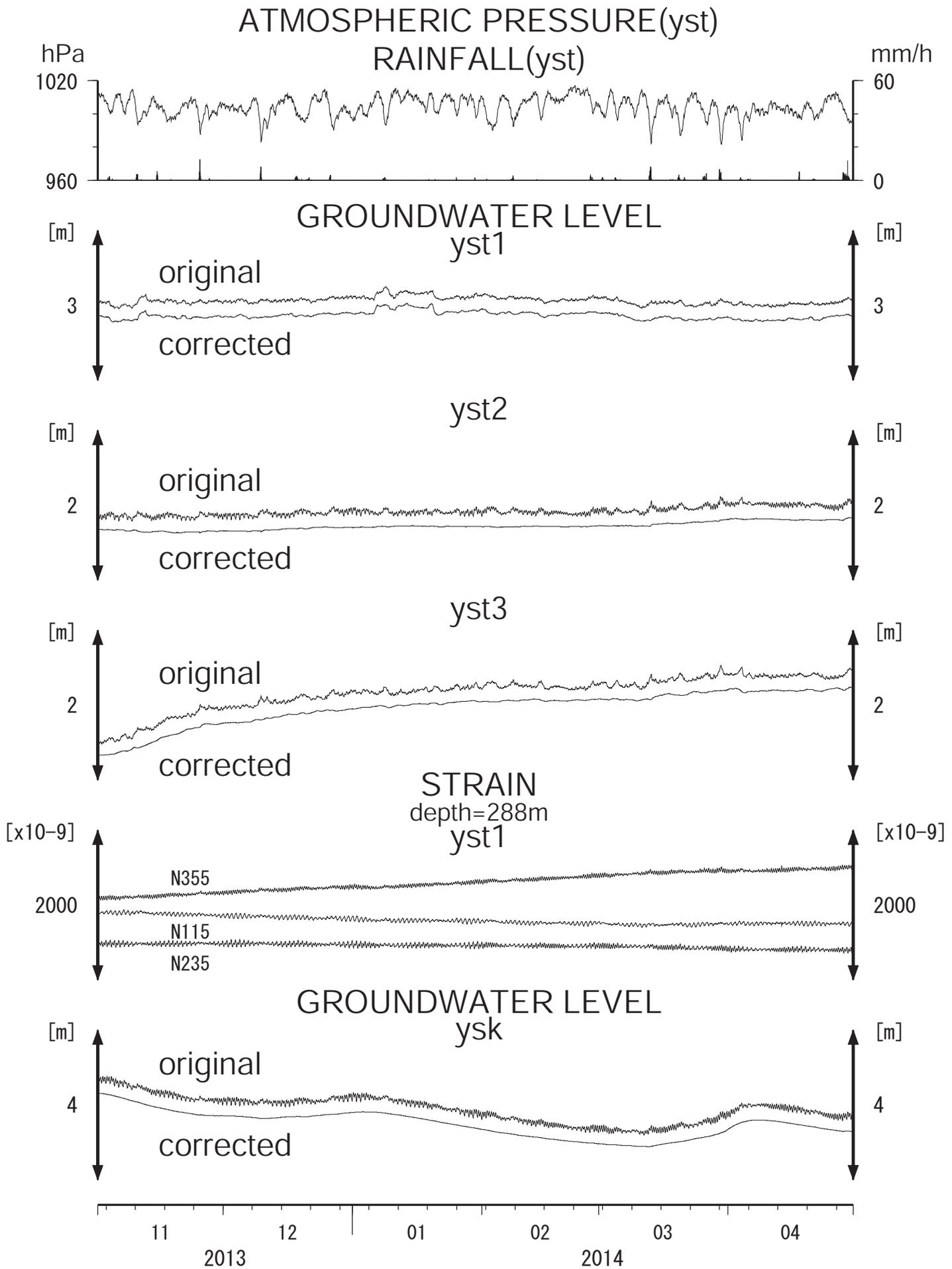


Fig.2

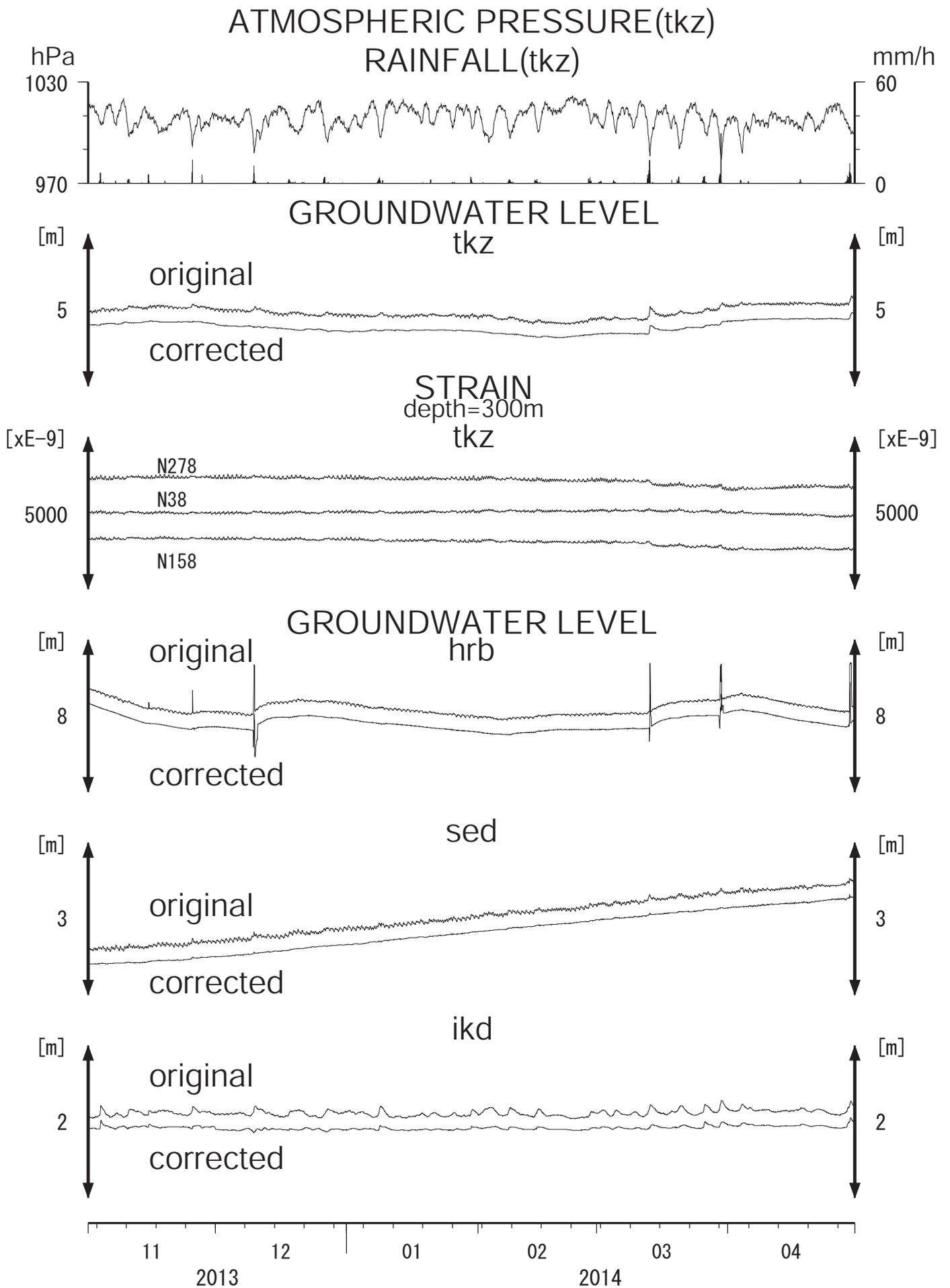


Fig.3

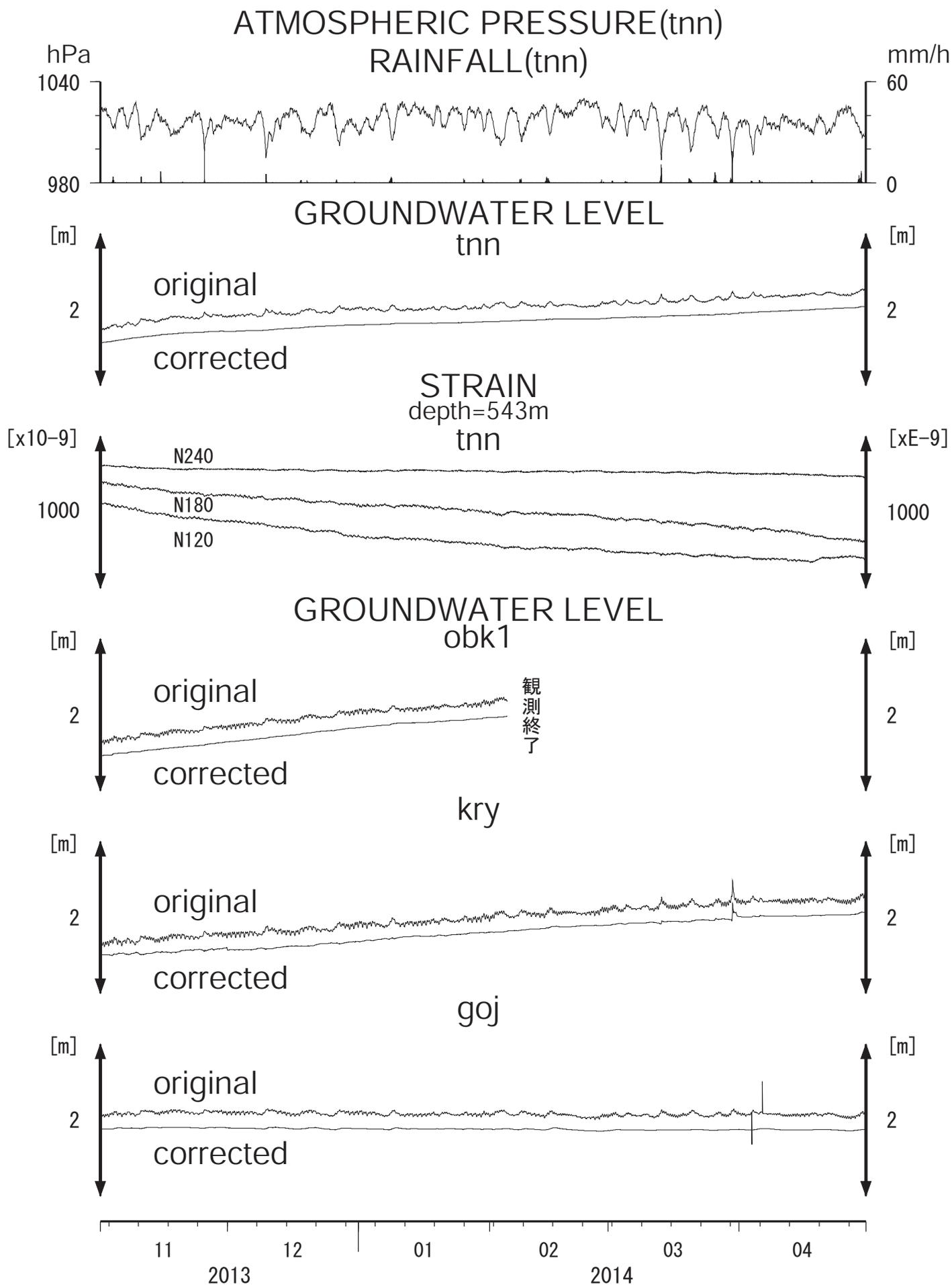


Fig.4

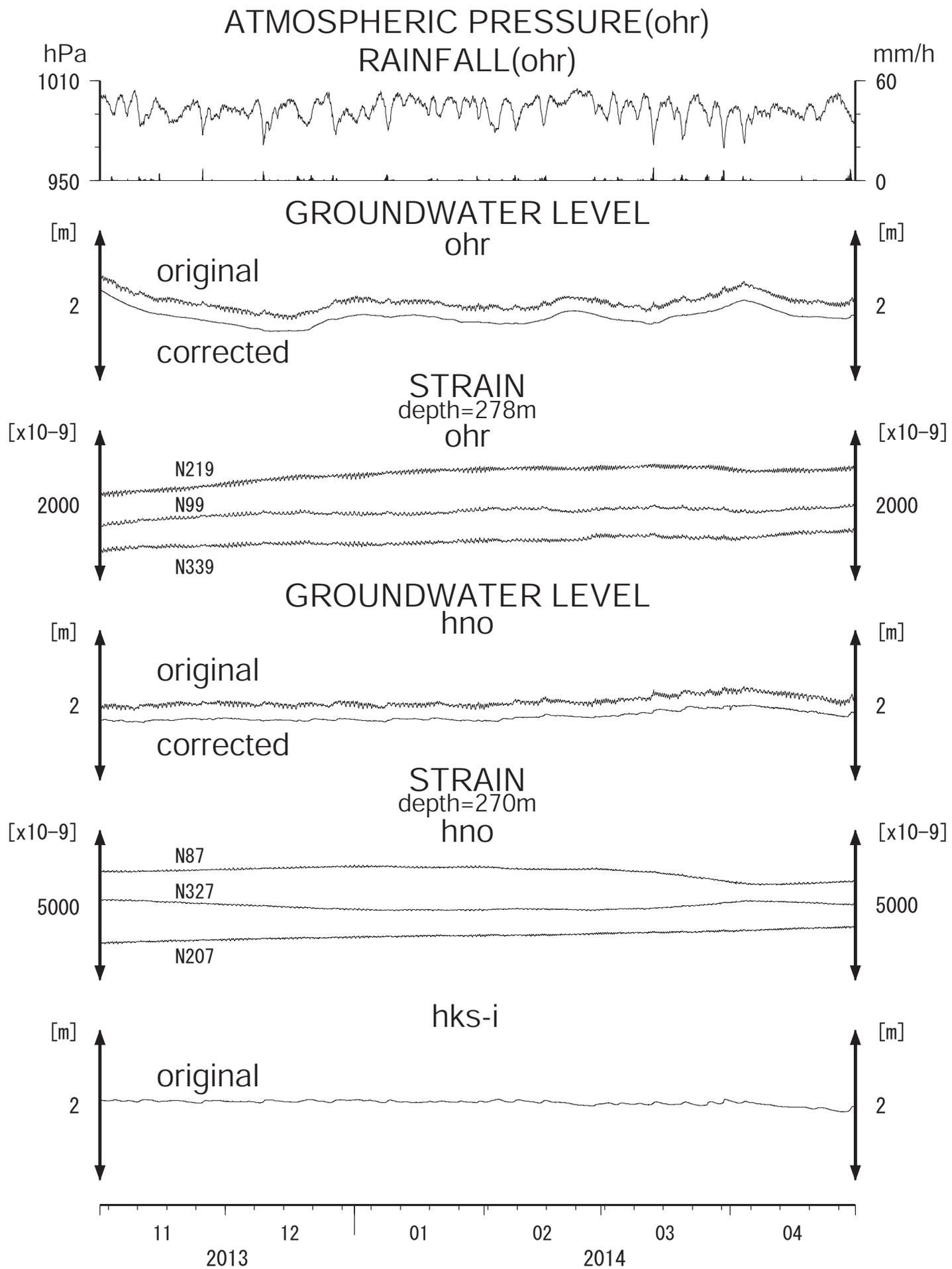


Fig.5

鳥取県・岡山県・島根県における温泉水・地下水変化（2013年11月～2014年4月）

鳥取大学工学部・産業技術総合研究所

1. はじめに

鳥取県・島根県・岡山県は温泉が多く、その所在も地震活動と関連していると考えられる。この地方の特徴を生かし、国際ロータリー第2690地区、鳥取県西部地震義援金事業の一環として、温泉水の時間変化を観測網を山陰地方（鳥取県西部地震周辺及び鳥取県東部・岡山県北部地域）に整備し、地震活動との関連を調べている。

2. 観測

現在観測を行なっている地点は7点である（第1図）。観測方法としては、温泉井に水位計や温度計（分解能：1/100℃）を設置し、測定値をデータロガーにいったん収録した後、観測センター（鳥取大学工学部）へ電話回線を利用して転送する。観測センターには、データの回収・記録・解析システムを設置し、温泉データを地震データ等と比較して関係を調べる。解析の結果は、速報として観測センターのホームページで公開している（http://www.geosd.jp/onsen_k/）。

水位・水温の測定インターバルは10秒で1分間の平均値を記録している。温度センサーは、事前の温度検層により、湯谷温泉等を除いて、最も温度変化の大きい位置（深さ）に設置している（鳥取温泉175m、岩井温泉150m、三朝温泉25m、奥津温泉130m等）。なお、湯谷（第1図の6）では、2012年度からデータを現地集録に切り替えている。

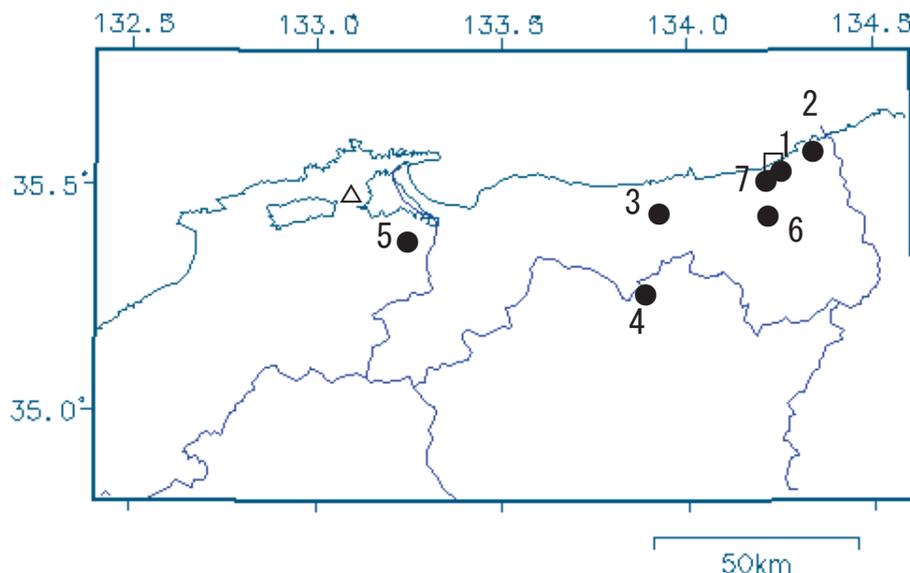
3. 結果（第2～4図）

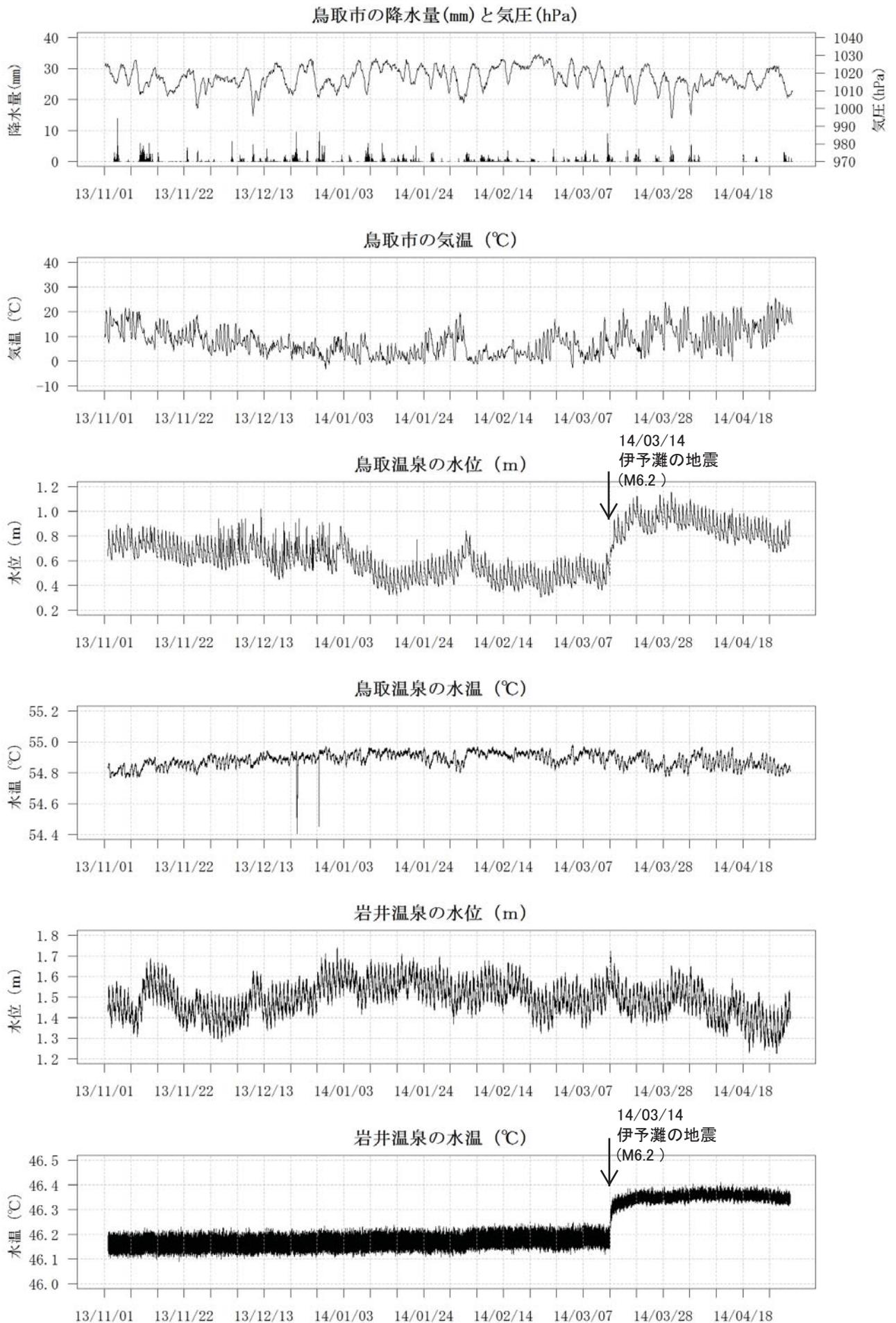
結果（原則として1時間値）を第2～4図に示す。気圧や気温の記録は、鳥取や松江の気象台の測定値を用いている。吉岡温泉の水温は46～47℃と39～41℃を行き来する変化を以前から繰り返しているがその原因は不明である（第3図）。岩井温泉や鷺の湯温泉の水位は、降雨によって上昇することがある。

2013年11月～2014年4月の間に、第1図の範囲内（北緯34.8～35.8度、東経132.4～134.6度）で深さ30km以浅でM4以上の地震はない。観測点周辺に震度2以上の揺れをもたらした地震は、2014年3月14日の午前2時6分頃に発生した伊予灘の地震（M6.2、深さ78km、観測点周辺の震度は2-4）がある。この地震の後に、鳥取温泉（図1の1）の水位、岩井温泉の水温、鷺ノ湯温泉の水位・水温に変化があった（野口竜也・香川敬生・西田良平・小泉尚嗣）。

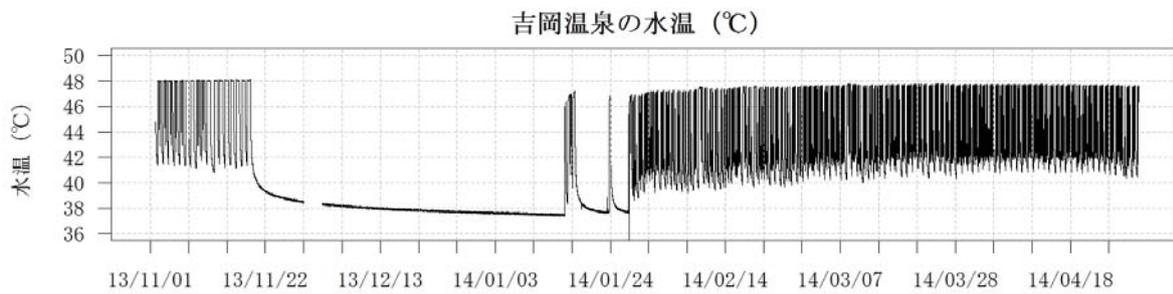
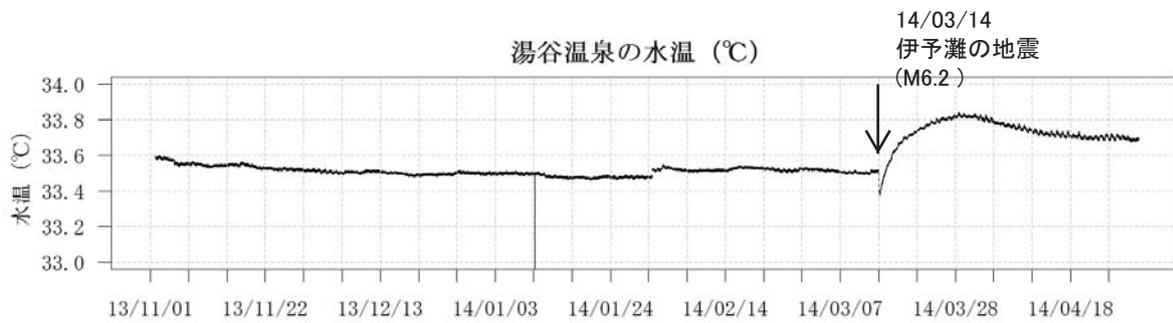
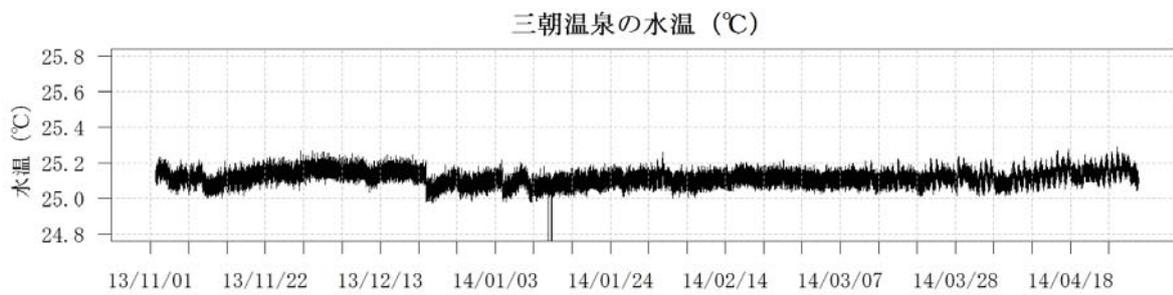
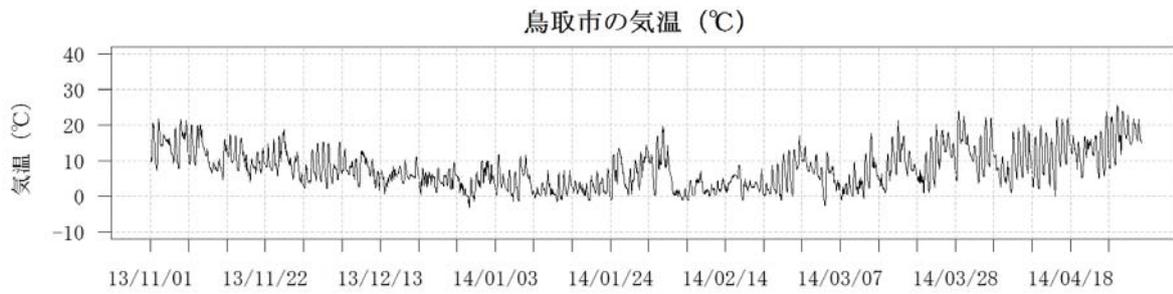
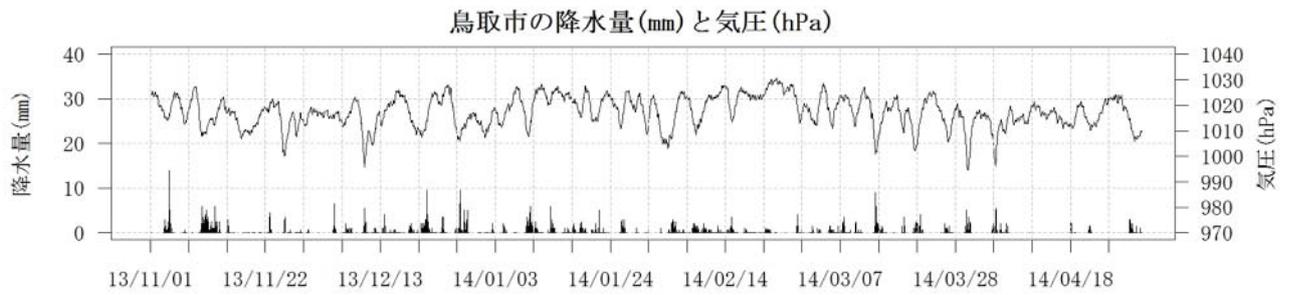
第1図 鳥取気象台（□）と松江気象台（△）および温泉水・地下水観測点（●）の分布。

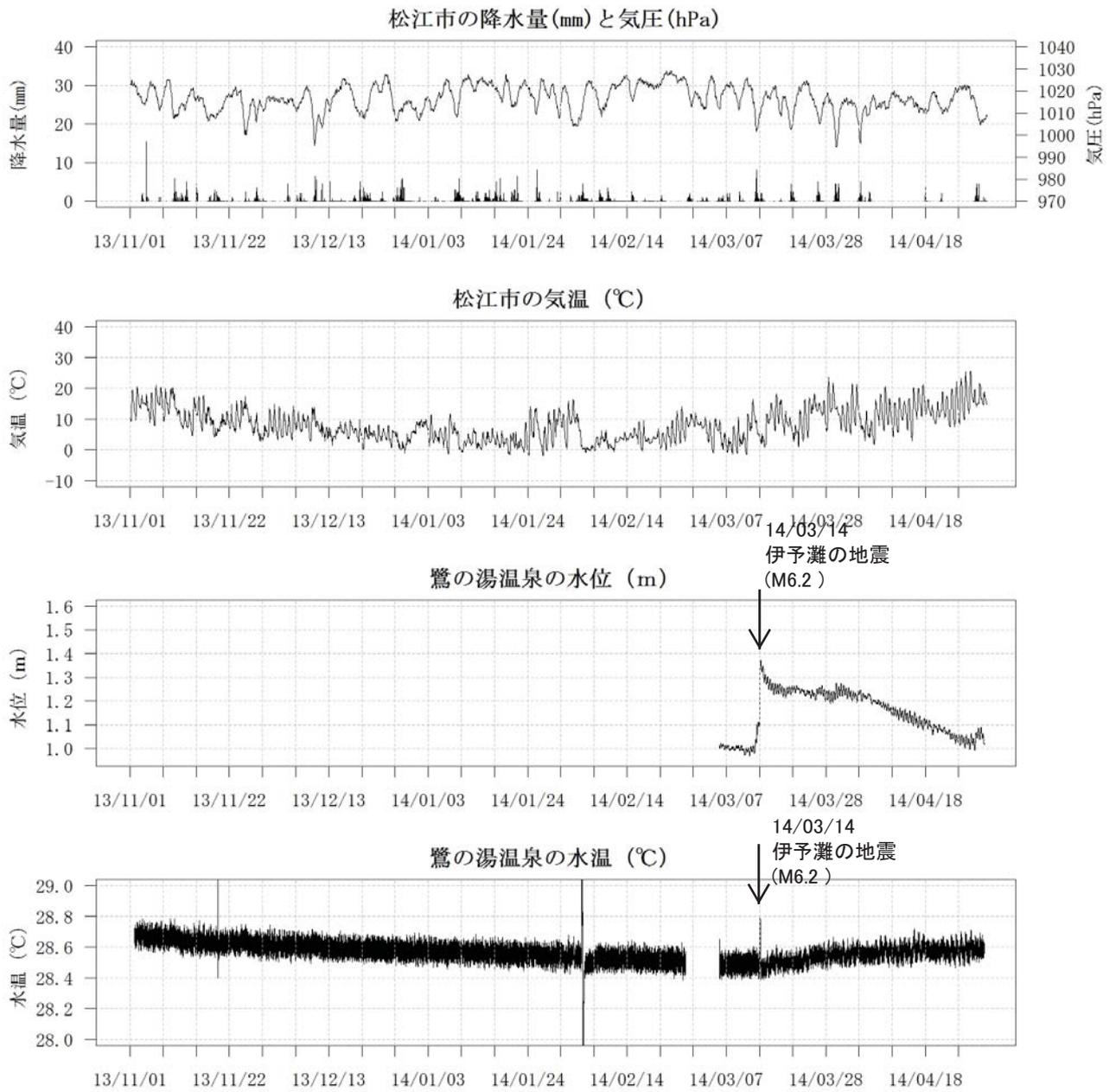
1：鳥取温泉， 2：岩井温泉， 3：三朝温泉， 4：奥津温泉， 5：鷺の湯温泉，
6：湯谷温泉， 7：吉岡温泉





第2図





第4図

神奈川県西部地域の地下水位観測（2014年2月～2014年4月）

神奈川県温泉地学研究所・産業技術総合研究所

1. はじめに

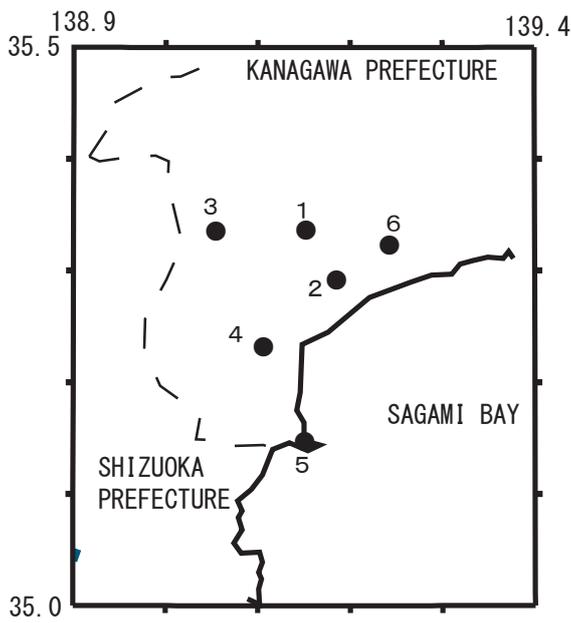
神奈川県温泉地学研究所では、神奈川県西部地震の予知研究の一環として、第1図・第1表に示した6箇所にて地下水位観測施設を整備し地下水位の連続観測を行っている。2014年2月-2014年4月の期間に重点をおいた観測結果を報告する。

2. 観測

第1図の6箇所の観測点では、地下水位の他、気圧・降水量も1分サンプリングで観測を行っている。得られたデータは、1日1回テレメータにて温泉地学研究所に送信される。

3. 結果（第2～3図）

結果を第2図（原則1時間値、真鶴・二宮のみ24時間平均値）と第3図（原則0時の瞬時値）に示す。第1図の範囲内（北緯35～35.5度、東経138.9～139.4度）で、2014年2月～2014年4月に深さ30km以浅でM4以上の地震はない。同期間で、上記以外の地震で観測点周辺で震度2以上の揺れをもたらしたものは表2に示す2つである。1の地震の発生時に、大井観測井戸（第1図の1）で約4cmの水位の上昇が観測された（第2図）（板寺一洋・原田昌武・小泉尚嗣）。



1図 地下水観測点の分布 (●) 10km

- 1：大井, ●2：小田原, ●3：南足柄, ●4：湯本,
- 5：真鶴, ●6：二宮.

参考論文

横山尚秀・他, 1995, 神奈川県西部地震予知のための地下水位観測施設と地下水位解析, 温泉地学研究所報告, 26, 21-36.

表1 観測点の情報

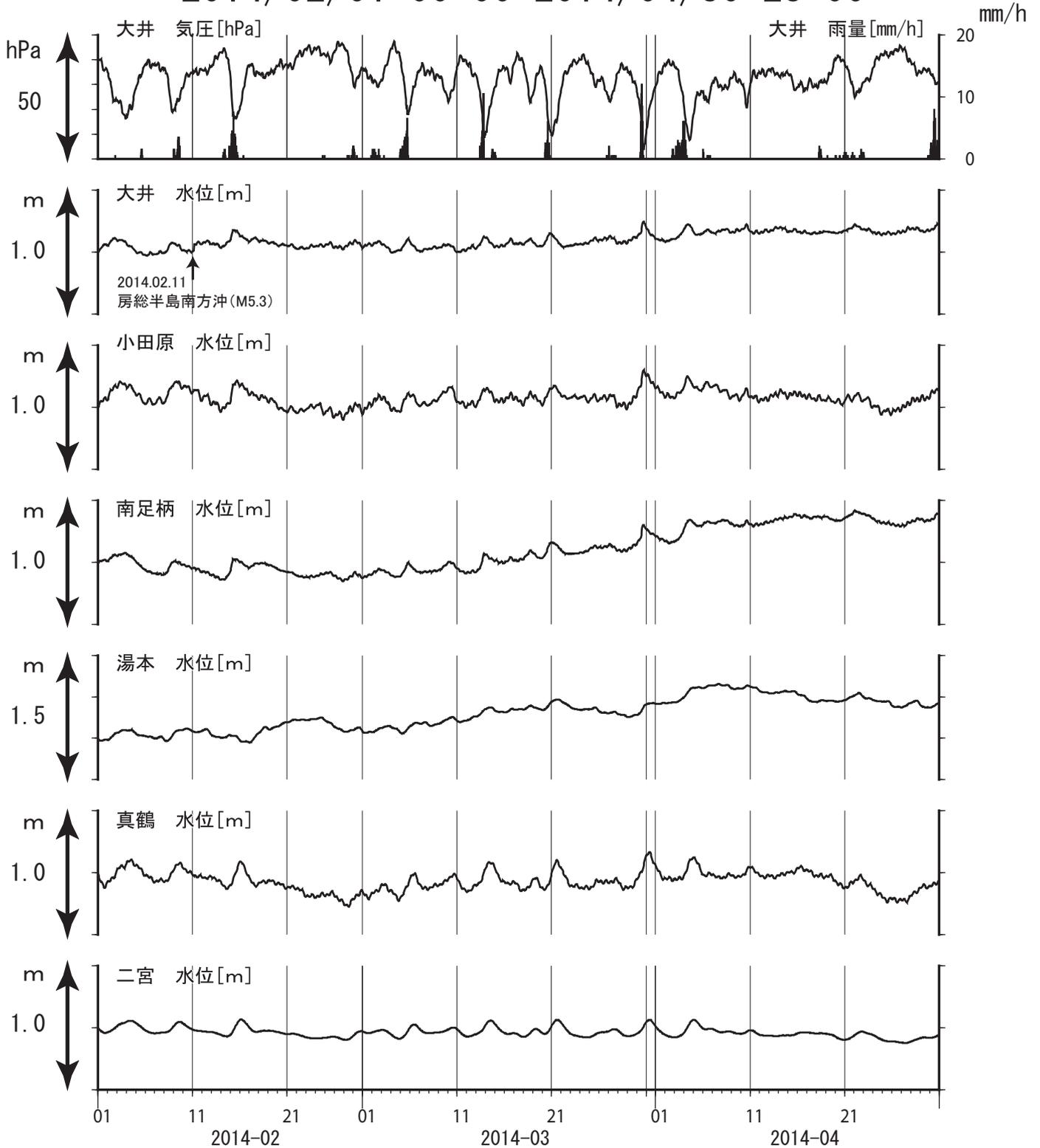
観測点	標高 (m)	井戸深さ (m)	スクリーン 深さ (m)	センサー 深度 (m)
大井	47	300	270-300	15
小田原	22	300	270-300	15
南足柄	143	150	120-150	32
湯本	67	300	250-300	20
真鶴	40	300	250-300	43
二宮	51	500	450-500	13

表2 観測点に震度2以上の揺れを与えたと推定される地震

No.	地震発生日時	地震名称	規模	深さ (km)	観測点 震度
1	2014/2/11 4:14	房総半島南方沖の地震	M5.3	91	1-2
2	2014/4/18 7:37	茨城県南部の地震	M4.7	49	1-2

神奈川県西部地域の地下水位観測 中期(時間値)

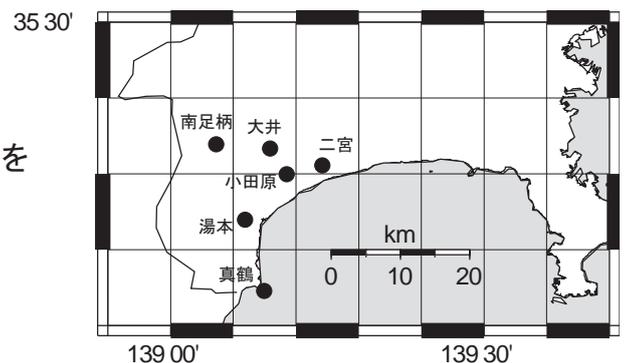
2014/02/01 00:00-2014/04/30 23:00



コメント：特記事項なし

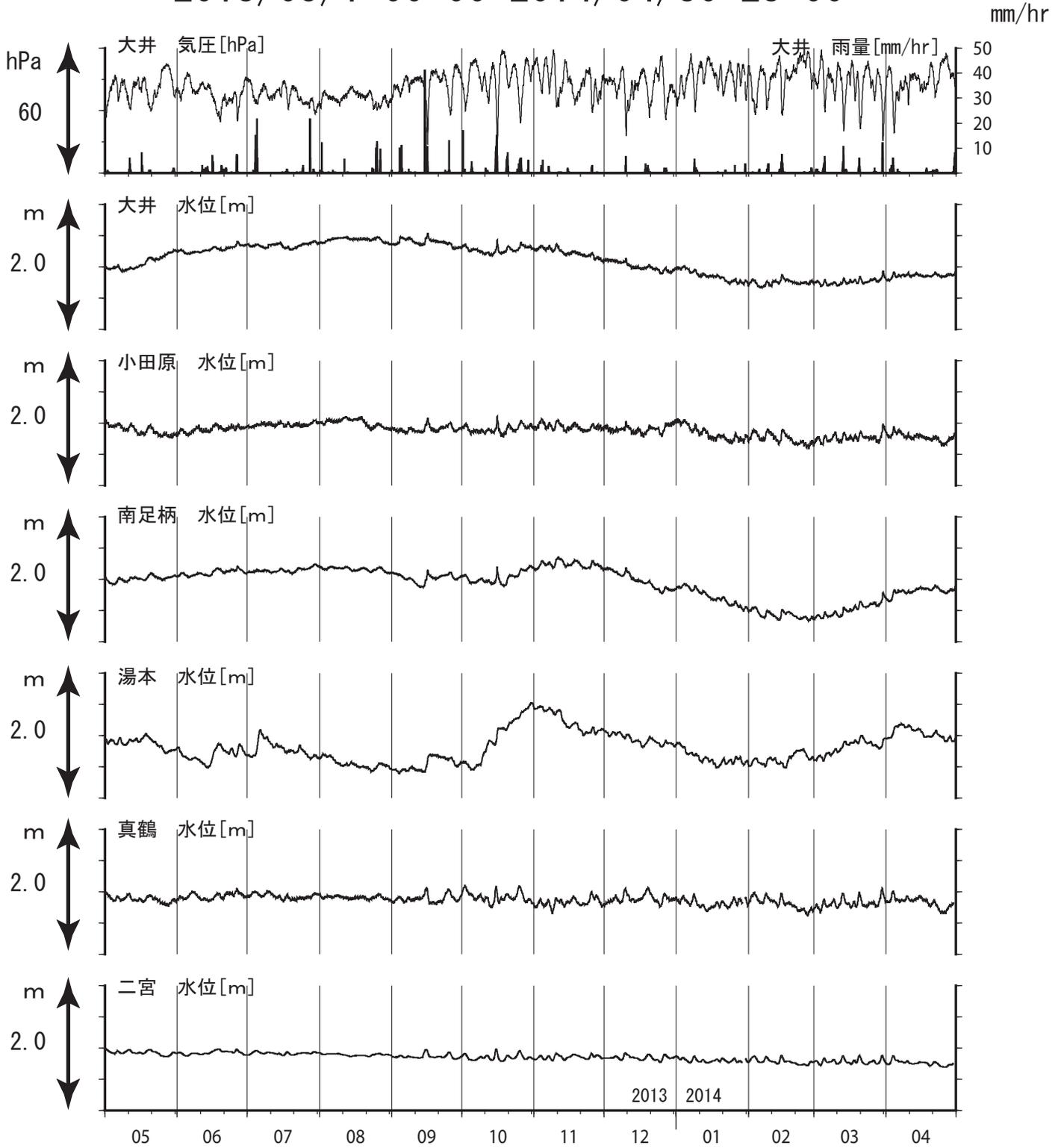
真鶴・二宮は潮汐の影響が大きいため日平均値を示している。他は一時間値(生データ)

第2図



神奈川県西部地域の地下水位観測 長期

2013/05/1 00:00-2014/04/30 23:00



コメント：特記事項なし

真鶴・二宮以外は毎正時の瞬時値を示している。

第3図

